

参考資料

日置市健康実態調査（元気な市民づくり運動）報告書

第2次「日置市『元気な市民づくり運動』推進計画」策定の主な経過

日置市健康づくり推進条例

日置市健康づくり推進協議会規則

日置市健康づくり推進協議会委員名簿

日置市健康づくり推進協議部会名簿

○ 日置市健康実態調査（元気な市民づくり運動）報告書

日置市健康実態調査 （元気な市民づくり運動） 報告書



平成 28 年 3 月

日置市 市民福祉部 健康保険課

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、本市が平成 18 年度に策定した「日置市元気な市民づくり運動推進計画」の最終評価と、新たな計画書を策定するに当たり、地域住民の生活習慣や健康課題等を把握するための基礎資料とする目的で実施しました。

2 調査対象

日置市に居住する 20 歳から 74 歳の男女

3 調査方法

郵送法及び訪問回収法の併用

4 調査期間

平成 27 年 9 月～10 月

5 調査票の回収状況

発送数(人)	回収数(人)	回収率(%)
4,500	3,747	83.3

6 分析方法

委託による分析（単純集計・クロス集計）

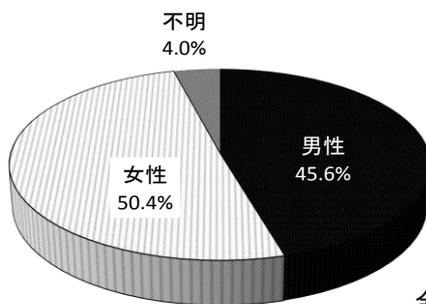
7 調査結果利用上の注意

- (1) 集計は小数点以下第 2 位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- (2) 2 つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率は 100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示す N は、比率算出上の基数（標本数）である。
- (4) 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合があるので、詳細は巻末の調査票を参照のこと。

1 対象者の属性

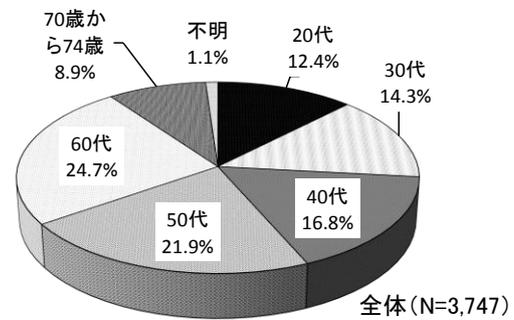
- ・性別は、「男性」が45.6%、「女性」が50.4%であり、『住民基本台帳人口（平成27年10月）』の構成比とほぼ同様である。
- ・年齢をみると、「60代」（24.7%）が最も多く、以下、「50代」（21.9%）、「40代」（16.8%）、「30代」（14.3%）、20代（12.4%）と続き、「70歳から74歳」（8.9%）が最も少ない。
- ・職業をみると、「会社員」が32.9%で最も多く、以下、「パート・アルバイト」（17.6%）、「主婦」（15.3%）、「無職」（13.1%）、「自営業」（8.6%）と続く。
- ・家族構成では、「親子2世代」（57.8%）が過半数を占め、「夫婦のみ」（24.3%）が続く。
- ・医療保険は、「社会保険、共済組合の本人」が44.2%で最も多い。
- ・居住地域は、「伊集院地域」が45.6%で最も多い。

【性別】



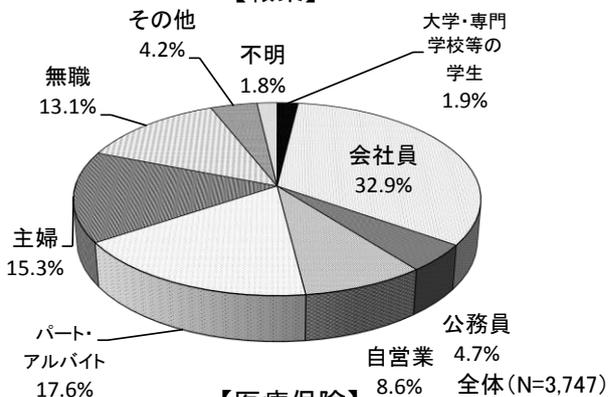
全体(N=3,747)

【年代】



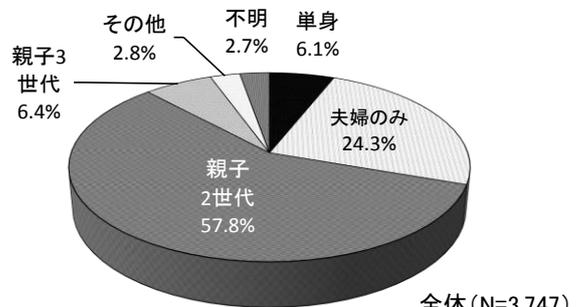
全体(N=3,747)

【職業】



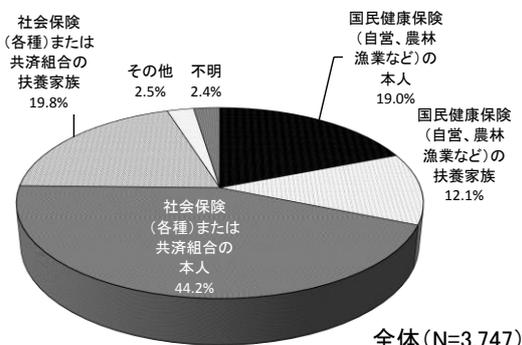
全体(N=3,747)

【家族構成】



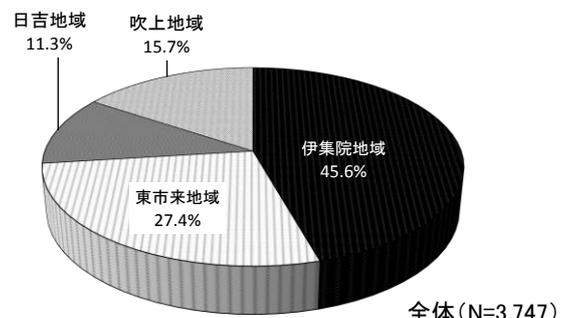
全体(N=3,747)

【医療保険】



全体(N=3,747)

【居住地】



全体(N=3,747)

2 最近の状況について

(1) 健康状態

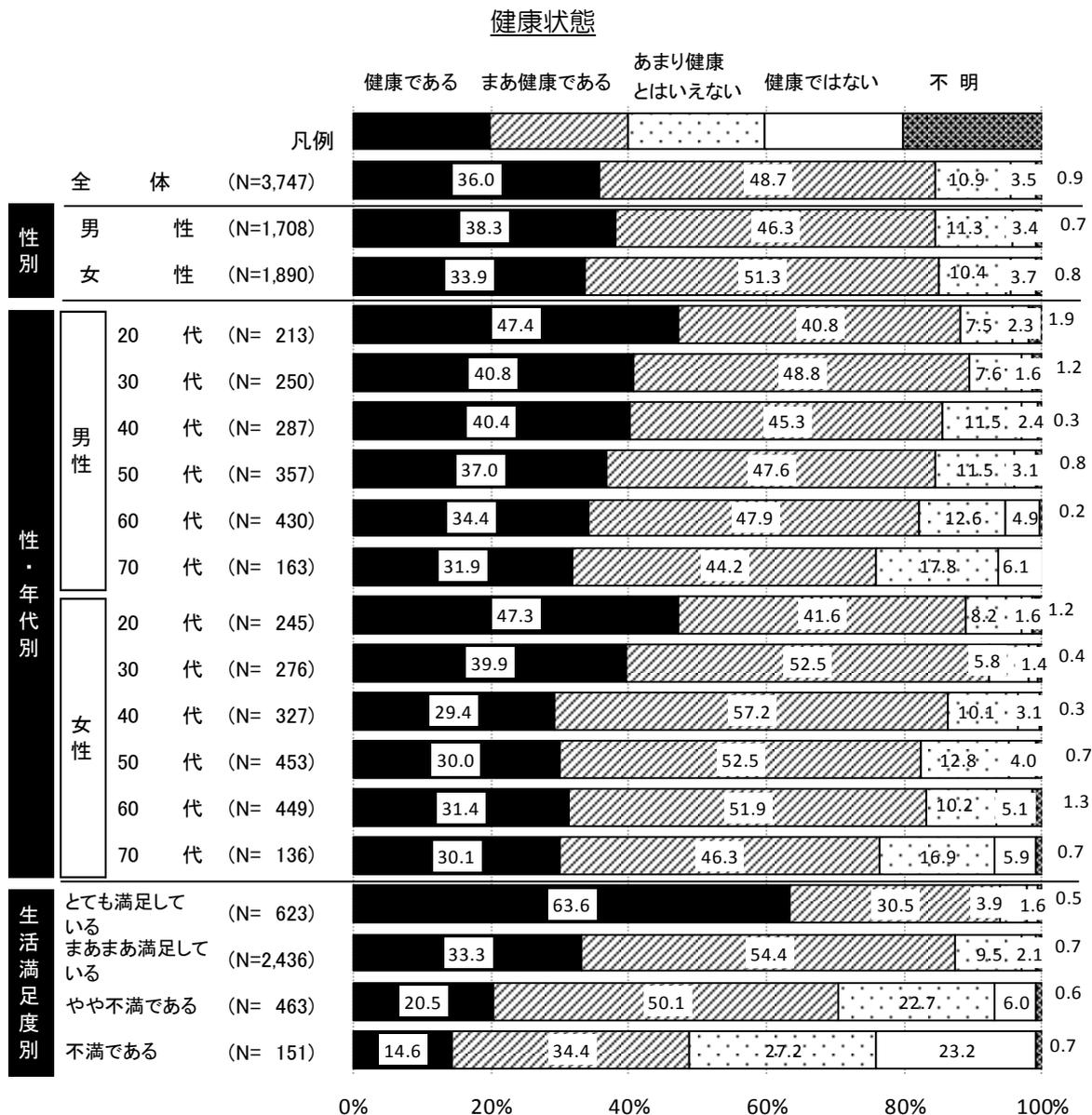
【問1】日頃健康であると感じていますか。1つ選んで○をつけてください。

日頃の健康状態を尋ねたところ、「健康である」が36.0%、「まあまあ健康である」が48.7%と、約85%の人が健康だと回答している。前回調査（22年調査）より4.2ポイント増加した。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

性・年代別にみると、男女とも年代が高くなるほど健康に不安を持つ人が多くなる傾向にある。

生活満足度別にみると、生活に満足している人ほど「健康である」と答える人が多く、生活満足度と健康状態の相関関係がうかがえる。



(2) 規則正しい生活

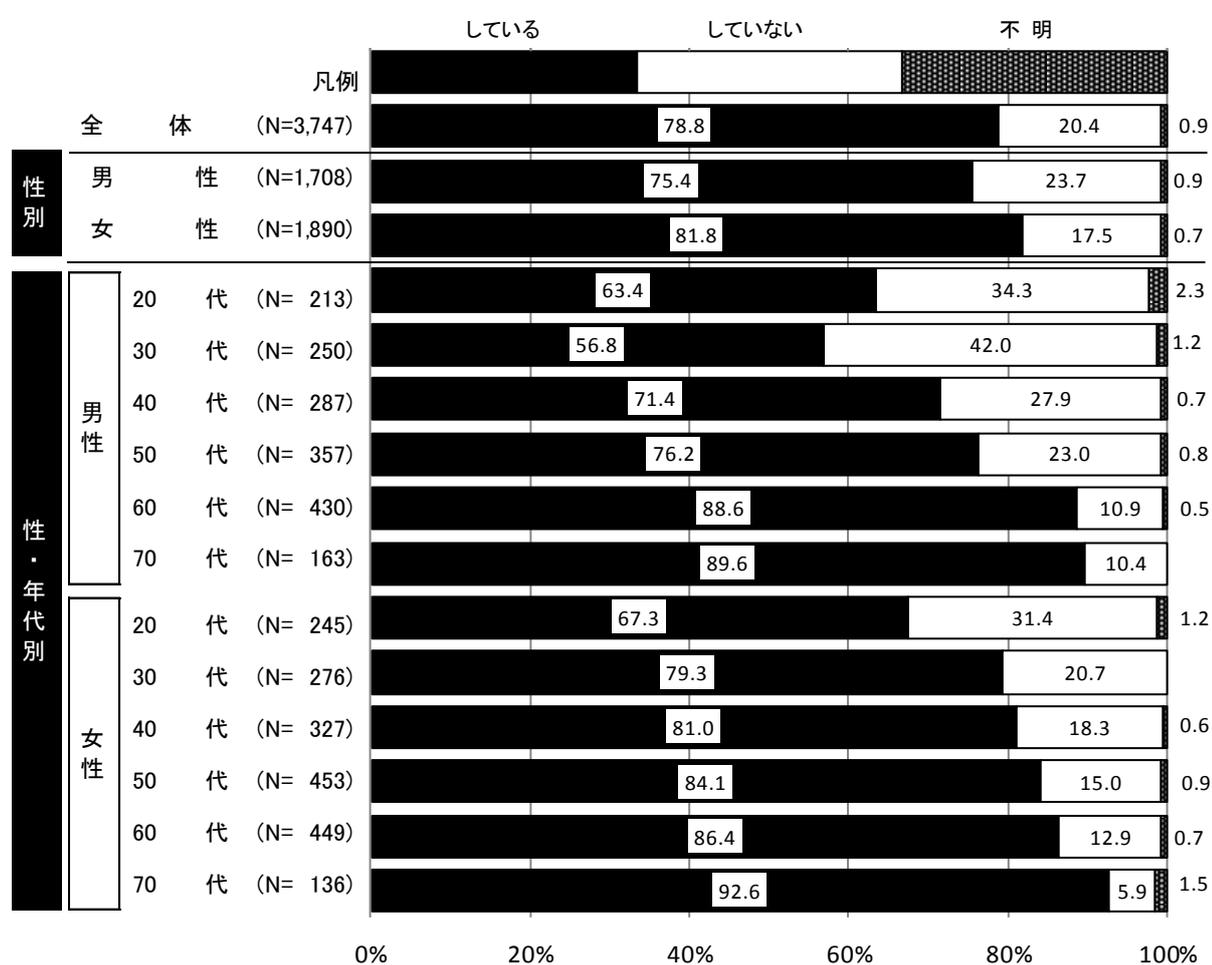
【問2】規則正しい生活をしていますか。どちらかに○をつけてください。

規則正しい生活をしているかを尋ねたところ、「している」が78.8%、「していない」が20.4%と、約5人に1人は規則正しくないと自覚している。前回調査よりも「している」割合が4.7ポイント増加した。

性別にみると、男性が女性に比べ規則正しい生活をしていないと回答している。

性・年齢別にみると、若い世代の方が規則正しい生活をしていない傾向がみられる。

規則正しい生活



(3) 日頃の体重計測

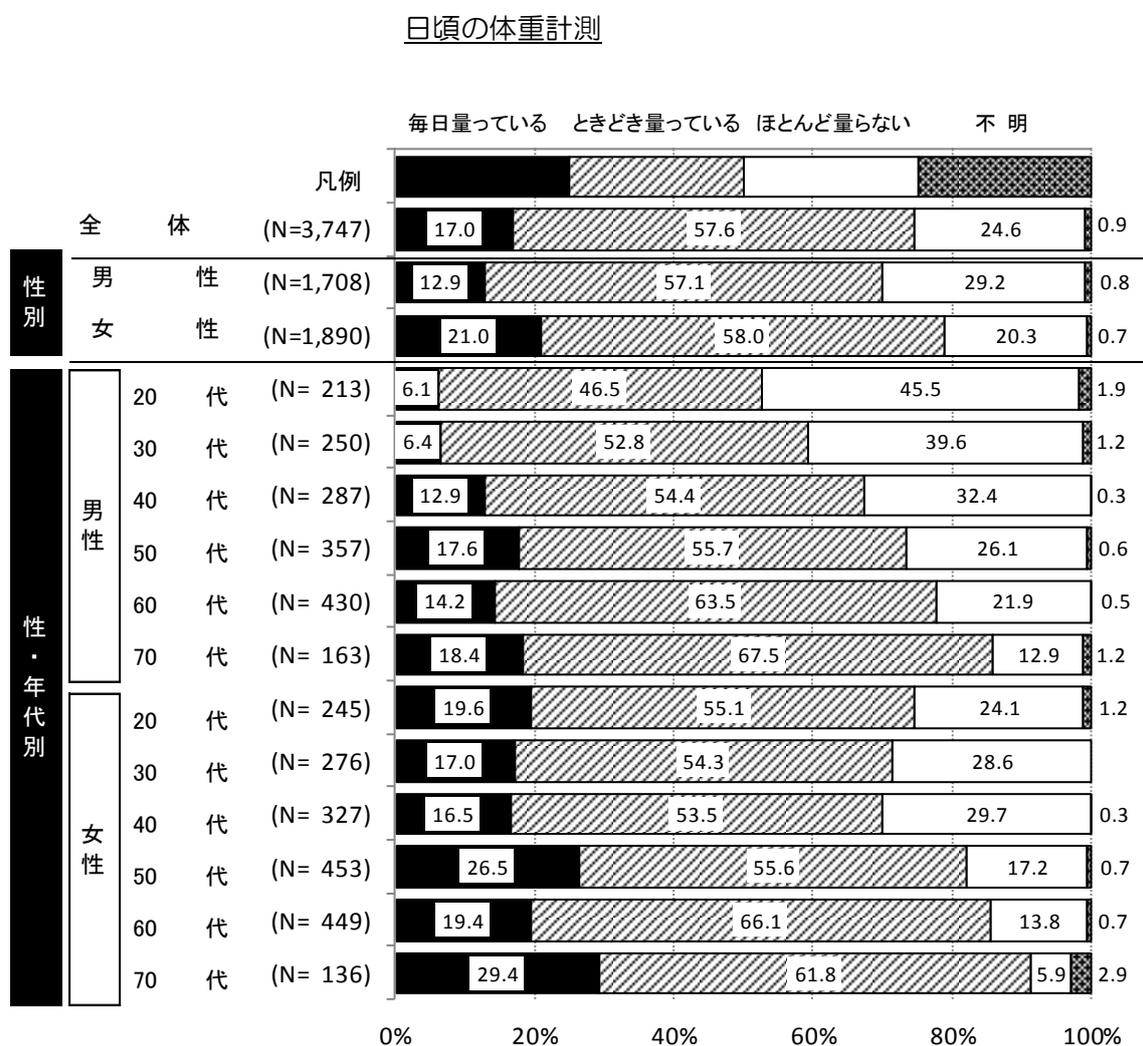
【問3】日頃、自分の体重を量っていますか。1つ選んで○をつけてください。

日頃、体重計測をしているかを尋ねたところ、「毎日量っている」が17.0%、「ときどき量っている」が57.6%、「ほとんど量らない」が24.6%と、毎日実施する人は2割に満たない。

前回調査と比べると、「ほとんど量らない」割合が2.8ポイント増加している。

性別にみると、女性が男性に比べ体重計測する傾向が強い。

性・年代別にみると、男女とも年代が高くなるほど体重計測する割合が高くなる一方、男性の若い世代で「ほとんど量らない」割合が高くなっている。

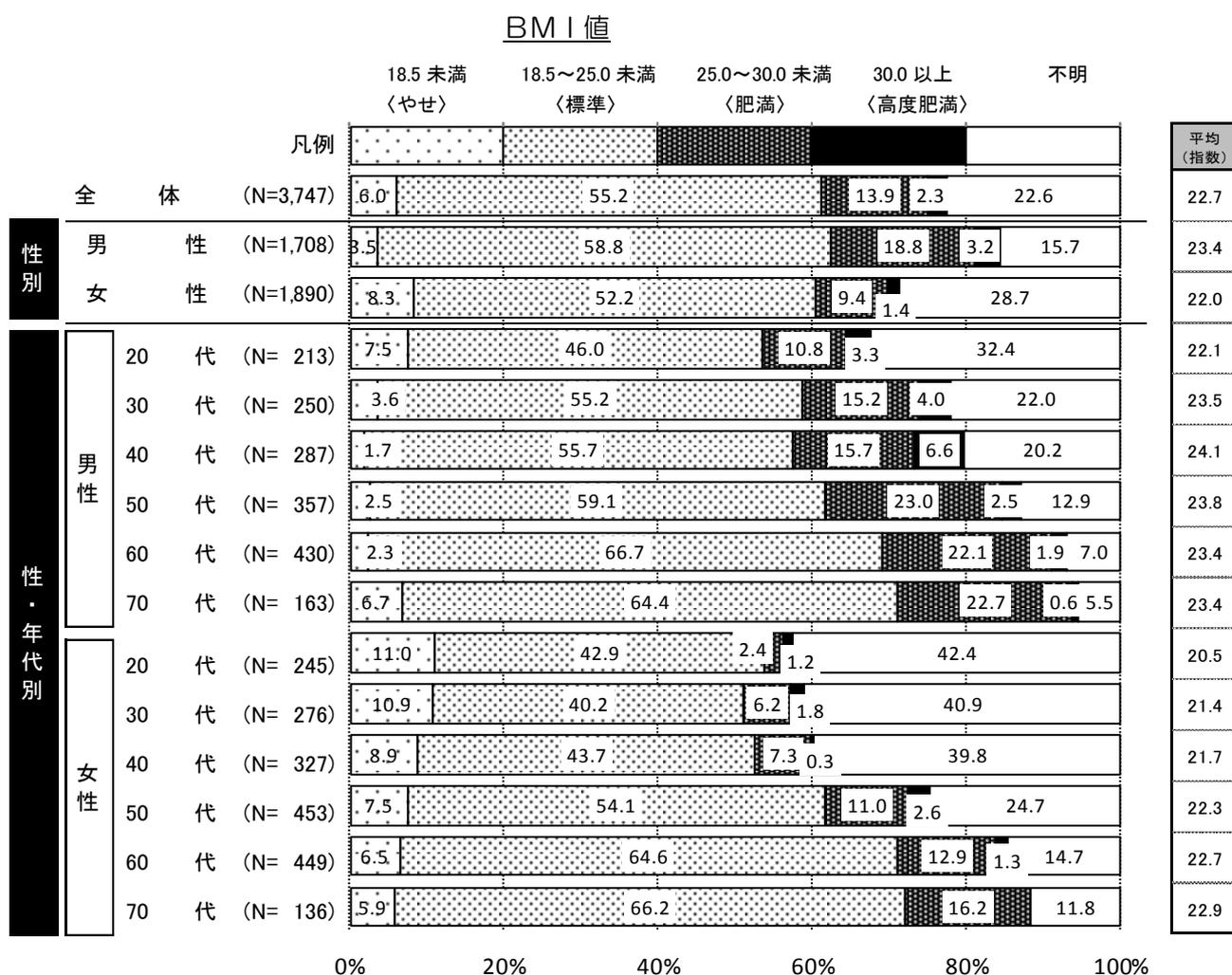


(4) 身長、体重、胴回り (BMI とメタボリック)

【問4】差支えなければ、あなたの身長と体重、腹囲(おへそ回り)を教えてください。

身長と体重の関係から「BMI 値 (体格指数) を算出したところ、以下のような結果が得られた。前回調査と比べると、「高度肥満 (30.0 以上)」の割合が増加している。

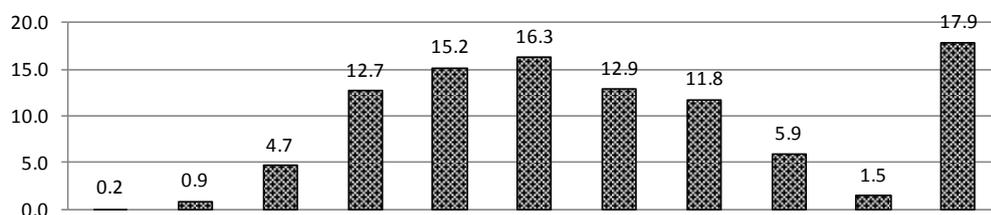
- ・「やせ (18.5 未満)」・・・6.0%
- ・「標準 (18.5～25.0 未満)」・・・55.2%
- ・「肥満 (25.0～30.0 未満)」・・・13.9%
- ・「高度肥満 (30.0 以上)」・・・2.3%
- ・「不明」・・・22.6%



また、「メタボリックシンドローム」の診断基準 (= 「男性 : 85cm 以上、女性 : 90cm 以上」) である胴回りをみると、男性の 29.2%、女性の 5.1%がその対象となる。

身 長

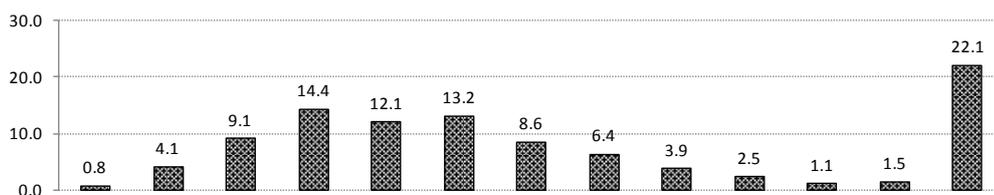
全体(N=3,747)



(単位: %)		サンプル数	140cm未満	140~145cm未満	145~150cm未満	150~155cm未満	155~160cm未満	160~165cm未満	165~170cm未満	170~175cm未満	175~180cm未満	180cm以上	不明	平均(cm)
全体		3,747	0.2	0.9	4.7	12.7	15.2	16.3	12.9	11.8	5.9	1.5	17.9	161.9
性別	男性	1,708	0.0	0.0	0.2	0.9	5.3	16.8	23.5	24.0	12.6	3.2	13.6	168.3
	女性	1,890	0.4	1.6	8.7	23.4	24.3	15.7	3.5	0.6	0.0	0.1	21.6	155.4

体 重

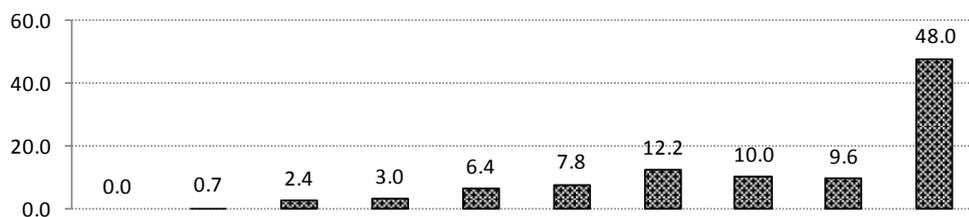
全体(N=3,747)



(単位: %)		サンプル数	40kg未満	40~45kg未満	45~50kg未満	50~55kg未満	55~60kg未満	60~65kg未満	65~70kg未満	70~75kg未満	75~80kg未満	80~85kg未満	85~90kg未満	90kg以上	不明	平均(kg)
全体		3,747	0.8	4.1	9.1	14.4	12.1	13.2	8.6	6.4	3.9	2.5	1.1	1.5	22.4	59.9
性別	男性	1,708	0.2	0.4	2.1	6.7	12.8	18.4	14.5	11.7	7.1	5.2	2.2	3.1	15.6	66.4
	女性	1,890	1.3	7.7	15.3	21.5	11.4	8.2	3.2	1.5	0.9	0.2	0.1	0.1	28.6	53.0

胸 回 り

全体(N=3,747)



(単位: %)		サンプル数	55cm未満	55~60cm未満	60~65cm未満	65~70cm未満	70~75cm未満	75~80cm未満	80~85cm未満	85~90cm未満	90cm以上	不明	平均(cm)
全体		3,747	0.0	0.7	2.4	3.0	6.4	7.8	12.2	10.0	9.6	48.0	81.0
性別	男性	1,708	0.0	0.1	0.2	1.2	4.9	10.4	16.4	15.0	14.2	37.7	84.0
	女性	1,890	0.1	1.3	4.4	4.6	7.7	5.6	8.4	5.4	5.1	57.4	76.8

(5) 適正体重のコントロール

【問5】自分の適性体重を認識したうえで、体重をコントロールしていますか。どちらかに○をつけてください。

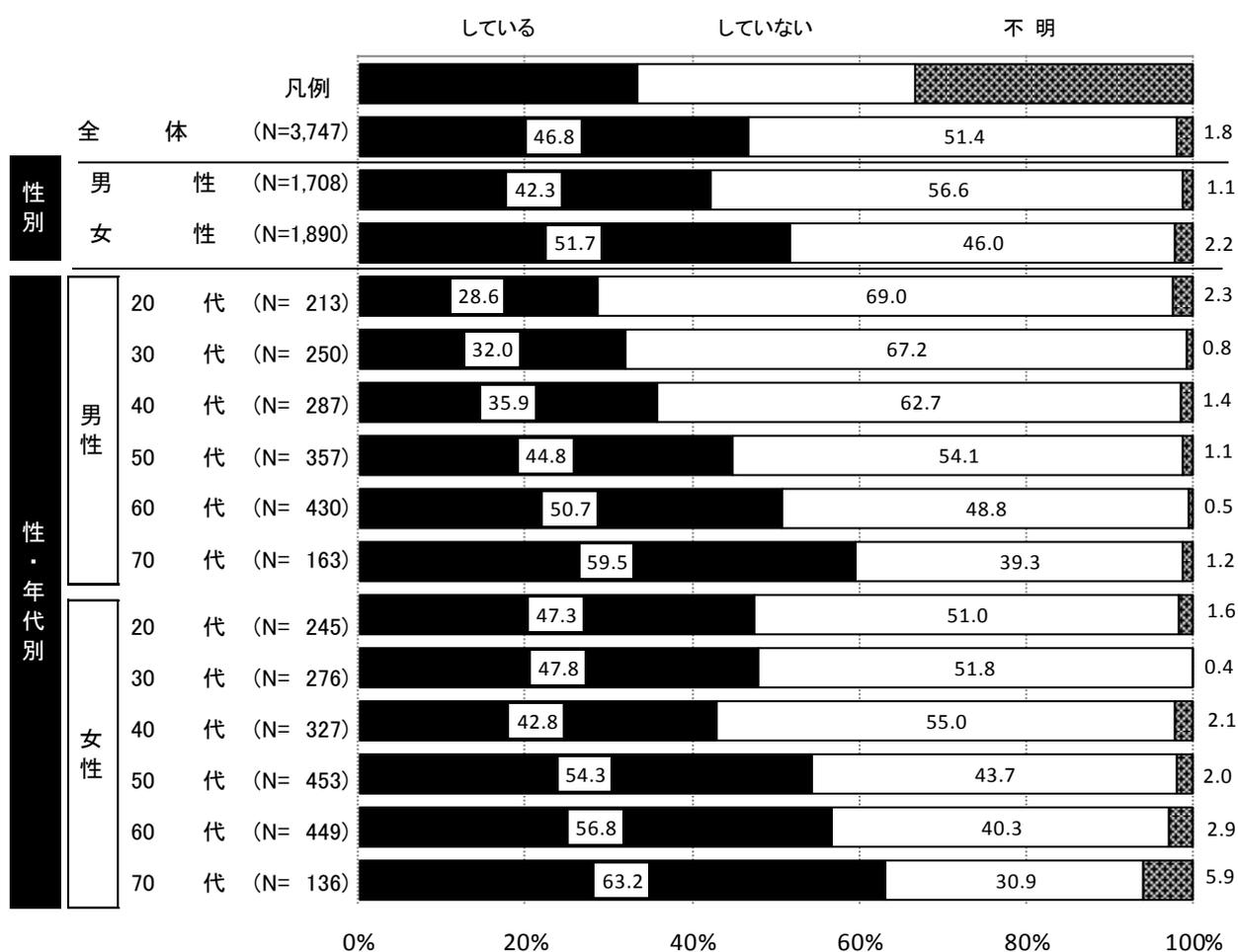
適正体重を認識したうえで体重をコントロールしているかを尋ねたところ、「している」が46.8%、「していない」が51.4%と、コントロールする人は約半数にとどまっている。

前回調査とほぼ同様の結果となった。

性別にみると、女性が男性に比べコントロールする人が多い傾向となった。

性・年代別にみると、若い世代、特に男性の20～40代において適正体重をコントロールする人の割合が40%未満と他の世代より低い。

適正体重のコントロール

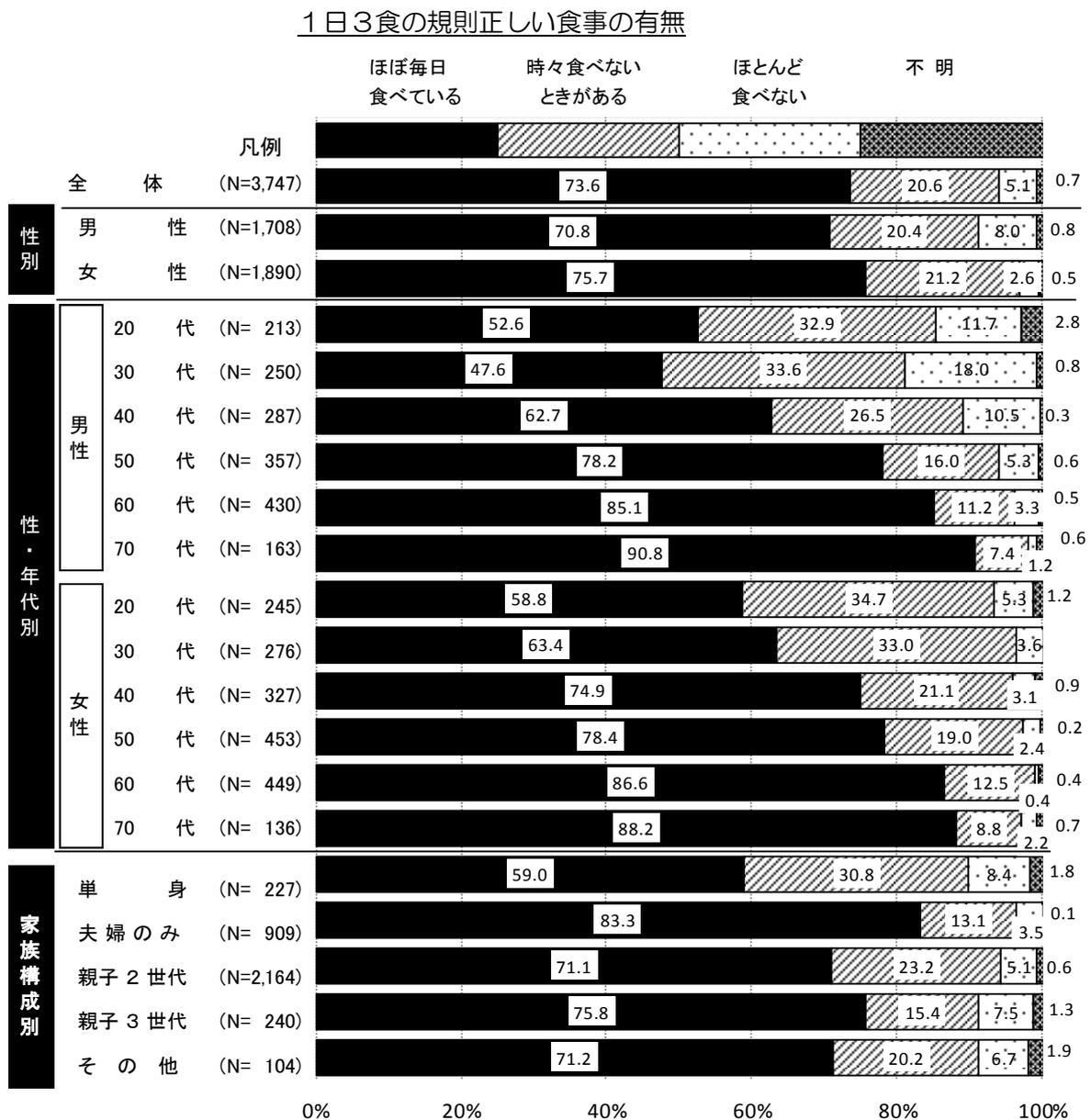


3 栄養・食生活について

(1) 1日3食の規則正しい食事の有無

【問6】1日3食、規則正しく食べていますか。1つ選んで○をつけてください。

1日3食、規則正しい食事を摂っているかを尋ねたところ、「ほぼ毎日食べている」が73.6%、「時々食べないときがある」が20.6%、「ほとんど食べない」が5.1%と、欠食する人が2割以上みられる。前回調査と比べると、「ほぼ毎日食べている」が2.5ポイント増加し、欠食者の割合が低下した。性別にみると、欠食者は男性が女性に比べ多くみられるが、前回調査よりは改善した。性・年代別にみると、男女とも年代が低いほど欠食する人が多く、男性20～30代は約半数を占めた。家族構成別にみると、単身の場合、欠食者が他の属性に比べ多くなっている。



(2) 食べる速さ

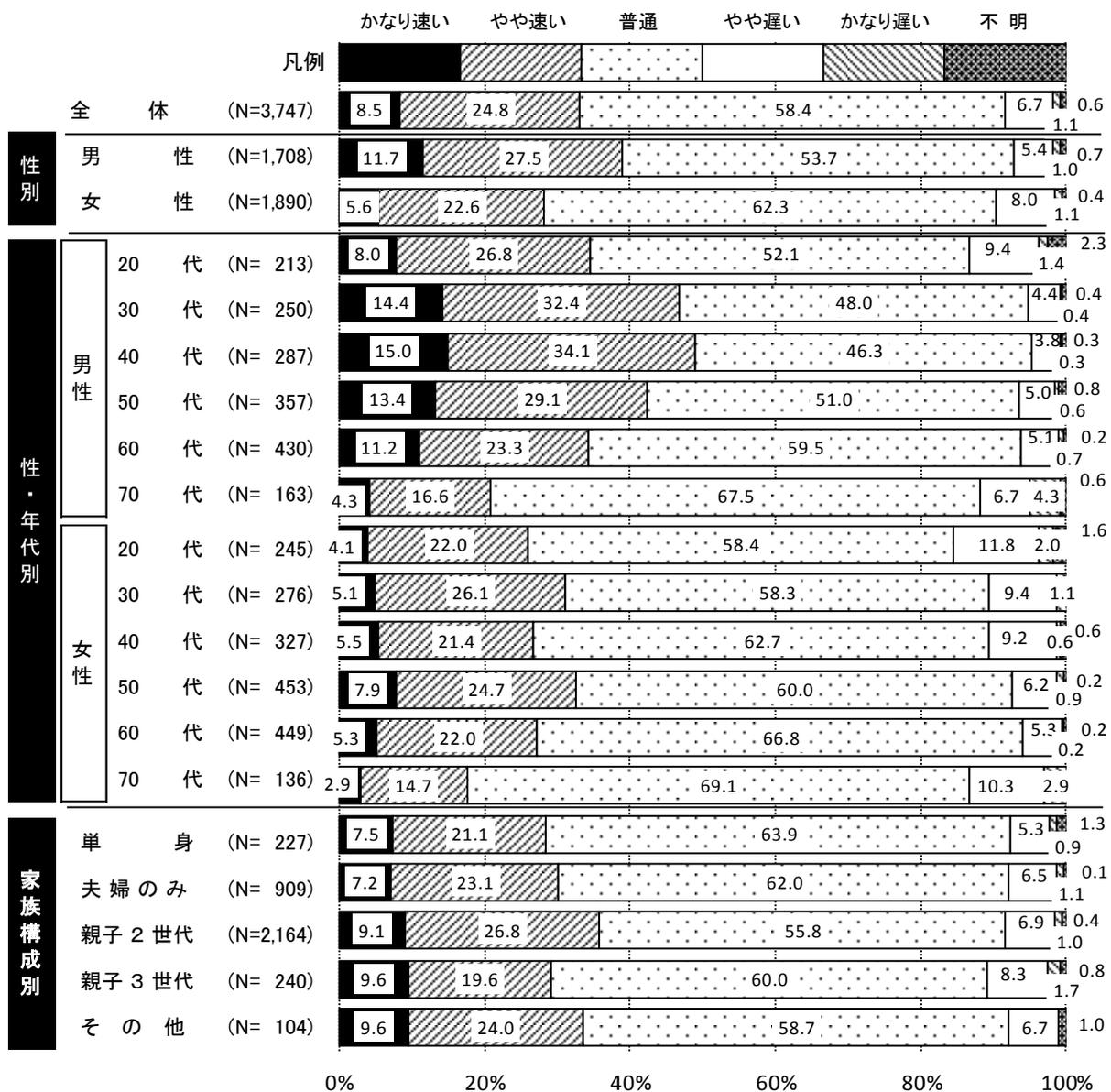
【問7】食べる速さは、次のどれにあてはまりますか。

食事を摂る際、その食べる速さを尋ねたところ、「かなり速い」が8.5%、「やや速い」が24.8%、「普通」が58.7%、「やや遅い」が6.7%、「かなり遅い」が1.1%となった。

性別にみると、男性が女性より食べる速さが速いという傾向がみられた。

性・年代別にみると、男性の30～50代で食べる速さが速い傾向が顕著であった。逆に、20代女性では、遅い割合が他の世代よりも高い結果となった。

食べる速さについて



(3) 朝食の摂取状況

【問8】毎日、朝食を食べていますか。1つ選んで○をつけてください。

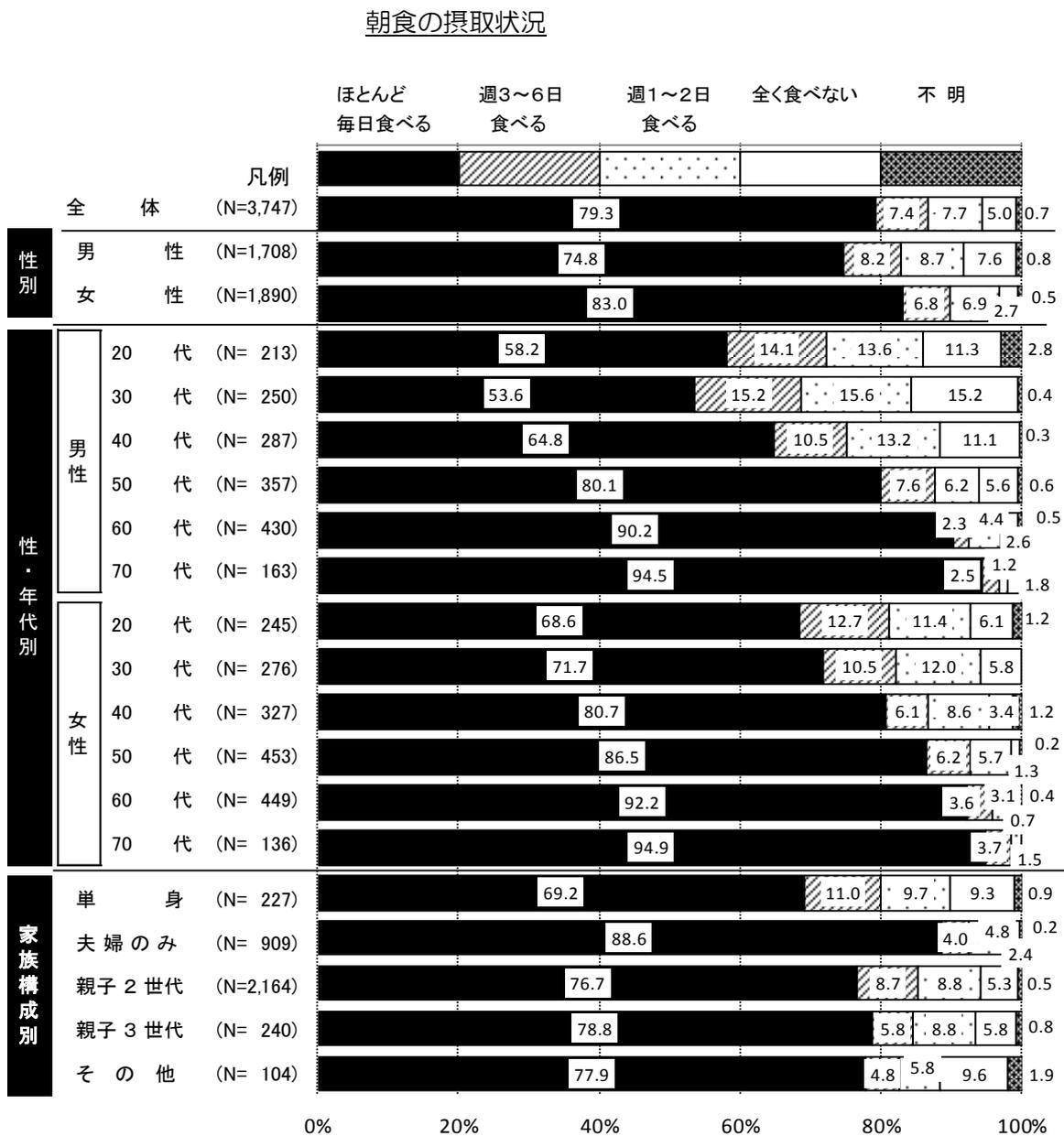
朝食の摂取状況を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が79.3%、「週3～6日食べる」が7.4%、「週1～2日食べる」が7.7%、「全く食べない」が5.0%と、週に1日でも朝食を摂らない人が約2割を占めた。

前回調査と比べると、「ほとんど毎日食べる」が1.6ポイント増加した。

性別でみると、週に1日でも朝食を摂らない人は男性が女性よりも多くみられる。

性・年代別にみると、若い世代ほど週に1日でも朝食を摂らない人が多くみられ、男性の20～40代では、その傾向が強く、「全く食べない」も1割以上みられる。

家族構成別にみると、単身の場合、週に1日でも朝食を摂らない人が約3割を占め、最も多い。



(4) 朝食を食べない理由

【問8附問】(【問8】で「2~4」と答えた方へ)

朝食を食べない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

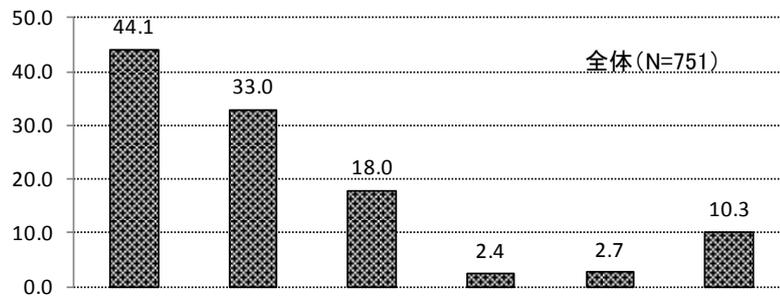
週に1日でも朝食を摂らない人(751人)にその理由を尋ねたところ、「時間がない」が44.1%で最も高く、次いで「食欲がない」(33.0%)、「面倒」(18.0%)となっている。

前回調査と比べると、「やせたい」「準備されない」割合が減少している。

性別にみると、男女とも「時間がない」という理由が最も多い。男性では「準備されない」が女性よりも多くなっている。

年代別にみると、20~60代は、「時間がない」、70代では「食欲がない」という理由が最も多い。

朝食を食べない理由



(単位: %)		サンプル数	時間がない	食欲がない	面倒	やせたい	準備されない	その他
全 体		751	44.1	33.0	18.0	2.4	2.7	10.3
性別	男 性	453	40.2	28.5	15.7	1.8	3.8	10.2
	女 性	354	39.5	31.9	16.9	2.5	0.8	8.2
年代別	20 代	186	39.8	29.0	20.4	0.5	2.2	8.1
	30 代	217	41.9	28.6	20.3	0.9	1.4	6.9
	40 代	186	40.9	30.1	16.1	2.2	2.2	8.6
	50 代	138	37.0	33.3	9.4	4.3	2.9	13.0
	60 代	78	43.6	25.6	10.3	3.8	5.1	11.5
	70 代	18	5.6	50.0	11.1	11.1	5.6	16.7

注: 網掛けは、該当区分で最も高い割合の数字

(5) 食生活評価

【問9】自分の食生活をどのようにお考えですか。1つ選んで○をつけてください。

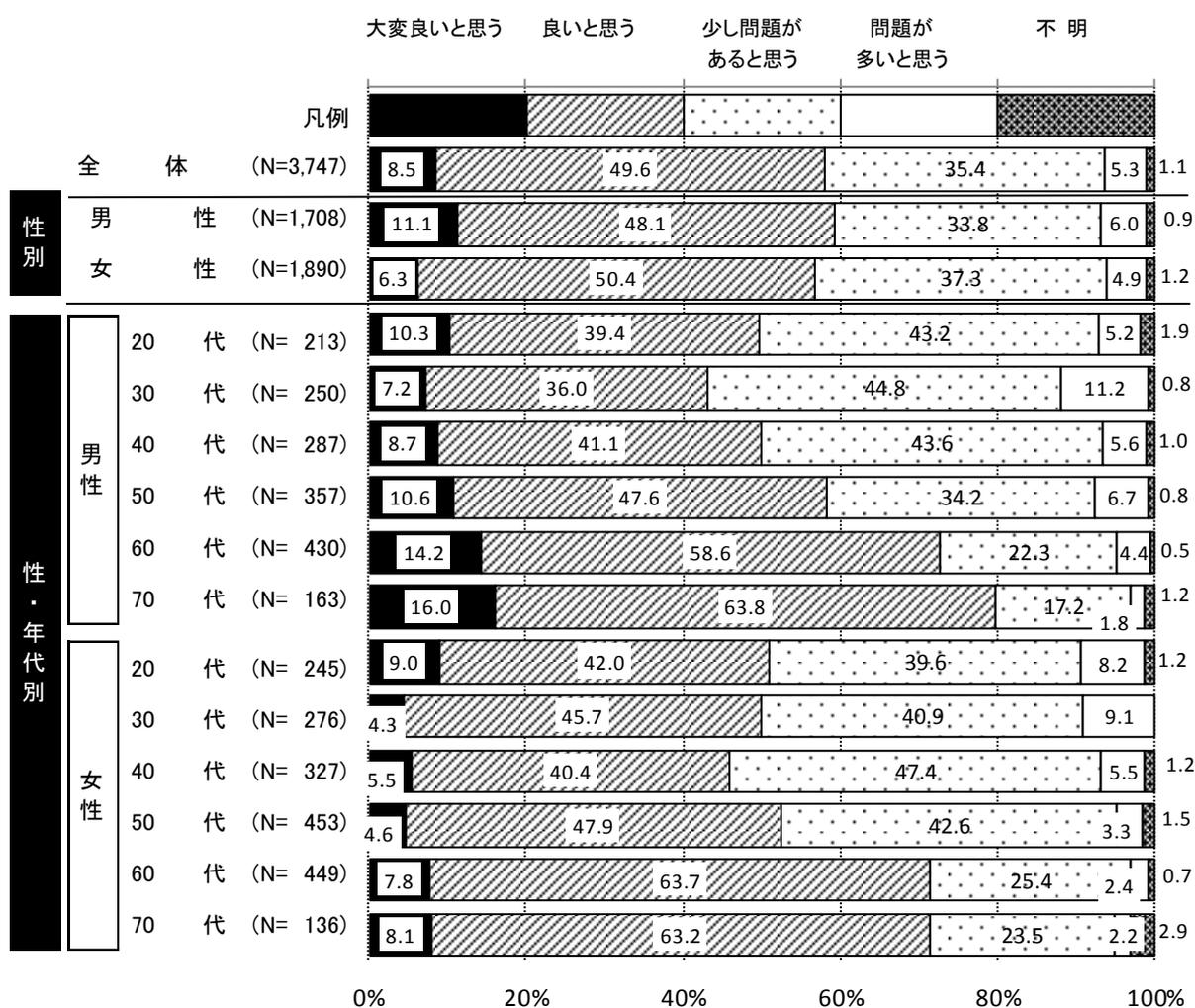
自分の食生活をどのように思うかを尋ねたところ、「大変良いと思う」が 8.5%、「良いと思う」が 49.6%と、評価する人は6割弱にとどまり、「少し問題があると思う」、「問題が多いと思う」人の合計が約4割を占めた。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、「大変良いと思う」人は男性が女性より多い。

性・年代別にみると、男性の30代、女性の40代で「少し問題があると思う」、「問題が多いと思う」人が多い。

食生活評価



(6) 食生活改善意向

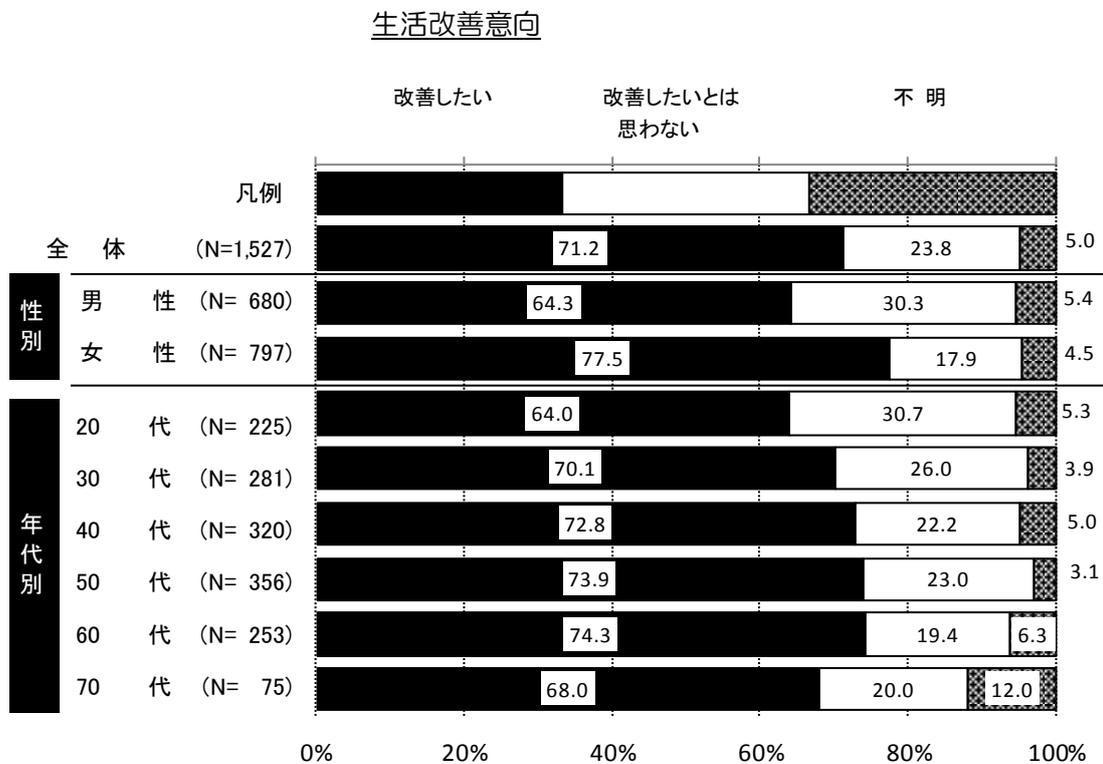
【問9附問】(【問9】で「3~4」と答えた方へ
食生活を改善したいと思いますか。どちらかに○をつけてください。

自分の食生活に問題があると思う人(1,527人)に改善意向を尋ねたところ、「改善したい」(71.2%)が大半を占めるものの、「改善したいと思わない」人も2割以上(23.8%)みられる。

前回調査と比べると、「改善したい」割合が減少し、「改善したいと思わない」割合が6.7ポイント増加した。

性別にみると、女性が男性に比べ「改善したい」と答える人が多い。

年代別にみると、各年代とも「改善したい」と答える人が多いものの、40~60代が他の世代よりもその割合が高くなっている。



(7) 就寝前2時間以内の夕食摂取状況

【問 10】夕食を寝る前(2時間以内)にとることがありますか。1つ選んで○をつけてください。

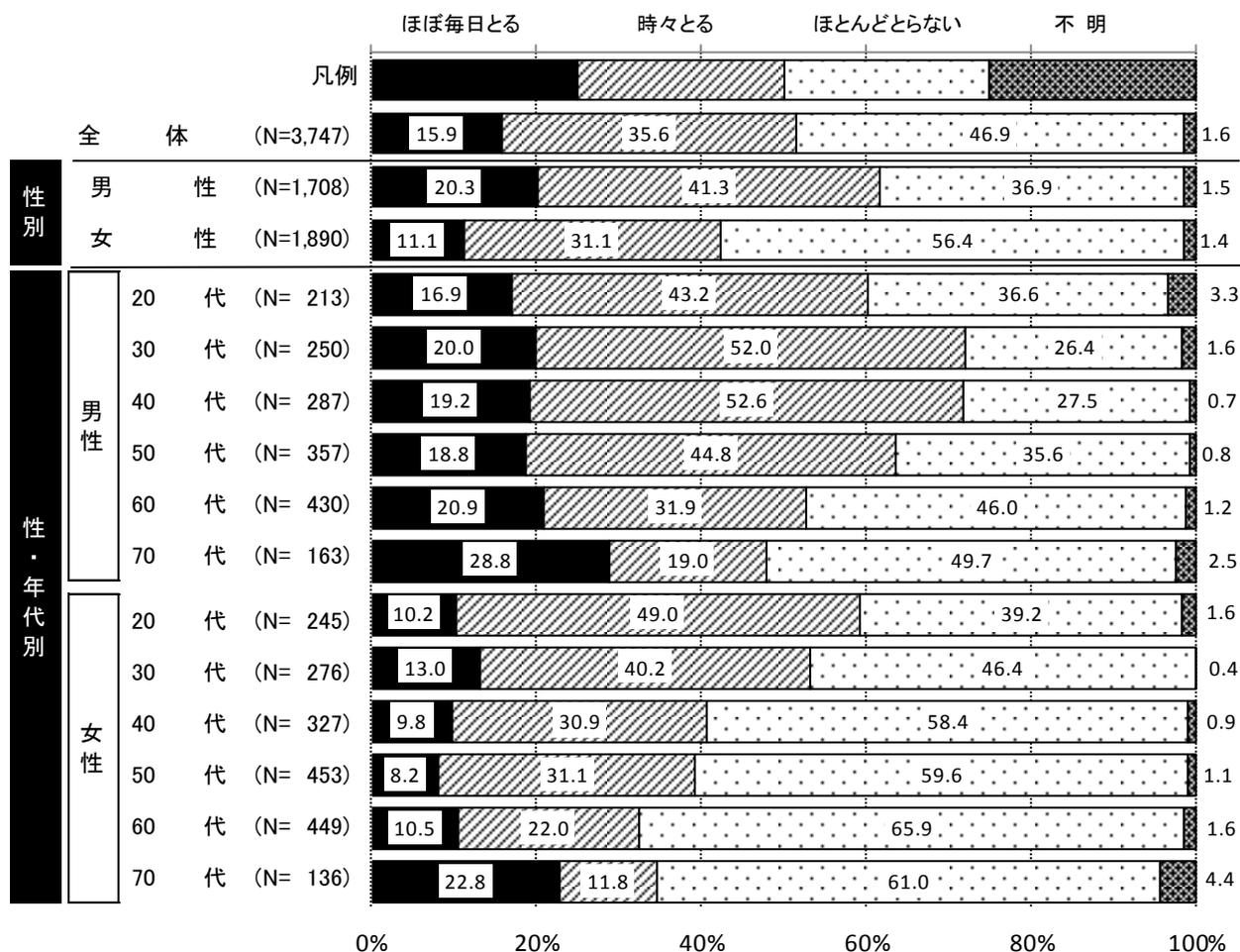
夕食を寝る前にとるかどうかが尋ねたところ、「ほぼ毎日とる」が15.9%、「時々とる」が35.6%、「ほとんどとらない」が46.9%と、過半数の人は夕食を寝る前にとっている。

前回調査と比べると、「ほぼ毎日とる」が1ポイント増加したが、ほぼ同様の傾向である。

性別にみると、女性は過半数の人が「ほとんどとらない」と回答しているが、逆に男性は6割強の人がとると答えている。

性・年代別にみると、男性は20～60代で過半数の人が夕食を寝る前にとると回答しており、とりわけ、30～40代は7割超に達した。また、女性でも20～30代の若い世代でとる人がとらない人を上回っている。

就寝前2時間以内の夕食摂取状況



(8) 夕食後の摂取・飲酒状況

【問 11】夕食後、菓子・果物・軽食・アルコールなどをとることがありますか。1つ選んで○をつけてください。

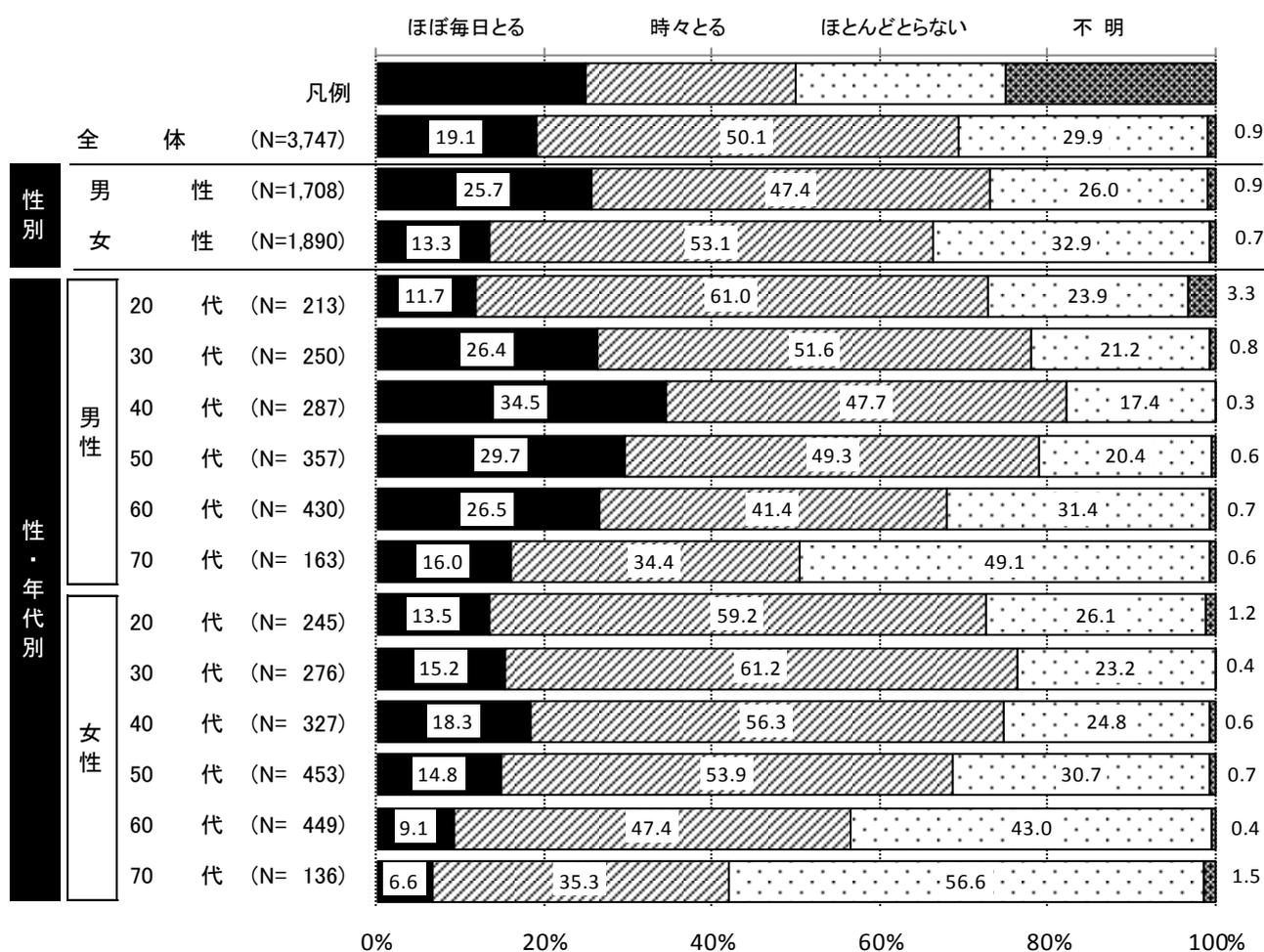
夕食後に、菓子・果物・軽食・アルコールなどを摂取・飲酒するかどうか尋ねたところ、「ほぼ毎日とる」が19.1%、「時々とる」が50.1%、「ほとんどとらない」が29.9%と、約7割が摂取・飲酒すると答えている。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、男性が女性に比べ摂取・飲酒する人が多く、男性の4人に1人は「ほぼ毎日とる」と答えている。

性・年代別にみると、男女ともに30～50代で夕食後に摂取・飲酒する人が多い傾向で、特に、男性の40代で最も高い割合となっている。

夕食後の摂取・飲酒状況



(9) 栄養成分表示の参考度

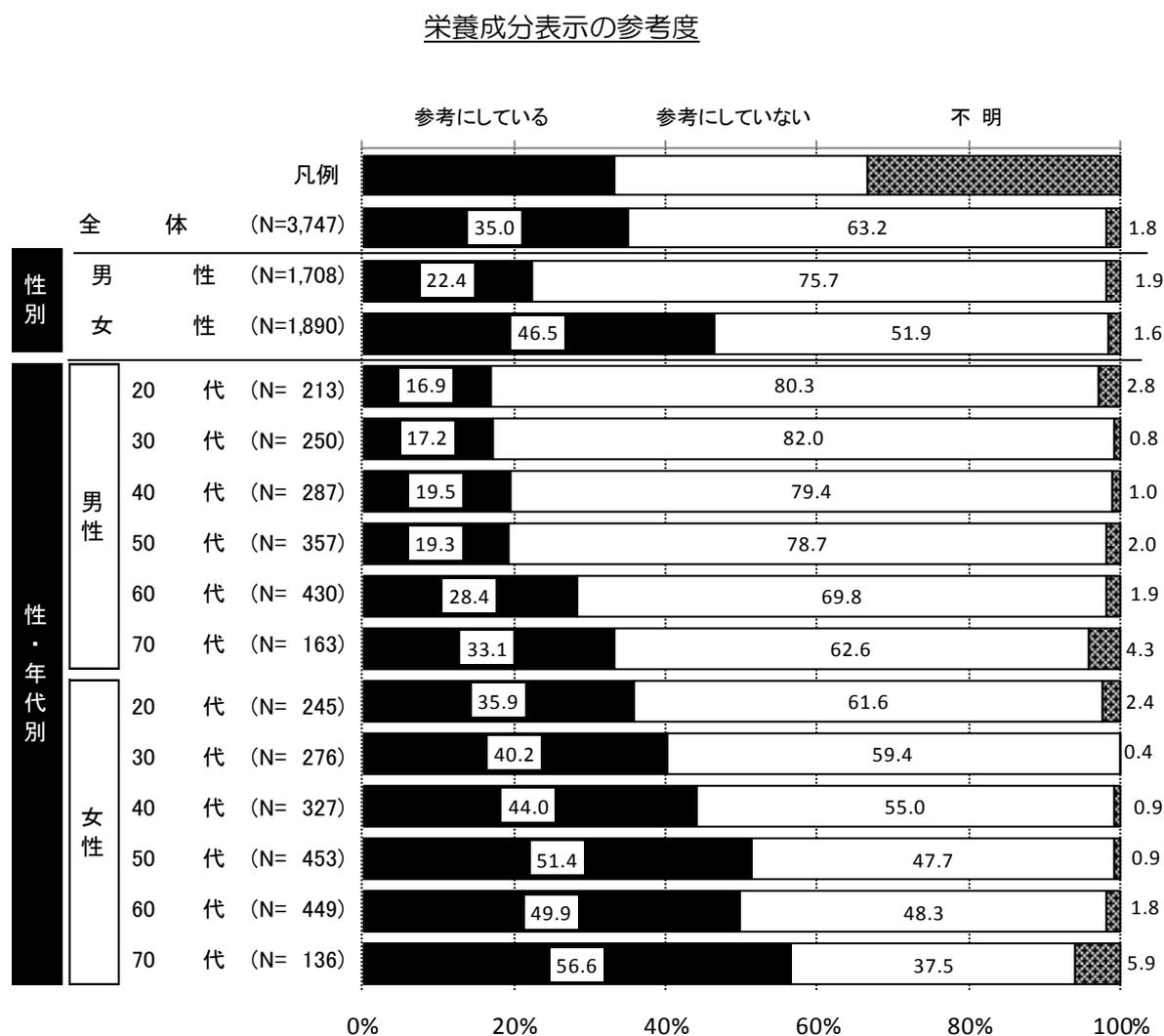
【問 12】外食や食品購入の際に栄養成分表示を参考にしていますか。どちらかに○をつけてください。

外食時や食品購入時に栄養成分を参考にするかどうか尋ねたところ、「参考にしている」が 35.0%、「参考にしていない」が 63.2%となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、女性は栄養成分を参考にする人が半数近いが、男性の場合は2割程度にとどまっている。

性・年代別にみると、男性の20～50代で「参考にしていない」割合が8割前後と高い割合となったものの、男女とも年代が上がるにつれ栄養成分を参考にする傾向がみられる。



(10) 地場産品の利用状況

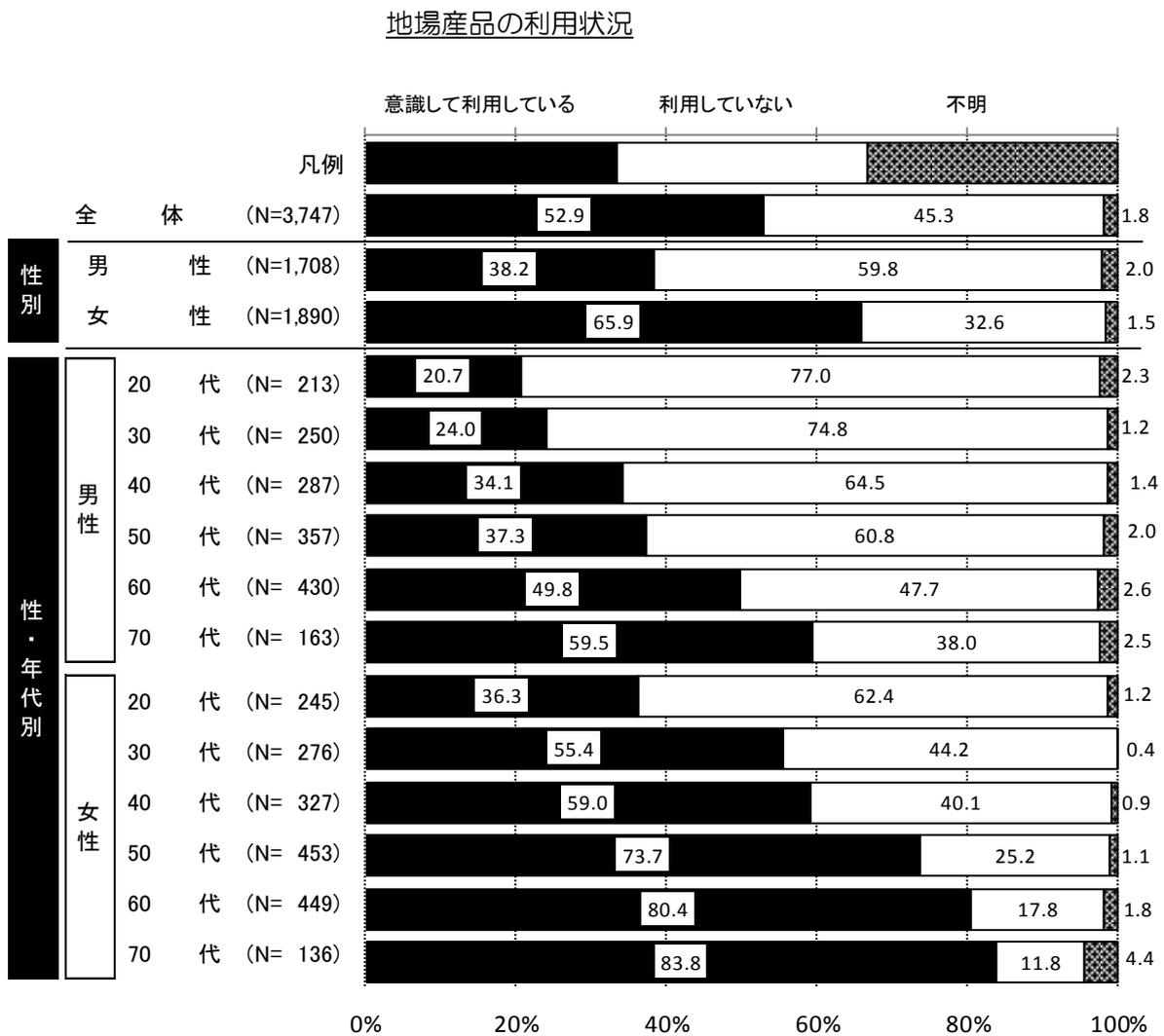
【問 13】意識して地場産品(地域の産物や旬の素材)を利用しますか。どちらかに○をつけてください。

意識して地場産品を利用しているかどうか尋ねたところ、「意識して利用している」が 52.9%、「利用していない」が 45.3%と、利用する人が多い結果となった。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、女性は意識して地場産品を利用する人が7割近くを占めるが、男性の場合、4割弱にとどまっている。

性・年代別にみると、男女とも年代が上がるにつれ、意識して地場産品を利用する人が多く、女性の60代以上では8割を超えている。



(11) 塩分摂取量の注意喚起

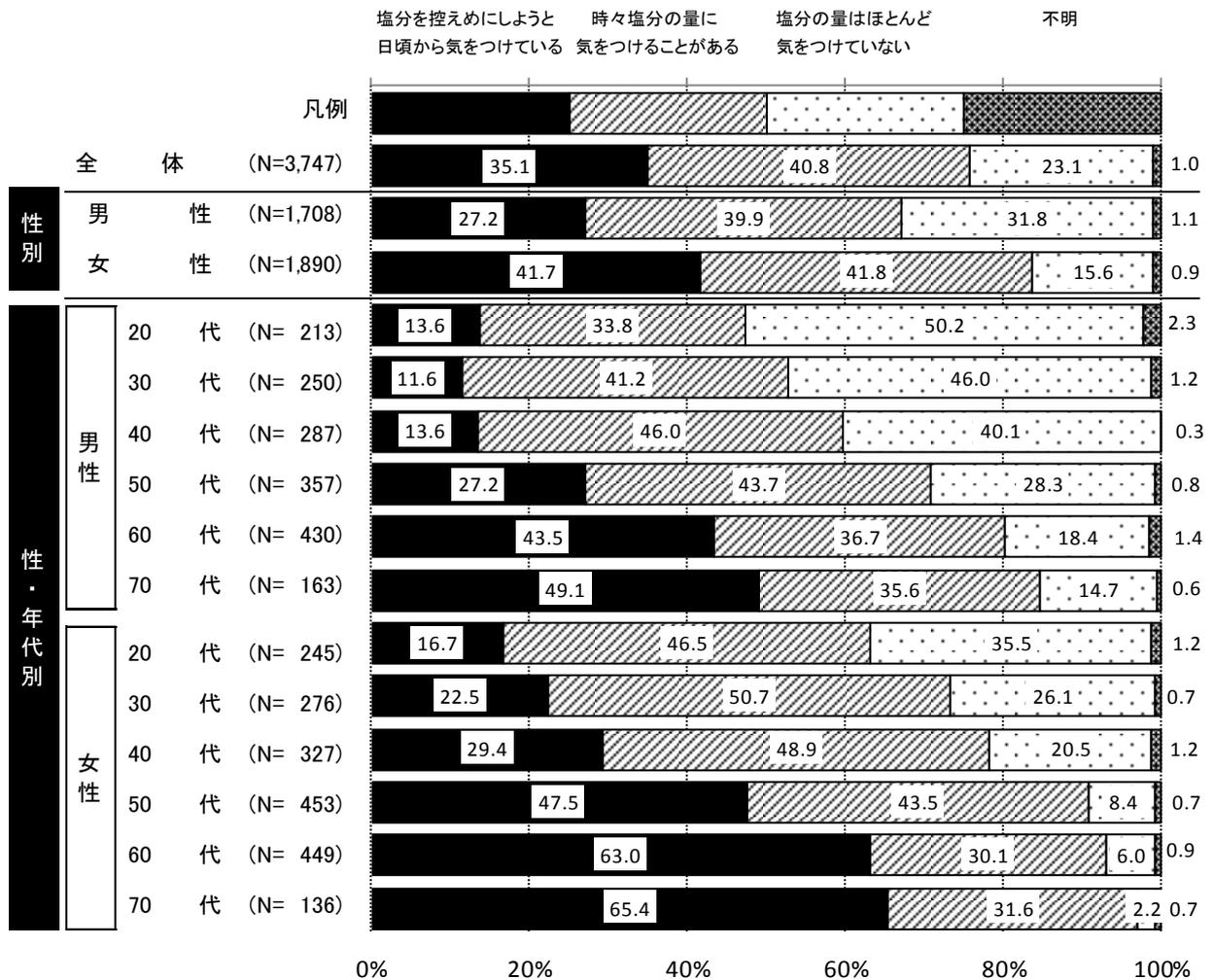
【問 14】日頃から塩分の摂取量に気をつけていますか。1つ選んで○をつけてください。

日頃、塩分摂取量を注意しているかどうか尋ねたところ、「日頃から気をつけている」が 35.1%、「時々気をつけることがある」が 40.8%、「ほとんど気をつけていない」が 23.1%と、全体的に気を付ける人が多い。

性別にみると、女性は男性に比べ塩分摂取量に注意を払う人が多い。

性・年代別にみると、男女とも年代が低いほど塩分摂取量に注意を払う人が少ない。

塩分摂取状況の注意喚起



(12) 食事バランス

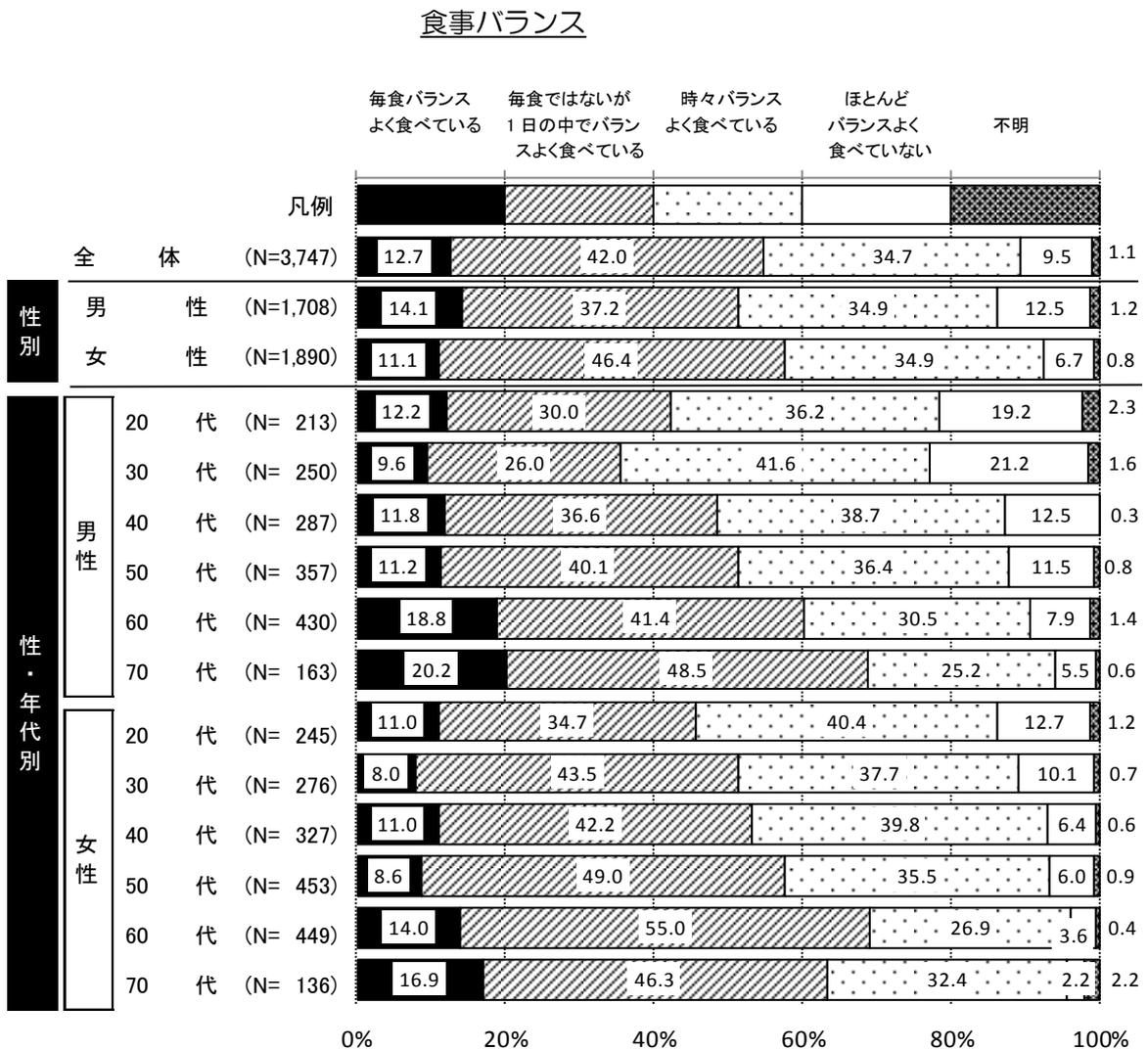
【問 15】主食(ご飯・麺・パン)、主菜(肉・魚・卵・大豆製品などを中心にした料理)、副菜(野菜・海藻・きのこなどを中心にした料理)の3つをバランスよく食べていますか。1つ選んで○をつけてください。

主食、主菜、副菜のバランスを考えて食事をしているかどうか尋ねたところ、「毎食バランスよく食べている」が12.7%、「1日の中でバランスよく食べている」が42.0%、「時々バランスよく食べている」が34.7%と、全体的にバランスに気をつけている人が多く、「ほとんどバランスよく食べていない」は1割程度にとどまっている。

前回調査と比べると「毎食バランスよく食べている」が2.3ポイント増加している。

性別でみると、女性は男性に比べ食事バランスに注意を払う人が多い。

性・年代別にみると、男女とも年代が高いほど食事バランスに注意を払う人が多い。



(13) 菓子の摂取頻度

【問 16】お菓子をどれくらい食べていますか。1つ選んで○をつけてください。

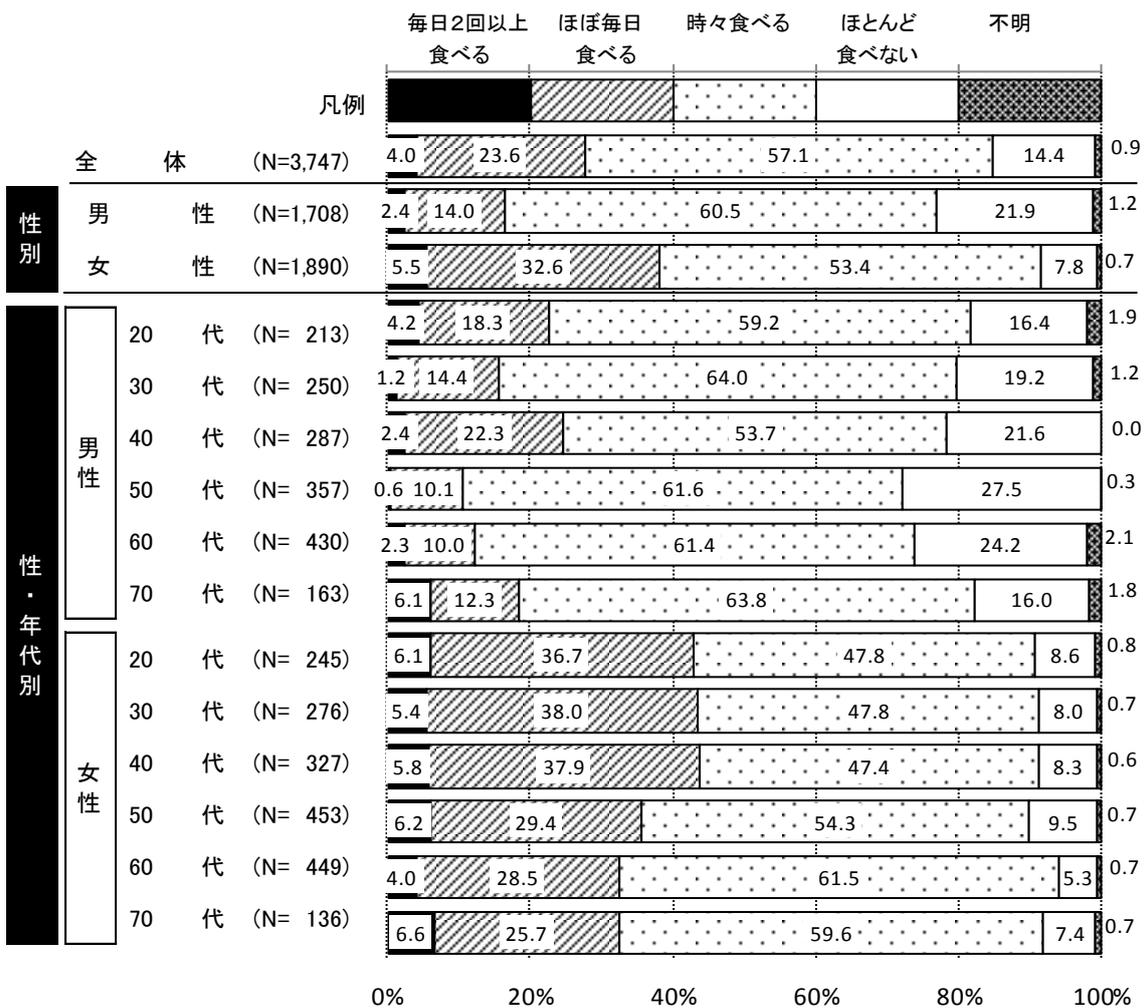
お菓子をどれくらいの頻度で食べているか尋ねたところ、「毎日2回以上食べる」が4.0%、「ほぼ毎日食べる」が23.6%、「時々食べる」が57.1%と、頻度はそれほど高くないが全体的によく食べている。なお、「ほとんど食べない」が14.4%である。

前回調査と比べると、「ほぼ毎日食べる」が2ポイント以上増加している。

性別にみると、男女とも「時々食べる」が主流だが、女性の場合、「毎日2回以上食べる」、「ほぼ毎日食べる」を合わせた割合が38.1%を占め、男性の割合（16.4%）を大きく上回る。

性・年代別にみると、男性の場合、「時々食べる」が主流であり、全体的な摂取頻度は男性 50～60代が低い。また、女性の場合、全体的に摂取頻度が高いが、特に、20～40代で「ほぼ毎日食べる」頻度が高くなっている。

菓子の摂取頻度



(14) 甘い飲み物の摂取頻度

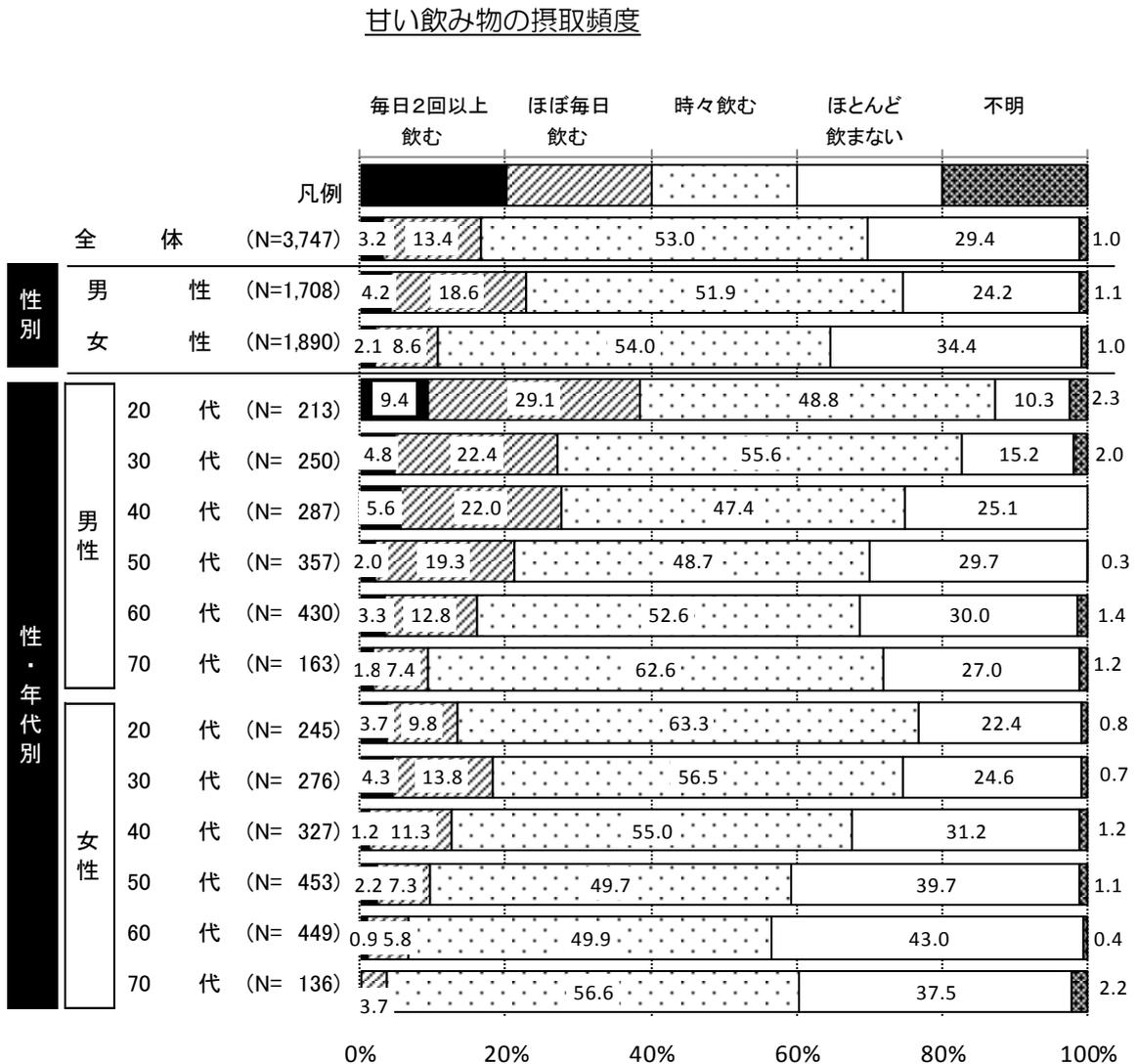
【問17】甘い飲み物(ジュース、炭酸飲料、スポーツドリンク)をどれくらい飲んでますか。1つ選んで○をつけてください。

甘い飲み物をどれくらいの頻度で飲んでいるか尋ねたところ、「毎日2回以上飲む」が3.2%、「ほぼ毎日飲む」が13.4%、「時々飲む」が53.0%と、頻度はそれほど高くないが全体的によく飲んでおり、「ほとんど飲まない」は約3割となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、男性の方が女性に比べ甘い飲み物を飲む頻度が高い。

性・年代別にみると、男性の若い世代ほど甘い飲み物を飲む頻度が高く、とりわけ、20代は「毎日2回以上飲む」、「ほぼ毎日飲む」を合わせると約4割、「時々飲む」まで含めると約9割に達する。



(15) 食育への関心度

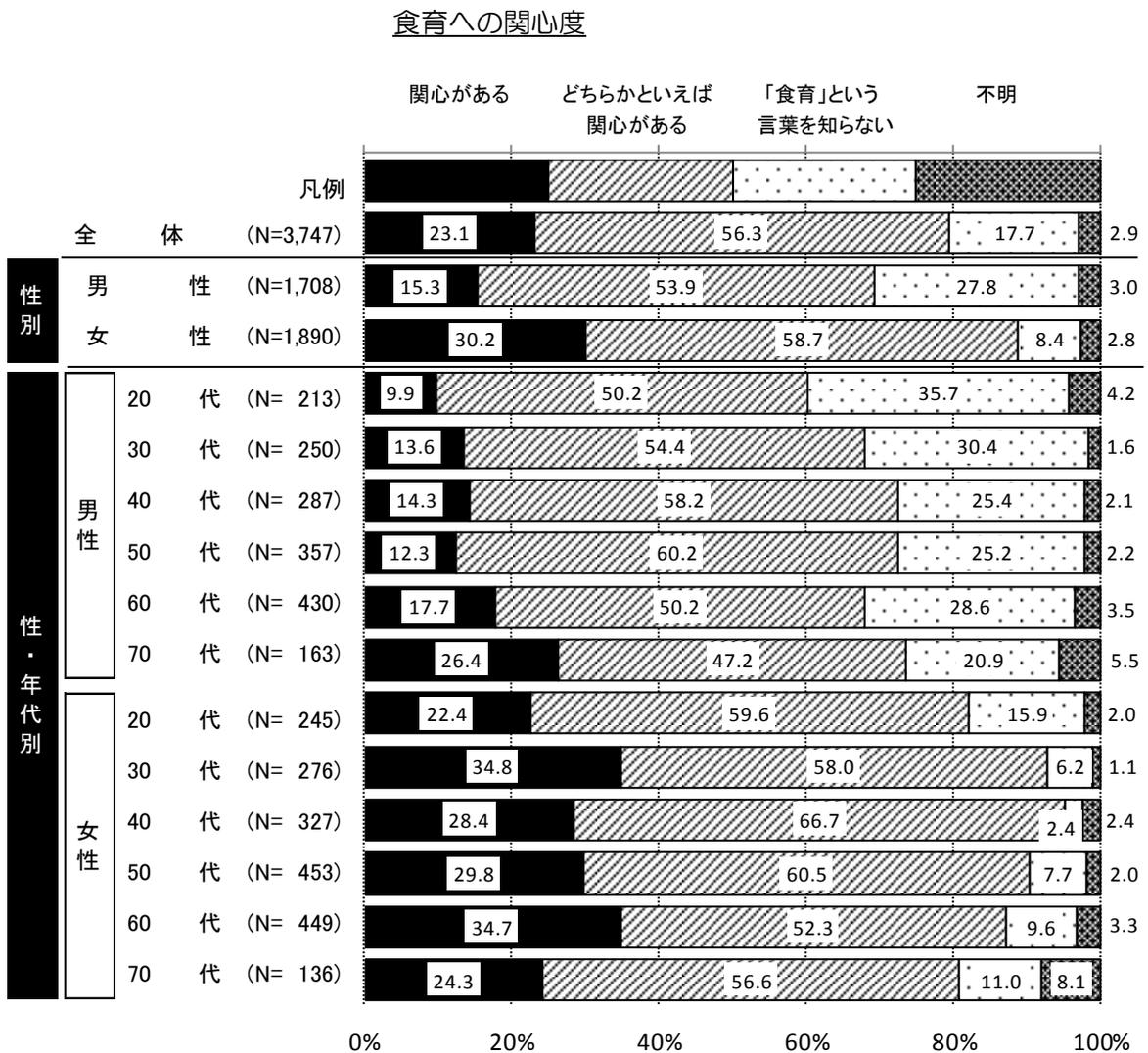
【問 18】「食育」に関心がありますか。1つ選んで○をつけてください。

食育への関心度をみると、「関心がある」が 23.1%、「どちらかといえば関心がある」が 56.3%と『関心派』は8割近くを占める。なお、「食育という言葉を知らない」人は 17.7%となっている。

前回調査と比べると、『関心派』が 2.3 ポイント増加した。

性別にみると、女性は男性に比べ食育の関心度が高い。

性・年代別にみると、男性は年代が高くなるにつれ関心が高くなり、女性は全体的に関心が高い中、とりわけ「関心がある」において 30 代、60 代の割合が 3 割超と高くなっている。



(16) 食生活における「食事バランスガイド」などの参考程度

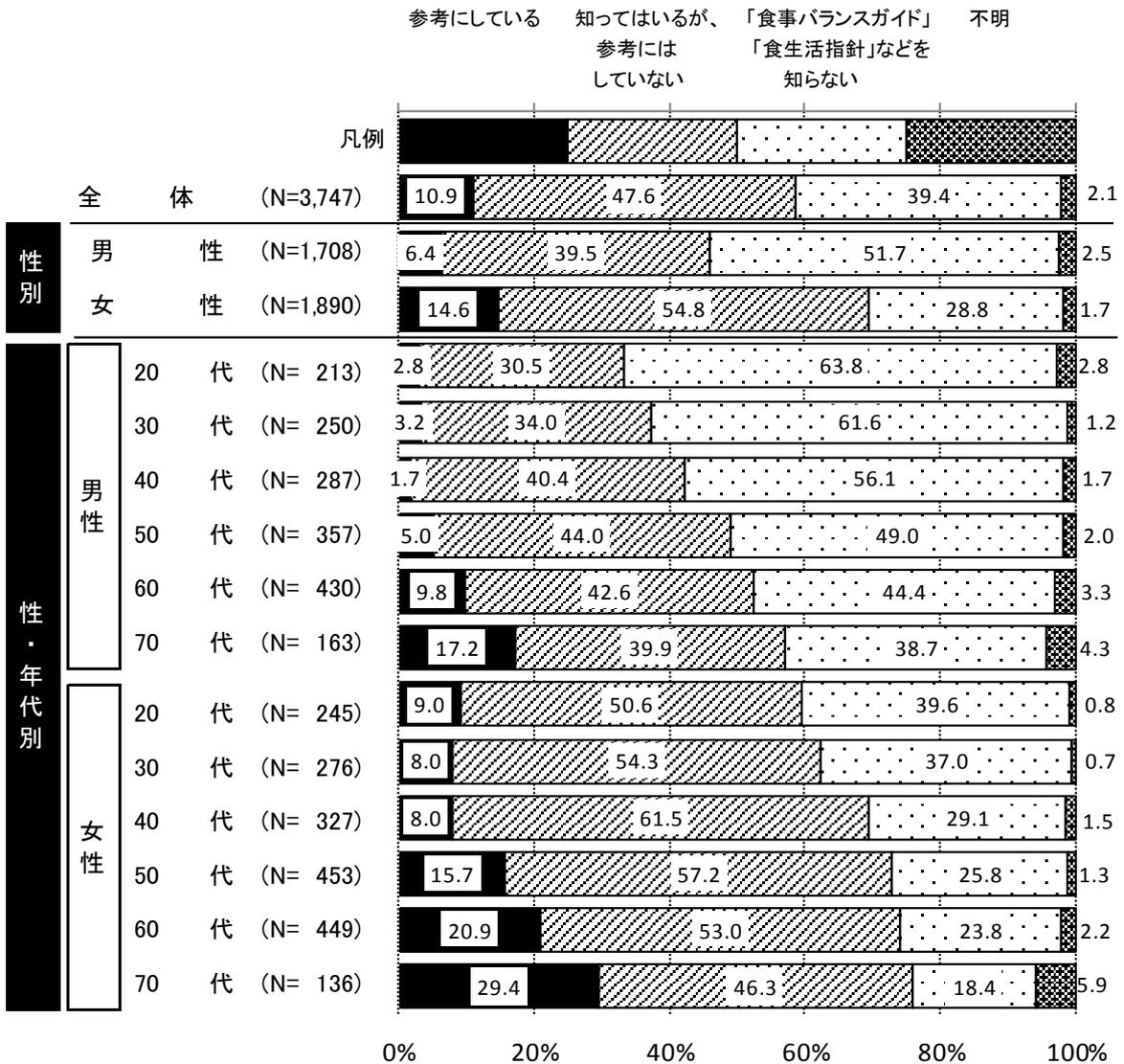
【問 19】厚生労働省から示された「食事バランスガイド」「食生活指針」「日本人の食事摂取基準」などを食生活の参考にしていますか。1つ選んで○をつけてください。

食生活において「食事バランスガイド」などを参考にしているかどうか尋ねたところ、「参考にしている」は10.9%にとどまり、「知っているが、参考にはしていない」が47.6%、「知らない」が39.4%と、参考にする人は少ない。

性別にみると、女性は男性に比べ「食事バランスガイド」などを参考にする人は多いものの、その割合は14.6%にとどまっている。

性・年代別にみると、女性の高年層を中心に「食事バランスガイド」などを参考にする人が多い。

食生活における「食事バランスガイド」などの参考程度



(17) 健康や栄養に関する学習の場への参加状況

【問 20】地域や職場で健康や栄養に関する学習の場に参加していますか。1つ選んで○をつけてください。

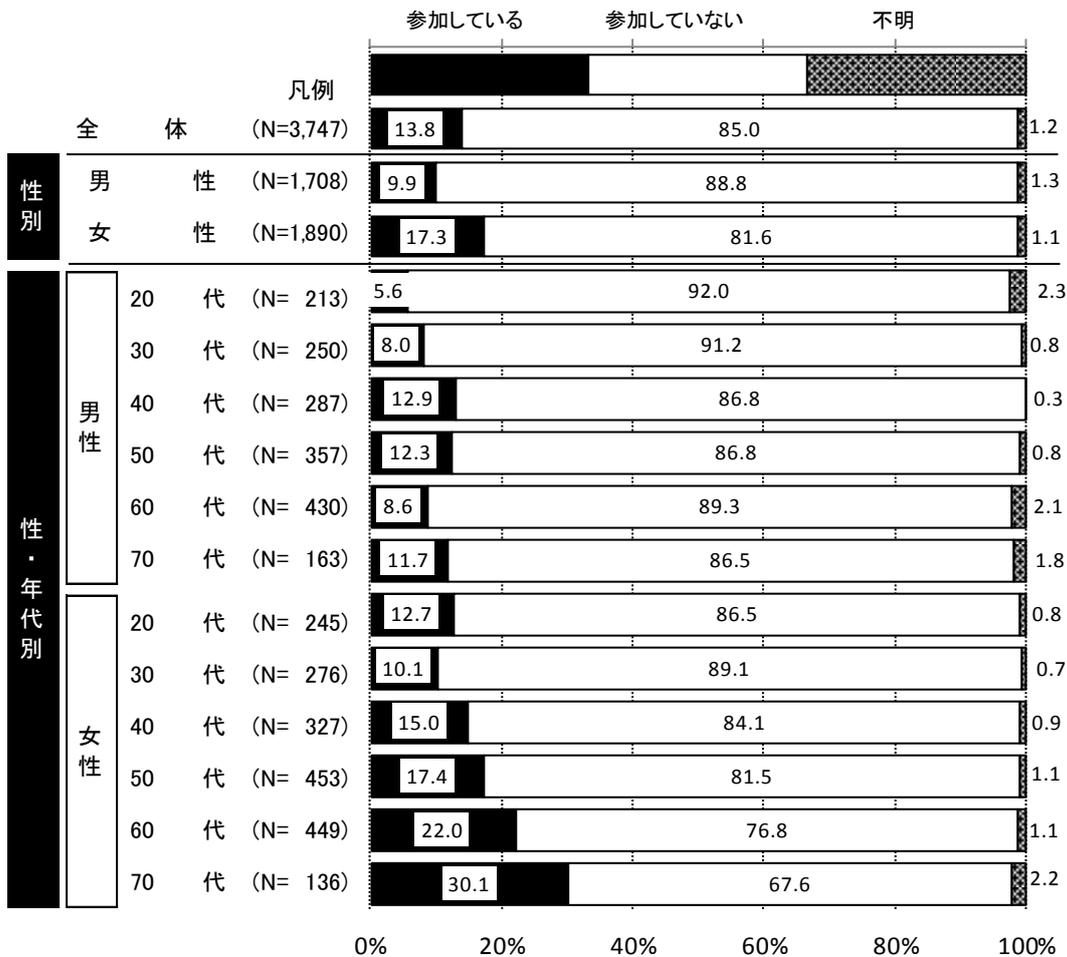
健康や栄養に関する場への参加状況を見ると、「参加している」は13.8%にとどまり、大半は「参加していない」(85.0%) ようである。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、女性は男性に比べ健康や栄養に関する学習の場への参加率が高い。

性・年代別にみると、男性では40～50代が他の年代よりは参加率が高く、女性では年代が上がるにつれ参加率が高まっている。

健康や栄養に関する学習の場への参加状況



(18) 食事を自分で作ること

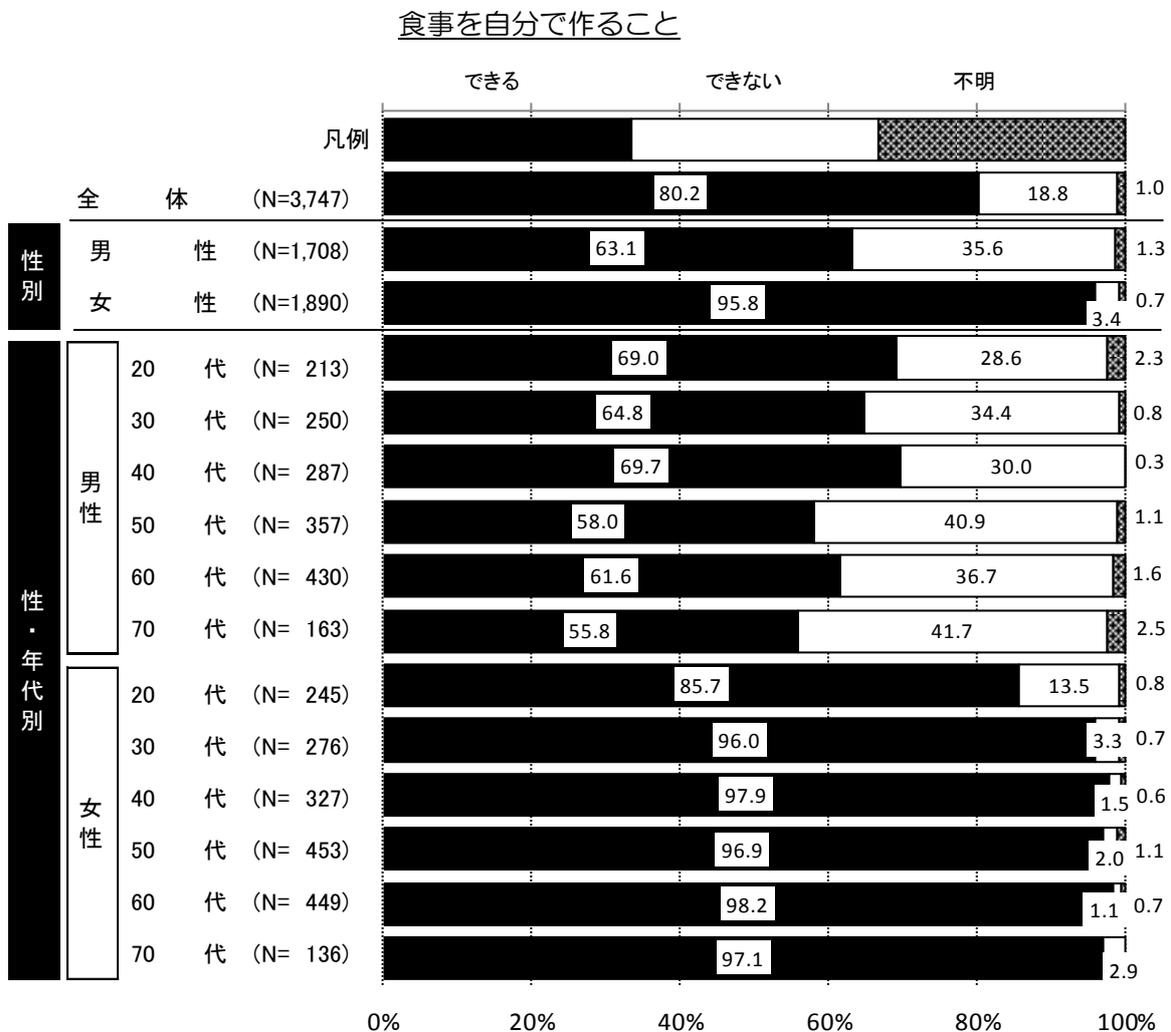
【問 21】食事を自分で作ることができますか。どちらかに○をつけてください。

自分で食事が作れるかどうかを尋ねたところ、「できる」が 80.2%を占め、「できない」は 18.8%となっている。

前回調査とほぼ同様だが、比較すると「できる」が 1 ポイント下がり、「できない」が 1.3 ポイント上昇した。

性別にみると、男性の 63.1%、女性の 95.8%が「できる」と答えている。

性・年代別にみると、男性は年代が上がるにつれ「できる」割合が下がる傾向で、女性は 20 代が他の年代に比べてやや低くなった。

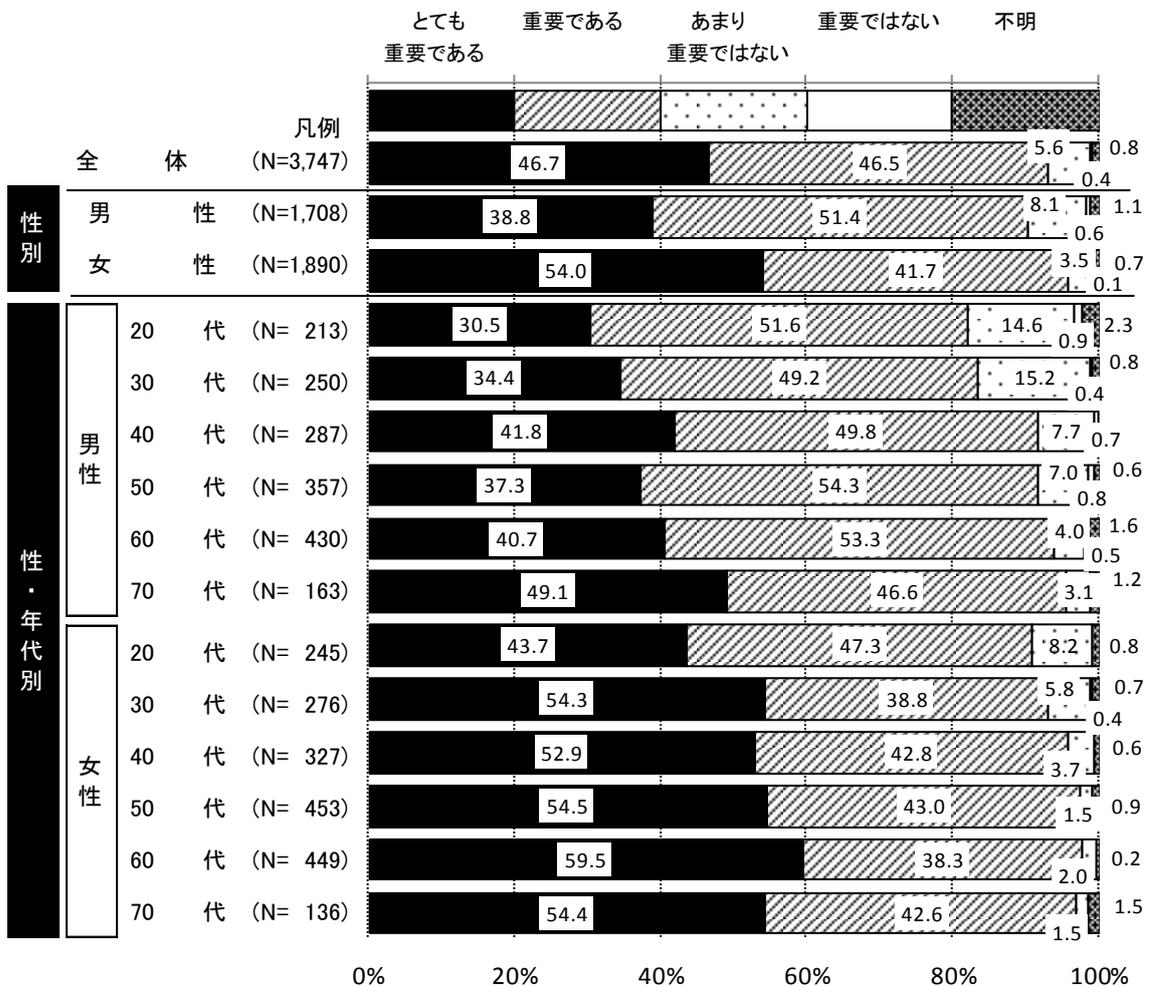


(19) 健康に対する食事の重要性

【問 22】食事はあなたの健康にとってどのくらい重要ですか。1つ選んで○をつけてください。

食事が健康にとってどのくらい重要か尋ねたところ、「とても重要である」と回答した人が 46.7%、「重要である」と回答した人が 46.5%と 9 割以上は重要と考えている。
 前回調査と比べると、「とても重要である」が 4.7 ポイント上昇した。
 性別にみると、男女とも 9 割以上が重要だと答えている。
 性・年代別にみると、重要性を否定する回答が、男性の 20 代で 15.5%、30 代で 15.6%もみられる。

健康に対する食事の重要性



4 身体活動・運動について

(1) 定期的な運動・スポーツの実施状況

【問 23】あなたは、日頃(おおむね週に2回以上、1回 30 分以上、1 年以上持続)、運動やスポーツをしていますか。どちらかに○をつけてください。

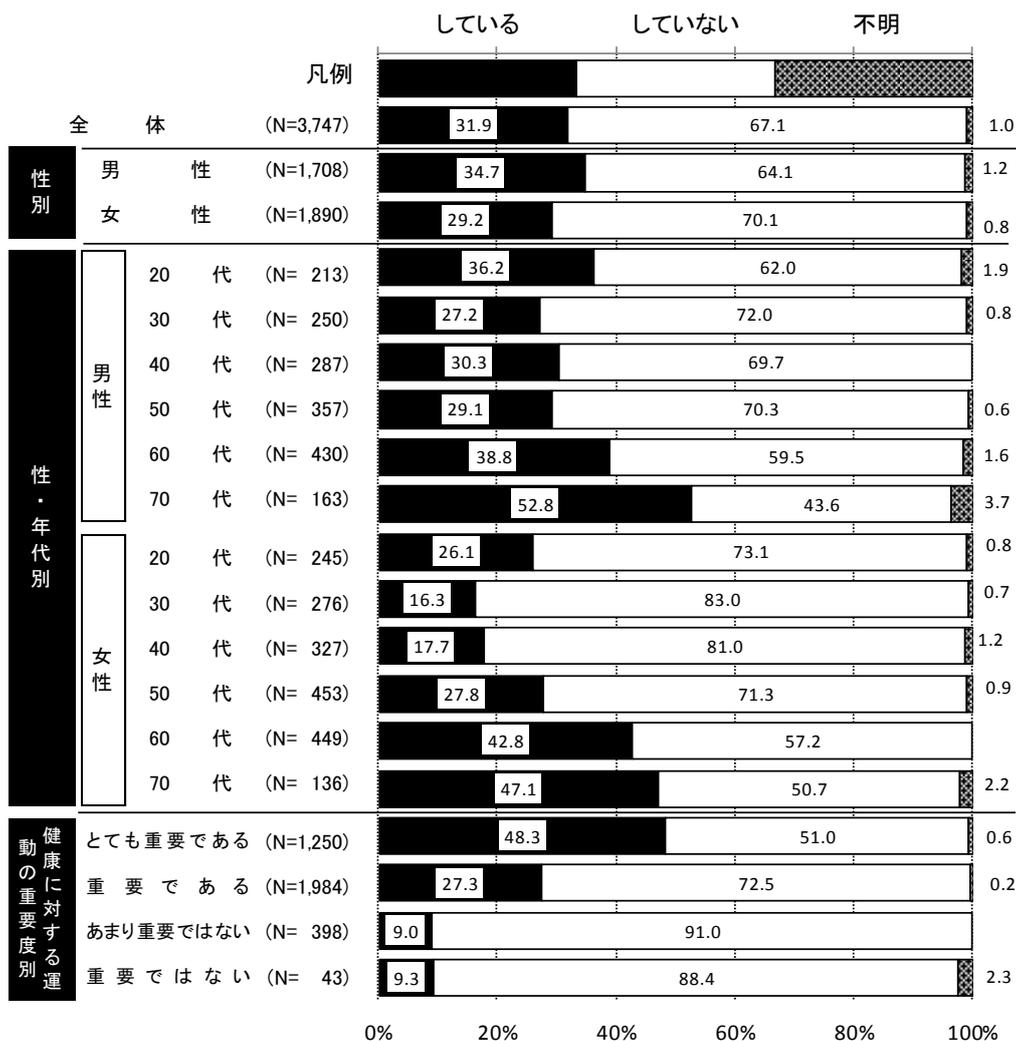
日頃の定期的な運動・スポーツの実施状況をみると、「している」が 31.9%にとどまり、「していない」が約7割(67.1%)を占める。

前回調査と比べると、「している」が 2.3 ポイント上昇し、「していない」が 1.6 ポイント下落した。性別にみると、「している」人は男性が女性をやや上回っている。

性・年代別にみると、男女とも 30~40 代の実施率は低い。

健康に対する運動の重要度別にみると、健康には運動が重要であると考える人ほど運動の実施率は高いものの、運動が「とても重要である」と考える人でも実施率は5割弱にとどまっている。

定期的な運動・スポーツの実施状況



(2) 運動・スポーツの種類

【問 23 附問】(【問 23】で「1. している」と答えた方へ)

それはどのような運動やスポーツですか。すべて選んで○をつけてください。

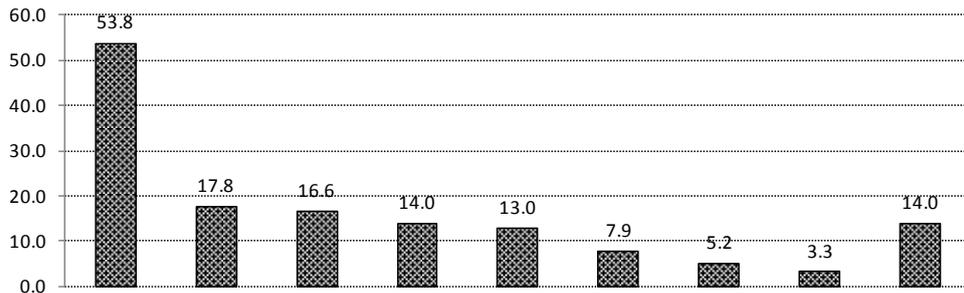
日頃、定期的な運動・スポーツを実施している人(1,196人)に実施している運動・スポーツの内容を尋ねたところ、「ウォーキング」(53.8%)が圧倒的に多く、以下、「ヨガ、ストレッチなどの健康体操」(17.8%)、「腹筋・ダンベルなどの筋力トレーニング」(16.6%)と続く。

前回調査と比べると、実施率ではほぼ同様の傾向だが、「ウォーキング」の割合が若干減少している。

性別にみると、男女とも「ウォーキング」を実施する人が最も多いが、男性は「腹筋・ダンベルなどの筋力トレーニング」、「ゴルフ、バレーボールなどの球技」、女性は「ヨガ、ストレッチなどの健康体操」の実施率が高い。

性・年代別にみると、各年代とも「ウォーキング」を実施する人が最も多いが、20~40代は「腹筋・ダンベルなどの筋力トレーニング」、50~60代は「ヨガ・ストレッチなどの健康体操」、70代は「グラウンドゴルフ・ゲートボール」の実施率が他の年代に比べ高くなっている。

運動・スポーツの種類



		サンプル数	ウォーキング	ヨガ、ストレッチなどの健康体操	腹筋・ダンベルなどの筋力トレーニング	ゴルフ、バレーボールなどの球技	ジョギング	グラウンドゴルフ・ゲートボール	水泳(水中歩行を含む)	サイクリング	その他
全体		1,196	53.8	17.8	16.6	14.0	13.0	7.9	5.2	3.3	14.0
性別	男性	592	50.2	6.4	23.1	18.9	18.2	7.6	2.4	4.1	15.9
	女性	551	57.7	30.1	10.3	8.9	7.4	7.8	8.0	2.5	11.6
年代別	20代	144	37.5	11.8	23.6	19.4	20.1	0.0	4.2	3.5	21.5
	30代	114	36.8	17.5	24.6	21.1	19.3	0.0	5.3	6.1	14.9
	40代	147	47.6	21.1	23.8	11.6	22.4	0.0	3.4	4.8	11.6
	50代	233	55.4	18.9	12.4	17.2	12.0	0.0	4.7	2.6	13.7
	60代	377	63.7	19.1	13.0	12.2	9.0	11.9	5.8	2.4	11.1
	70代	168	58.9	17.3	14.3	7.1	6.0	29.2	6.5	3.0	14.9

注: 網掛けは該当項目の中での1位と2位の数字

(3) 意識的に身体を動かしているかの有無

【問 24】日常生活のなかで意識的に身体を動かしていますか。1つ選んで○をつけてください。

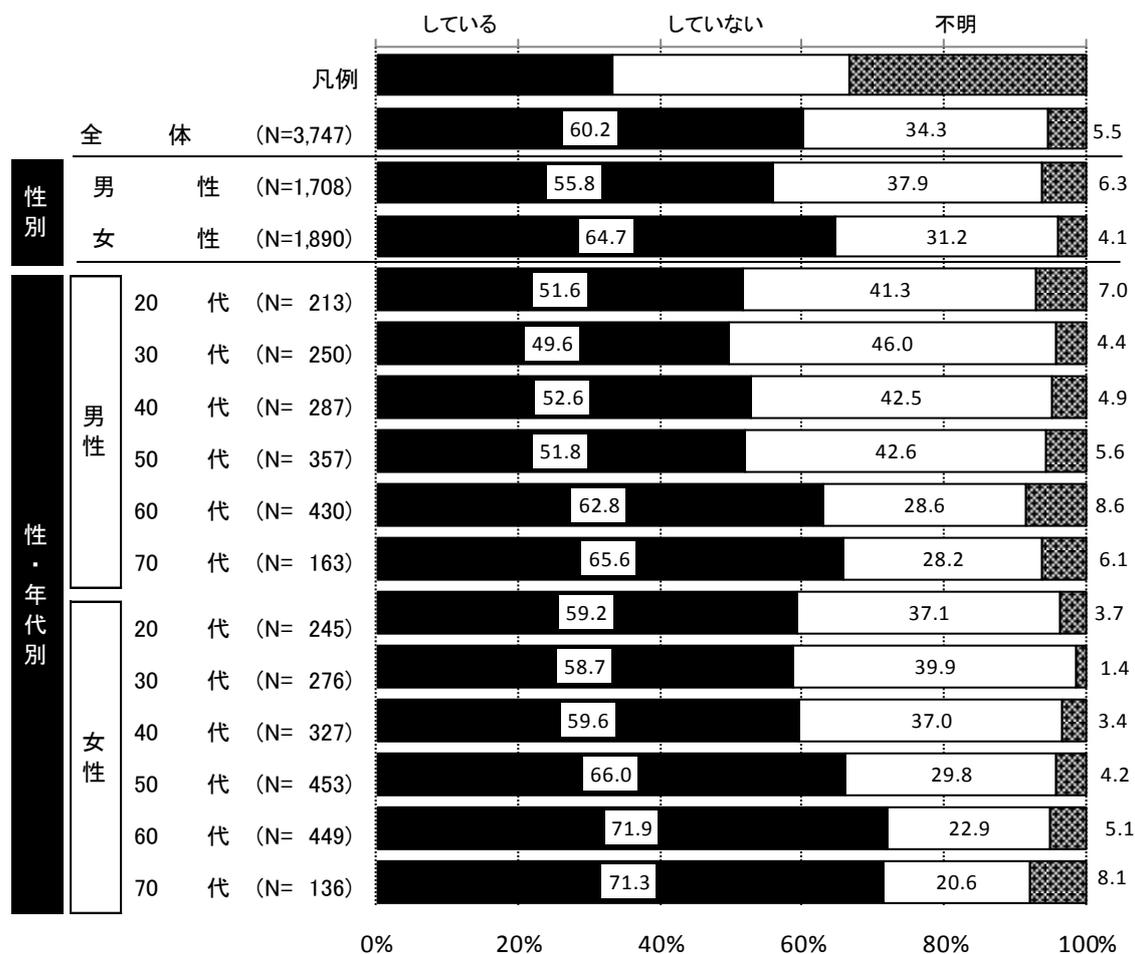
(例:エレベーターを使わずに階段を使う、家事や育児で身体を動かすなど)

日常生活の中で意識的に身体を動かしているかどうかを尋ねたところ、「している」が 60.2%を占め、「していない」は 34.3%となっている。

性別にみると、男性の 55.8%に対し、女性は 64.7%が「している」と答えている。

性・年代別にみると、男女とも年代が上がるにつれ「している」割合が上がる傾向で、男女とも 60代以上で高い割合となっている。

意識的に身体を動かしているかの有無



(4) 1日の平均歩数

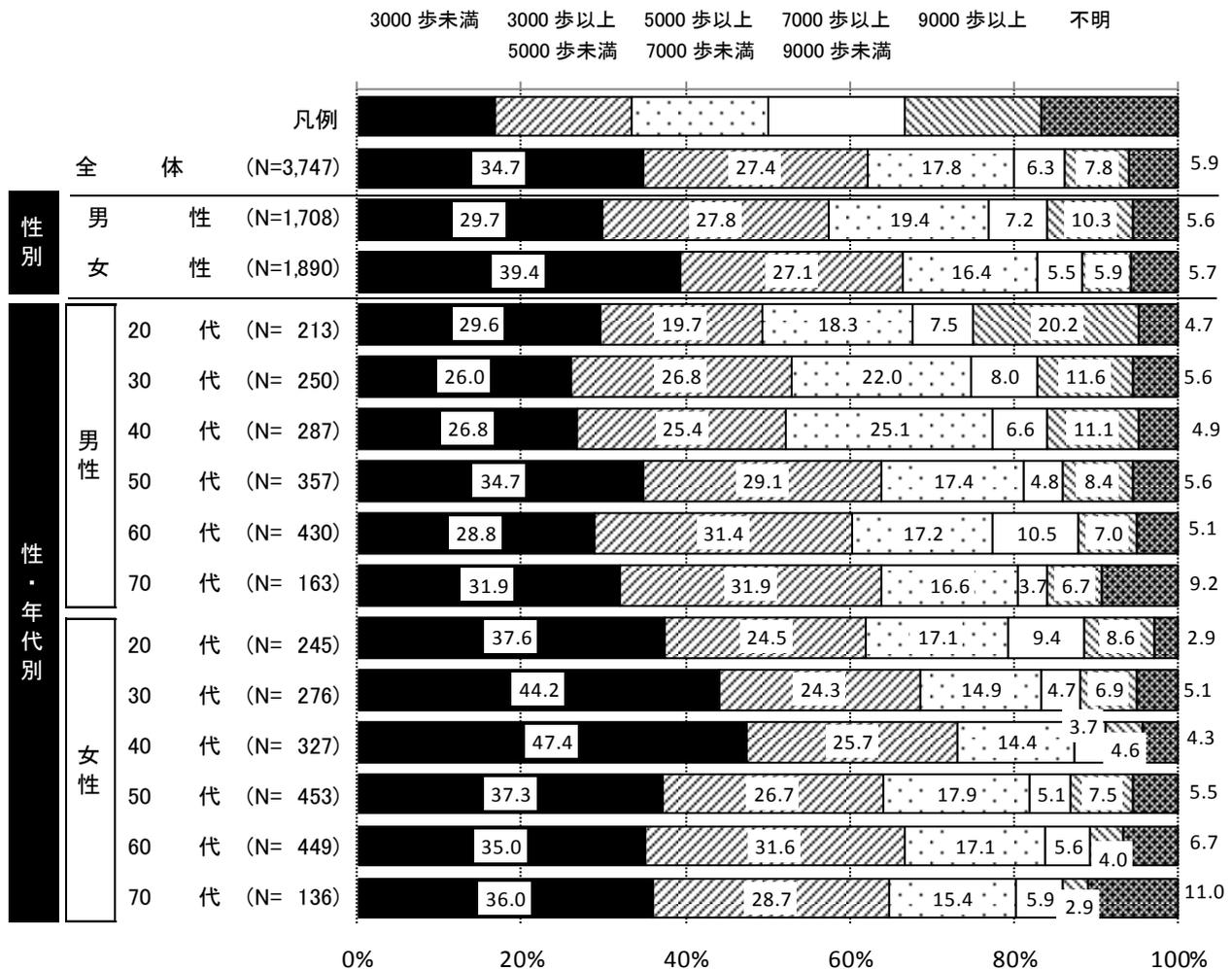
【問 25】1日の平均歩数はどれくらいですか。1つ選んで○をつけてください。

1日の平均歩数を尋ねたところ、「3,000歩未満」が34.7%で最も多く、次いで「3,000歩以上5,000歩未満」(27.4%)、「5,000歩以上7,000歩未満」(17.8%)と続く。「9,000歩以上」は7.8%と1割に満たない。

性別にみると、「3,000歩未満」は男性より女性が多く、「9,000歩以上」では男性が約1割を占めた。

性・年代別にみると、「9,000歩以上」の割合をみると、男性は20～40代で10%超となったが、年代が上がるにつれ、その割合が下がる傾向で、女性においては20代の8.6%が最も高い割合であった。

1日の平均歩数



(5) 外出頻度

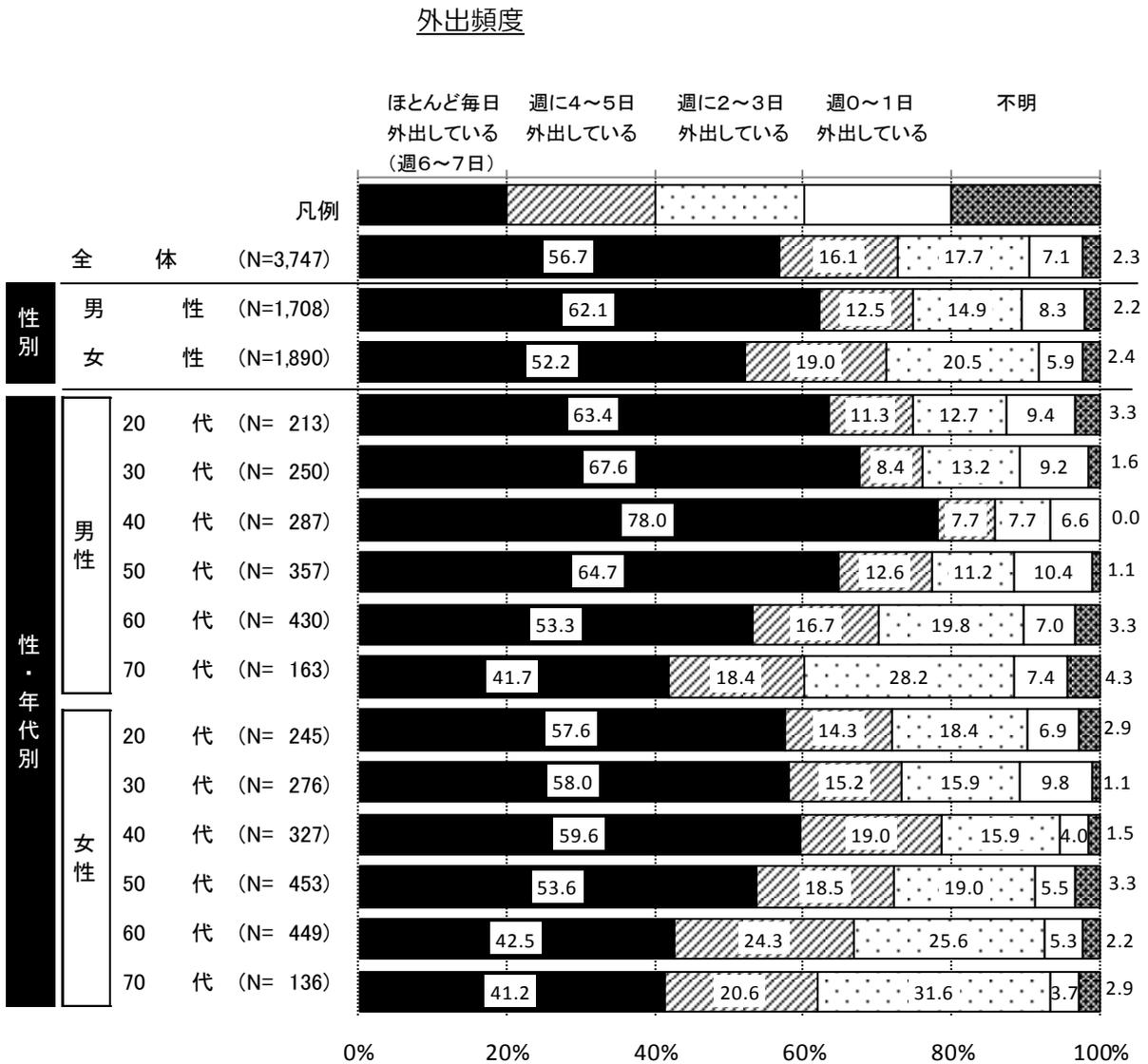
【問 26】あなたは、どれくらい外出していますか。1つ選んで○をつけてください。

普段の外出頻度をみると、「ほとんど毎日外出している」が 56.7%、「週 4～5 日外出している」が 16.1%、「週 2～3 日外出している」が 17.7%、「週 0～1 日外出している」が 7.1%となっており、週の大半（4 日以上）外出している人は 72.8%とほぼ 4 人に 3 人を占める。

前回調査と比べると、週の大半（4 日以上）外出している人の割合が 6 ポイント上昇した。

性別にみると、男性の方が女性よりも外出頻度が高い傾向がみられる。

性・年代別にみると、「ほとんど毎日外出している」人は、40 代が最も多いが、年代が上がるにつれ減少し、70 代では 4 割程度にとどまっている。



(6) 日置市にほしい施設など

【問 27】あなたが、運動を続けていくために、日置市にどのようなものがあったら良いと思いますか。
すべて選んで○をつけてください。

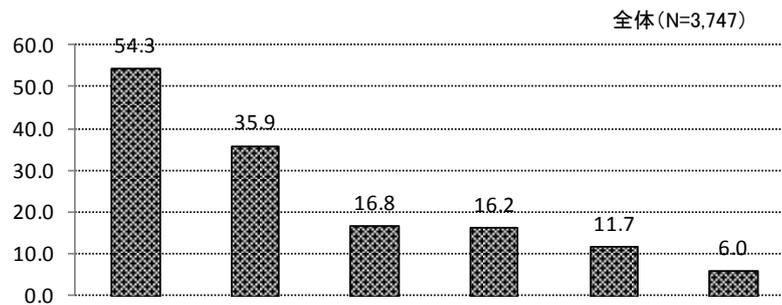
運動を続けていくために日置市にほしいものを尋ねたところ、「運動できる施設」が 54.3%で最も多く、次いで「安全なウォーキングコース」(35.9%)、「仲間・グループ」(16.8%)となり、施設等に対する要望が上位にあがっている。

前回調査と比べると、「運動の指導者」が減少した以外、「運動できる施設」、「安全なウォーキングコース」等は増加している。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向だが、女性の方が各項目で割合が高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の傾向だが、男性の 70 代だけが「安全なウォーキングコース」が最も多くなっている。また、女性の方が男性より「運動の指導者」をあげる傾向がみられる。

日置市に欲しい施設など



(単位: %)		サンプル数	運動できる施設	安全なウォーキングコース	仲間・グループ	運動の教室	運動の指導者	その他	
全体		3,747	54.3	35.9	16.8	16.2	11.7	6.0	
性別	男性	1,708	54.5	32.6	15.3	11.9	9.7	6.8	
	女性	1,890	55.1	39.9	18.1	20.3	13.1	5.1	
性・年代別	男性	20代	213	70.9	22.5	18.8	7.5	6.1	4.2
		30代	250	68.0	28.0	18.0	14.0	9.2	5.6
		40代	287	65.9	34.1	13.6	11.5	9.8	7.3
		50代	357	48.5	37.3	15.1	12.3	9.8	6.2
		60代	430	44.9	34.4	15.1	13.0	11.4	8.1
		70代	163	30.7	36.2	10.4	11.0	10.4	8.6
	女性	20代	245	73.5	33.9	18.4	16.7	6.1	4.1
		30代	276	63.4	45.3	19.6	21.4	11.6	6.2
		40代	327	63.6	37.9	16.2	22.3	13.5	5.8
		50代	453	52.3	45.3	19.2	21.0	13.2	3.8
		60代	449	44.3	40.3	15.8	21.8	17.4	5.6
		70代	136	30.9	26.5	22.8	12.5	14.0	6.6

注: 網掛けは、該当項目の中で最も高い割合

(7) 健康に対する運動の重要性

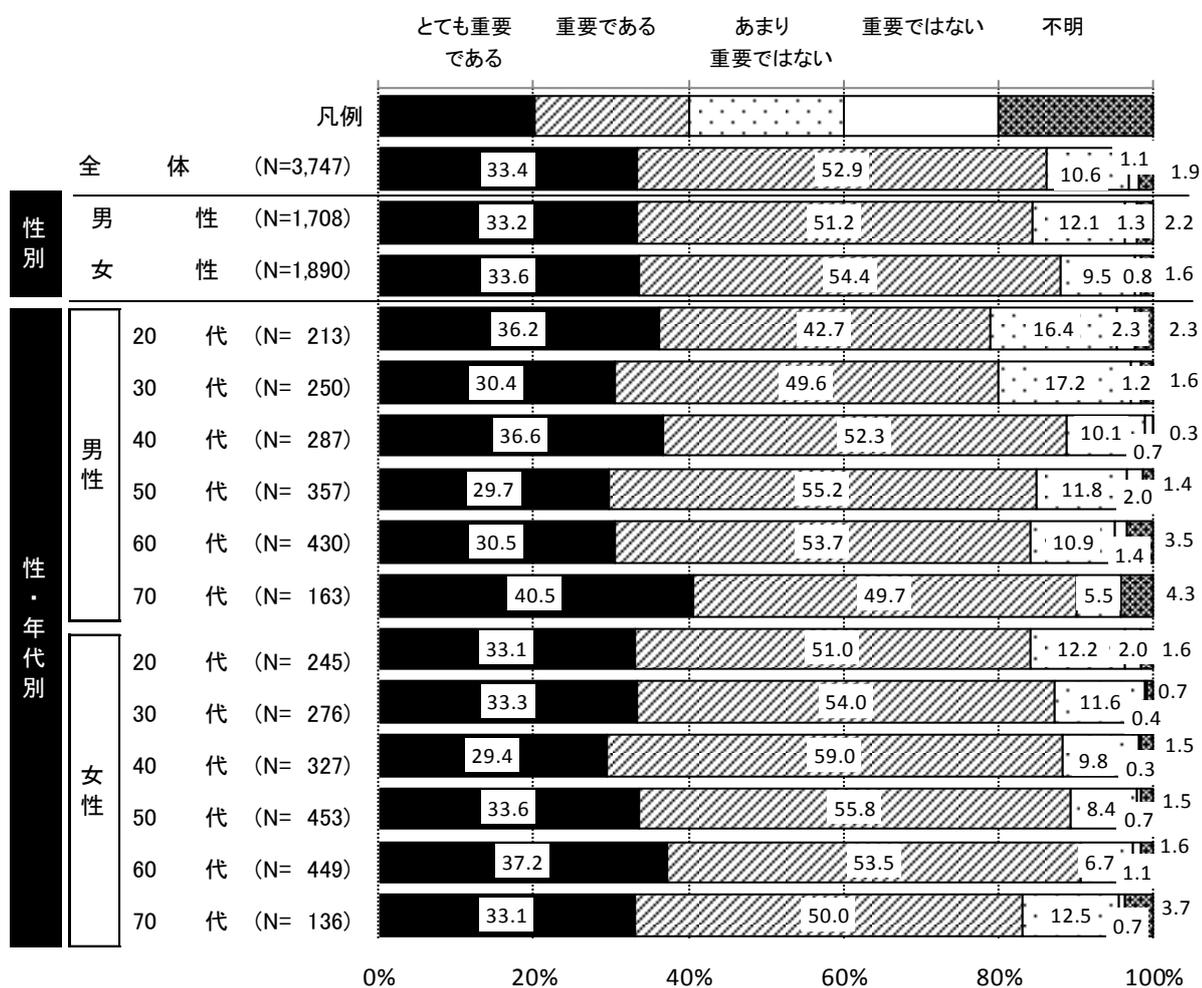
【問 28】運動は、あなたの健康にとってどのくらい重要ですか。1つ選んで○をつけてください。

運動が健康にとってどのくらい重要か尋ねたところ、「とても重要である」と回答した人が 33.4%、「重要である」と回答した人が 52.9%と、8 割以上の人が重要だと回答している。

前回調査と比べると、重要だとする回答が 4.8 ポイント増加した。

性別にみると、男女とも同様の結果で、ともに 8 割以上の人が重要だと回答している。

健康に対する運動の重要性



5 休養・こころの健康について

(1) ストレスを感じた経験

【問 29】最近2週間以上ストレスを感じていますか。1つ選んで○をつけてください。

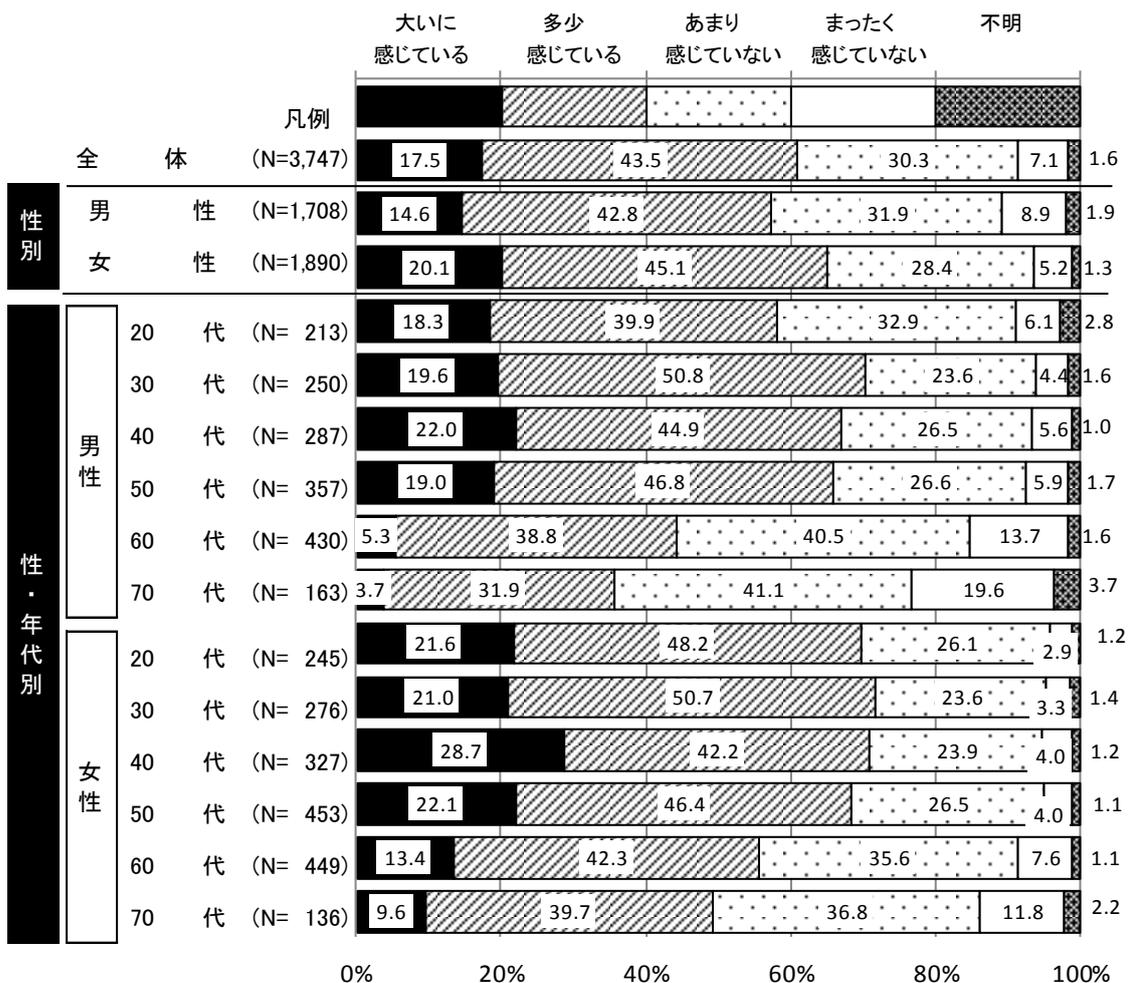
最近、2週間以上にわたってストレスを感じた経験があるかどうか尋ねたところ、「大いに感じている」が17.5%、「多少感じている」が43.5%と、約6割の人がストレスを感じている。また、「あまり感じていない」(30.3%)、「まったく感じていない」(7.1%)という人は4割弱みられる。

前回調査と比べると、「大いに感じている」人が1.9ポイント増加している。

性別にみると、女性が男性よりストレスを感じている人が多い。

性・年代別にみると、男女とも20～50代でストレスを感じている人が多い傾向がみられる。「大いに感じている」では、男女とも40代が多い。

最近2週間以上ストレスを感じた経験



(2) 自殺について考えることの有無

【問 30】気分が落ち込んで自殺について考えることがありますか。1つ選んで○をつけてください。

自殺について考えることの有無について尋ねたところ、「ほとんどない」が 86.0%と大半を占めるものの、自殺を考えたことのある人（「ある」+「たまにある」）が 12.2%であった。

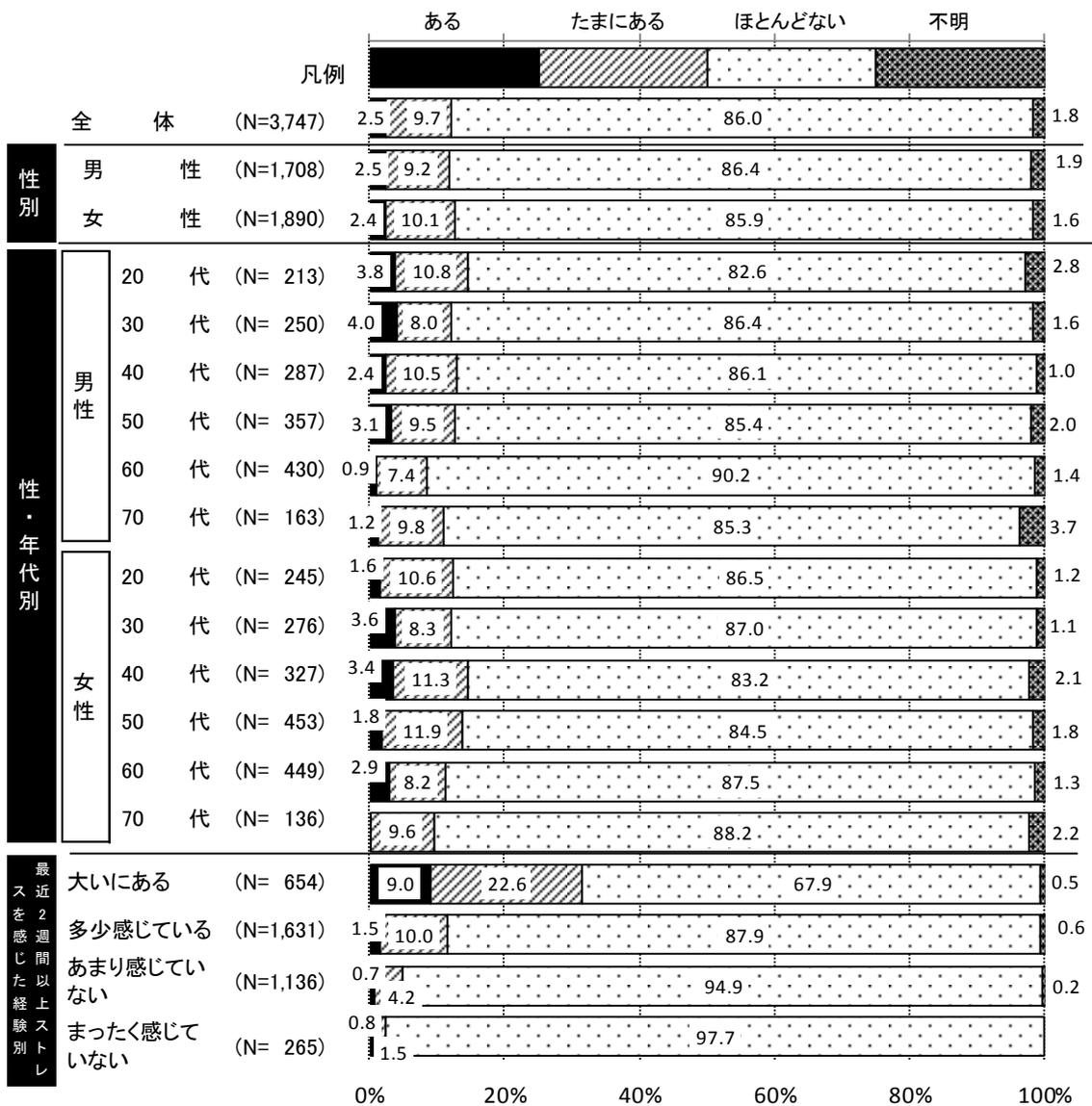
前回調査と比べると、自殺を考えたことのある人は 3.5 ポイント減少し、「ほとんどない」が 3.1 ポイント増加した。

性別にみると、ほぼ同様の結果となった。

性・年代別にみると、男性 60 代及び女性 70 代が相対的に低い。

ストレス経験別にみると、ストレスを感じる人ほど自殺について考えることのある人が多くっており、ストレス経験と自殺について考えることの有無は、相関関係にあるといえる。

自殺について考えることの有無



(3) 気分転換やストレス解消の有無

【問 31】気分転換やストレス解消のために何かしていますか。どちらかに○をつけてください。

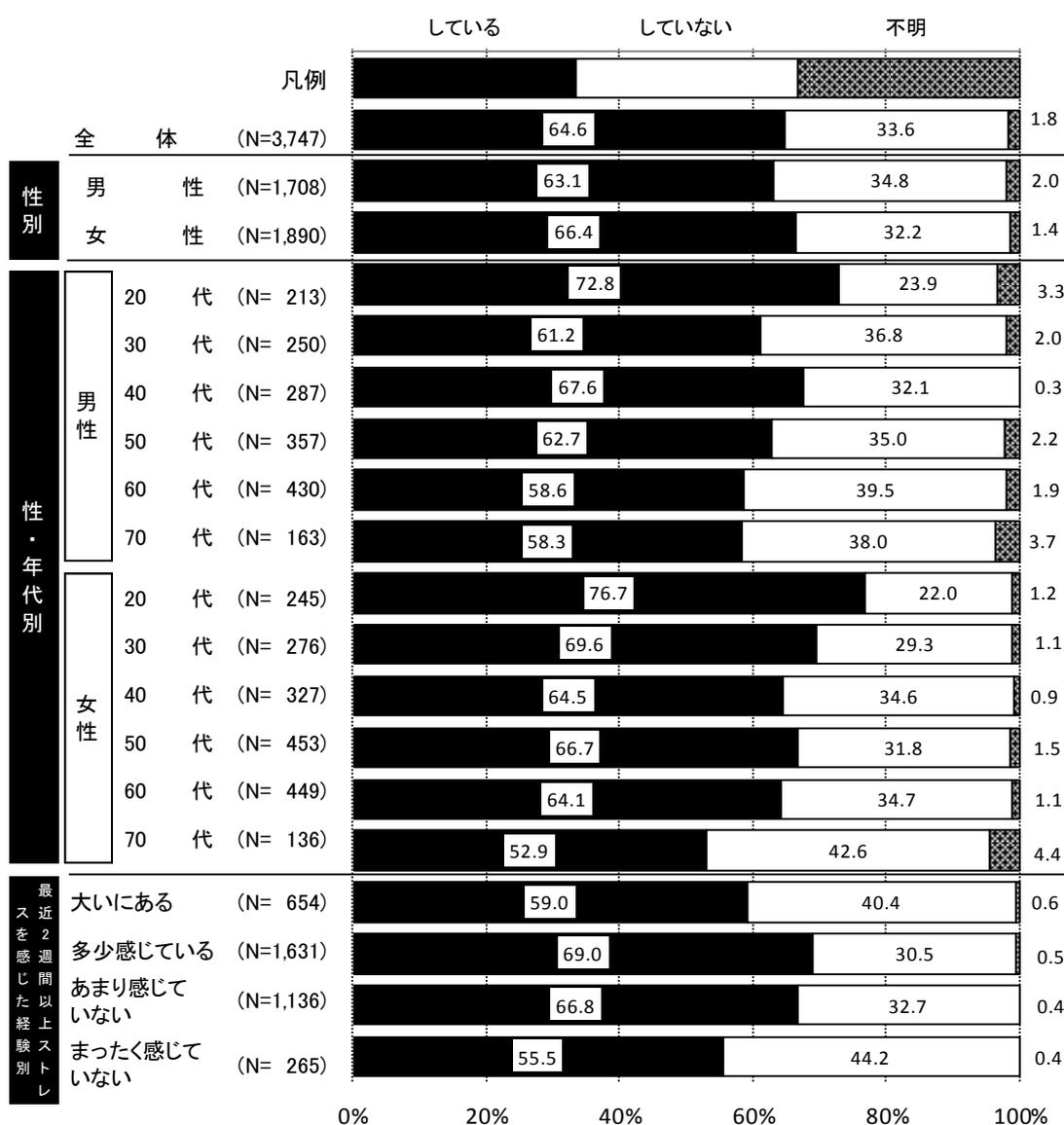
気分転換やストレス解消のために何かしているかどうか尋ねたところ、「している」が 64.6%と過半数を占め、「していない」が 33.6%となっている。

前回調査と比べると、「している」が 1.3 ポイント増加し、「していない」が 1.6 ポイント減少した。性別にみると、女性が男性に比べ、ストレス解消のために何かしている人が多い。

性・年代別にみると、男女とも 20代で気分転換やストレス解消のための行動をしている割合が高い。

ストレス経験別にみると、ストレスの有無にかかわらず何かを実施する人が多く、あまり相関関係はみられない。

気分転換やストレス解消のための行動



(4) 県内温泉施設の利用状況

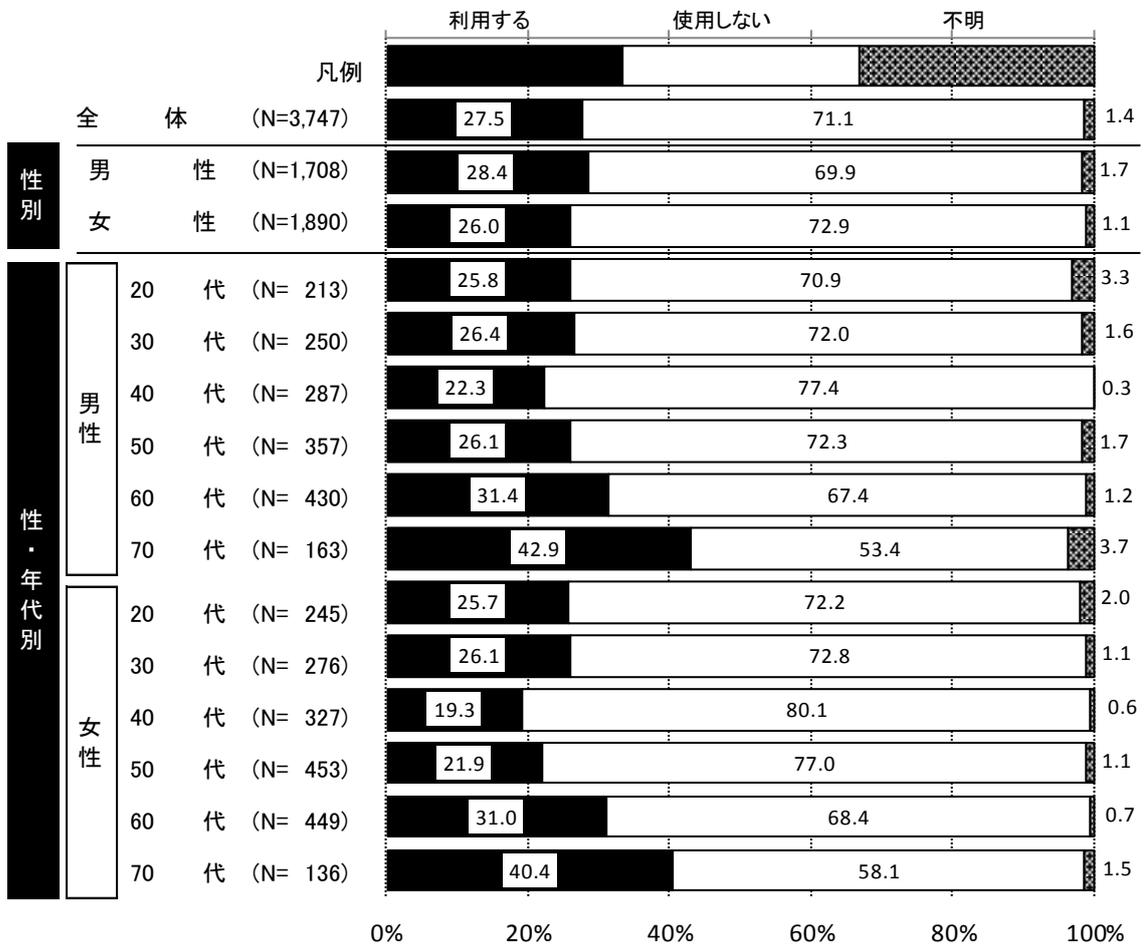
【問 32】月に1回以上県内の温泉地や公衆浴場を利用しますか。どちらかに○をつけてください。

月に1回以上、県内の温泉施設を利用するかどうか尋ねたところ、「利用する」は27.5%、「利用しない」が71.1%となっている。

性別にみると、男性が28.4%、女性が26.0%だった。

性・年代別にみると、男女とも年代が高いほど県内の温泉施設を利用する人が多いが、前回調査と比べると男女とも20~30代で利用する人が増加している。

県内の温泉地や公衆浴場の温泉の利用（月1回以上）



(5) 身近な相談相手の有無

【問 33】悩みや困ったことを相談できる相手がありますか。どちらかに○をつけてください。

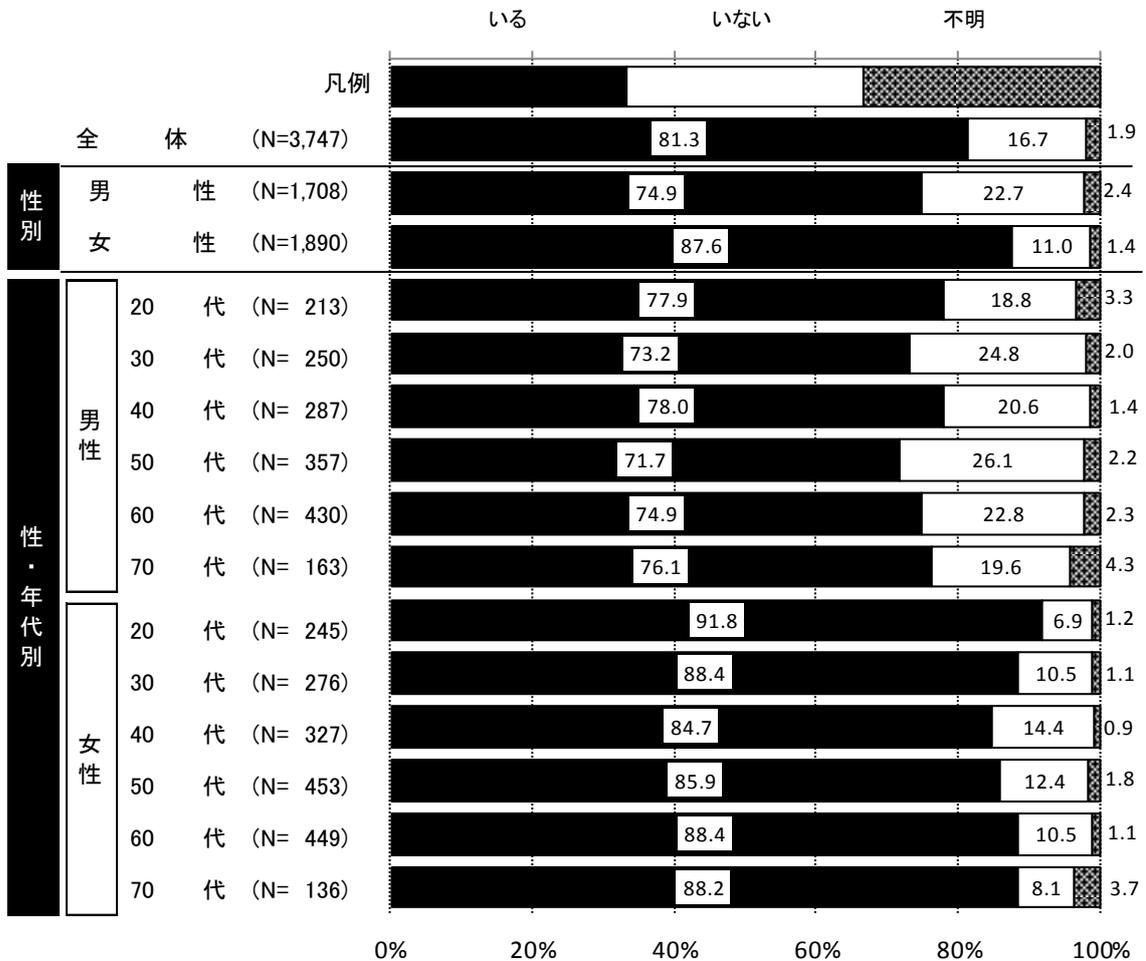
身近な相談相手の有無をみると、「いる」が 81.3%と大半を占めるものの、「いない」と答える人も 16.7%を占めた。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、女性が男性に比べ相談相手がいる割合が高く、男性の場合「いない」(22.7%)が約 4 人に 1 人ほどみられる。

性・年代別にみると、男性の 30 代、50 代が、女性の中では 40 代が、他の年代に比べ相対的に相談相手のいる割合が低くなっている。

身近な相談相手の有無



(6) 十分な休養の有無

【問 34】あなたは、休養が十分にとれていると思いますか。1つ選んで○をつけてください。

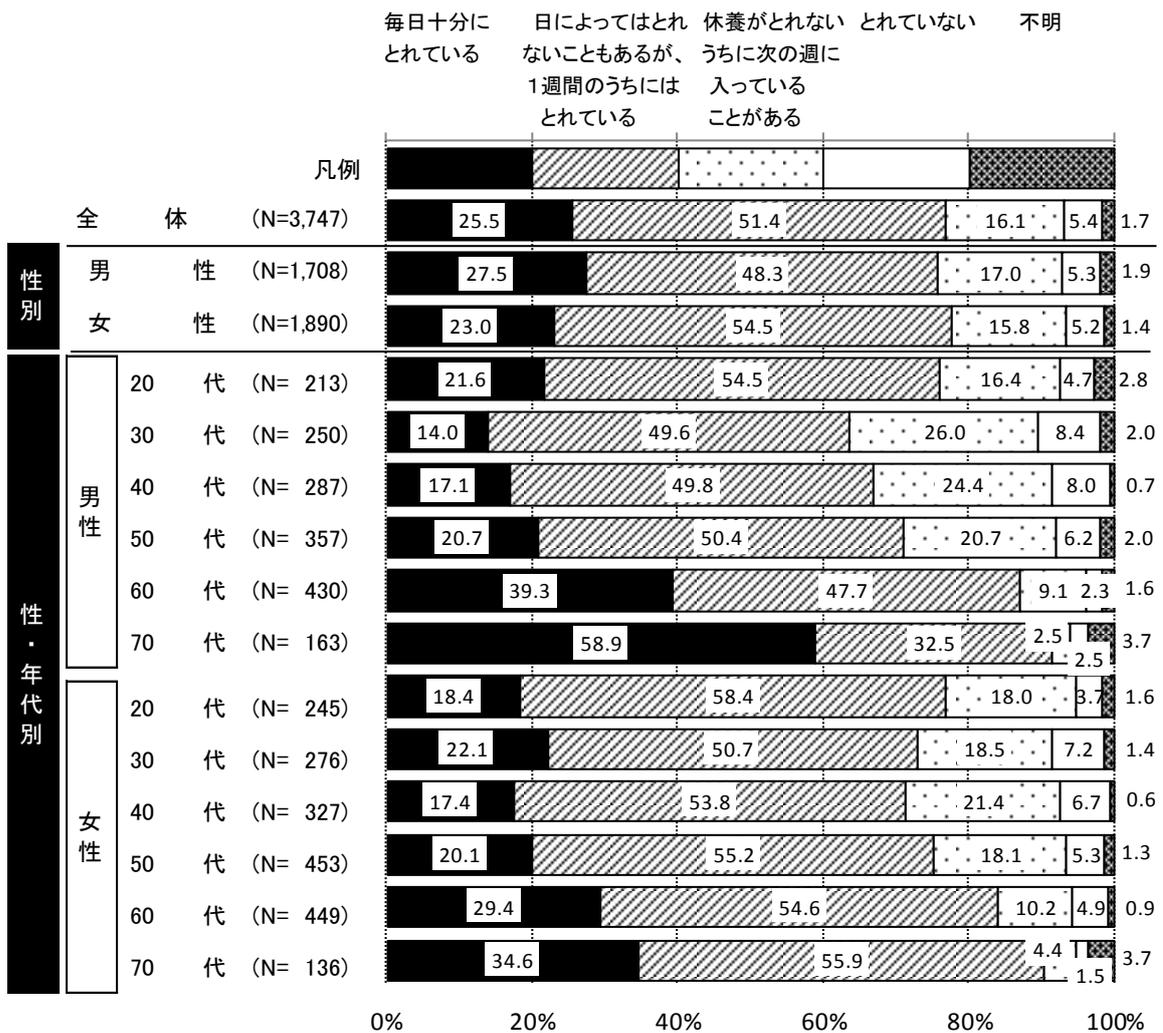
普段、休養が十分にとれているかどうか尋ねたところ、「毎日十分にとれている」が 25.5%、「日によってはとれないこともあるが、1週間のうちにはとれている」が 51.4%と、1週間のサイクルで十分な休養がとれる人が4人中3人を占める。なお、「休養が十分とれないうちに、次の週に入っていることがある」が 16.1%、「とれていない」が 5.4%と、十分な休養がとれていない人も2割程度みられる。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、男性は「毎日十分にとれている」、女性は「1週間のうちにはとれている」が多い。

性・年代別にみると、男性は30代、女性は40代を中心として十分な休養がとれていない人が多くみられ、逆に、年代が高いほど十分な休養をとっているようである。ただし、70代の女性は、前回調査と比べると「毎日十分にとれている」人が16.9ポイント減少している。

休養状況



(7) きちんとした睡眠の有無

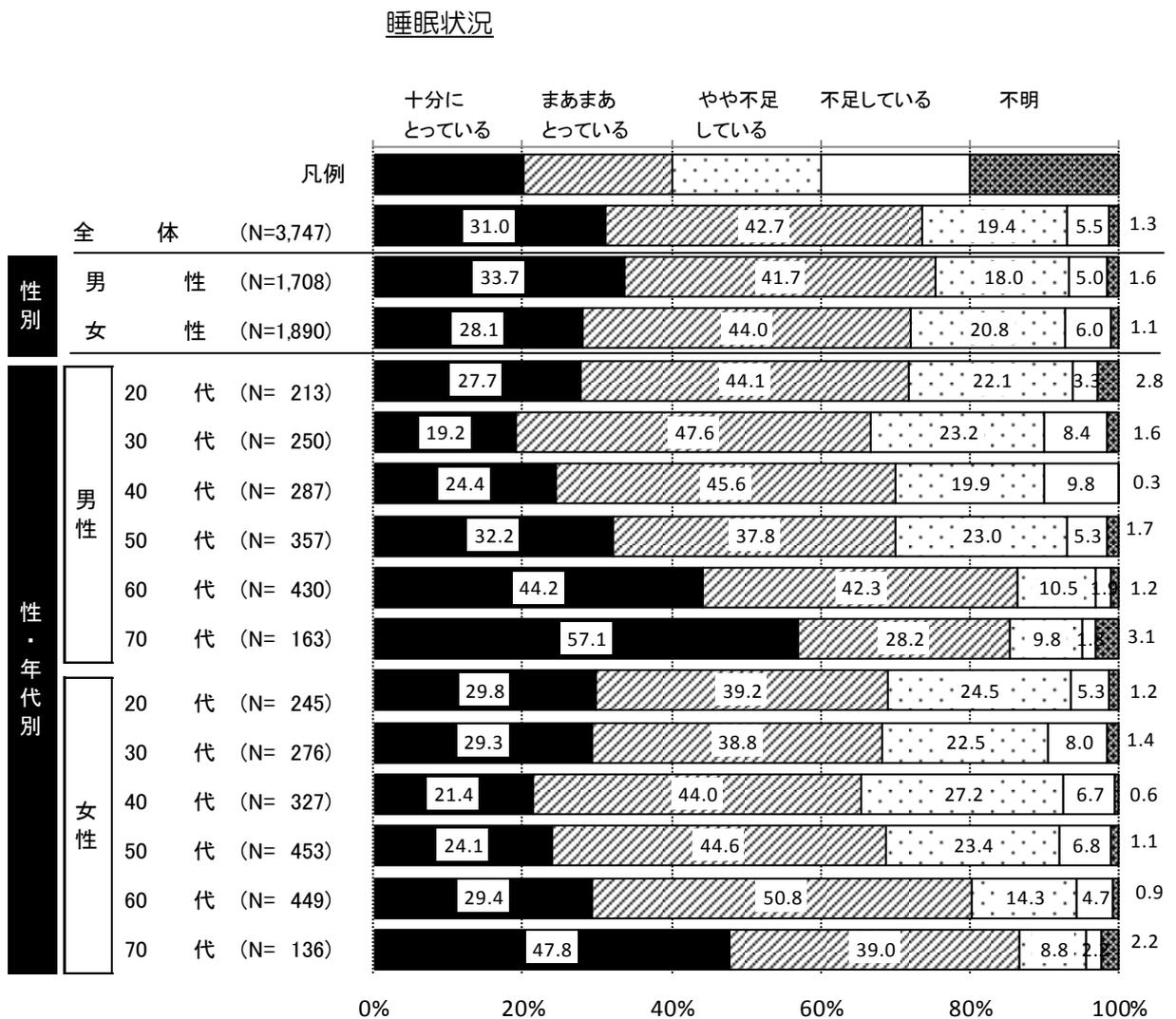
【問 35】睡眠はきちんとしていますか。1つ選んで○をつけてください。

きちんとした睡眠がとれているかどうか尋ねたところ、「十分にとっている」が 31.0%、「まあまあとっている」が 42.7%と、4人中3人はおおむねとれている。しかし、「やや不足している」が 19.4%、「不足している」が 5.5%と、睡眠不足の人も2割以上みられる。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、男性は「十分にとっている」という割合が女性よりも高い。

性・年代別にみると、男女ともきちんとした睡眠を「十分にとっている」と答える人が70代で多く、特に、男性70代では過半数を超えている。



(8) 睡眠剤などの利用状況

【問 36】睡眠確保のために睡眠剤やアルコールを使うことがありますか。1つ選んで○をつけてください。

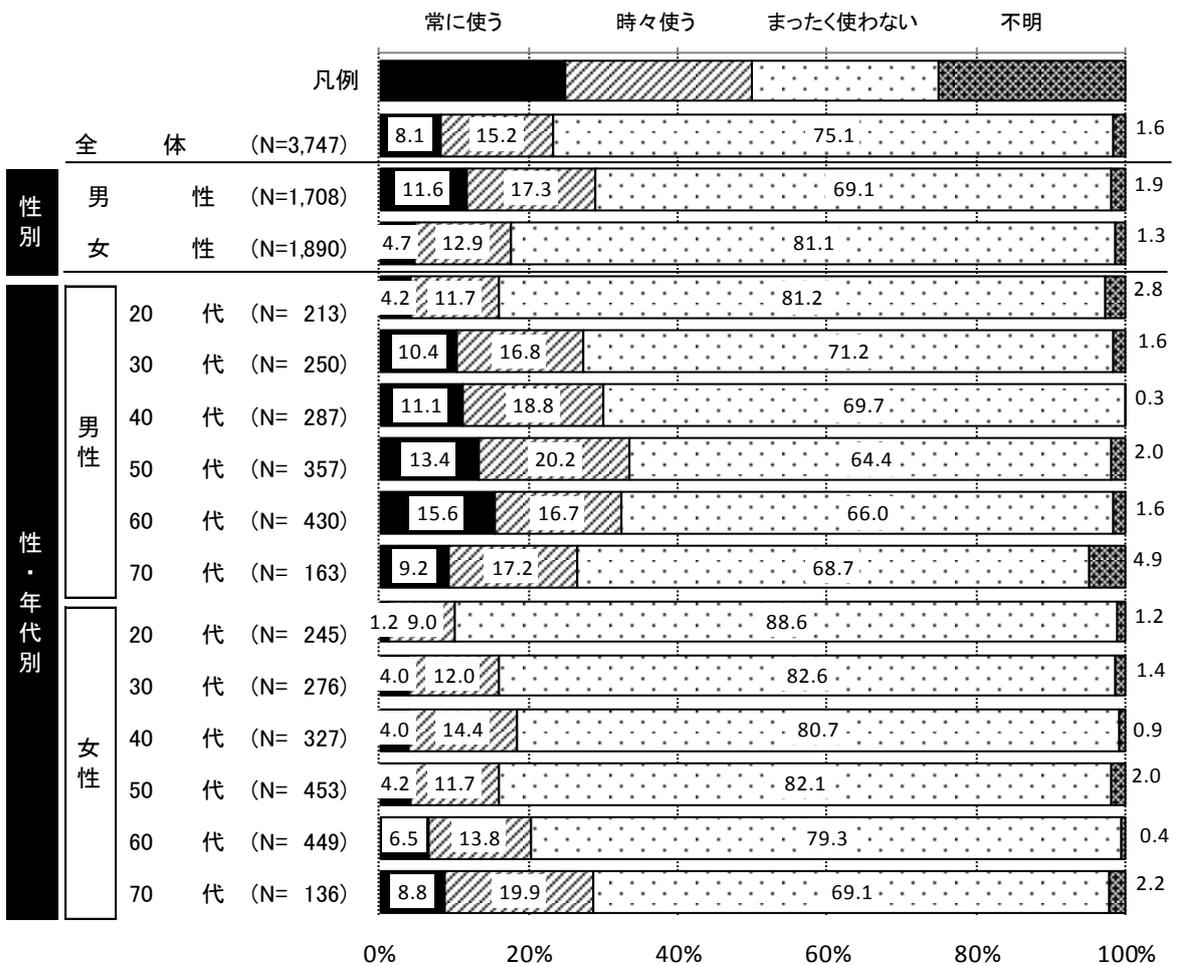
睡眠を確保するために睡眠剤やアルコールを利用するかどうかが尋ねたところ、「常に使う」は8.1%、「時々使う」が15.2%と、睡眠のための何らかの手段を講じる人は2割以上みられる。なお、「まったく使わない」は75.1%を占める。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、男性が女性に比べ睡眠のために何らかの手段を講じている割合が高い。

性・年代別にみると、男性は50～60代、女性は70代が他の年代を比べ睡眠のために何らかの手段を講じている人が多くなっている。

睡眠確保のための睡眠剤やアルコールの使用状況



6 たばこについて

(1) 喫煙状況

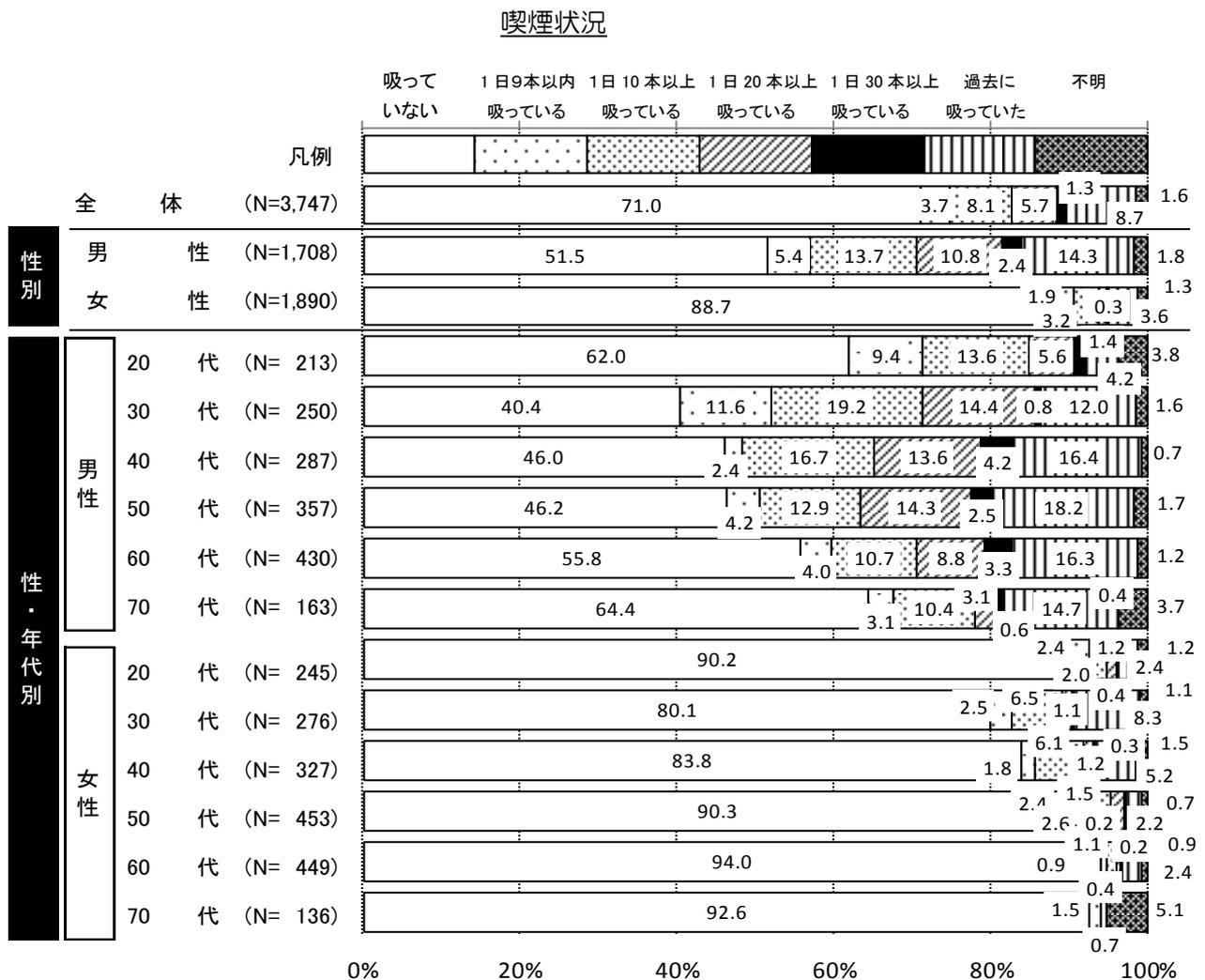
【問 37】あなたは、たばこを吸っていますか。1つ選んで○をつけてください。

たばこの喫煙状況をみると、「1日30本以上吸っている」が1.3%、「1日20本以上吸っている」が5.7%、「1日10本以上吸っている」が8.1%、「1日9本以内吸っている」が3.7%と、喫煙率は18.7%となっている。なお、「吸っていない」と「過去に吸っていた」を合わせると79.7%を占める。

前回調査と比べると、喫煙者が減少している。

性別にみると、喫煙率は男性（32.3%）、女性（6.3%）を大きく上回り、男性の場合1日20本以上吸う人が1割以上を占める。

性・年代別にみると、男性の30～50代で喫煙率が高い。



(2) 禁煙意向

【問 37 附問】(【問 37】で「2~5」と答えた方へ)

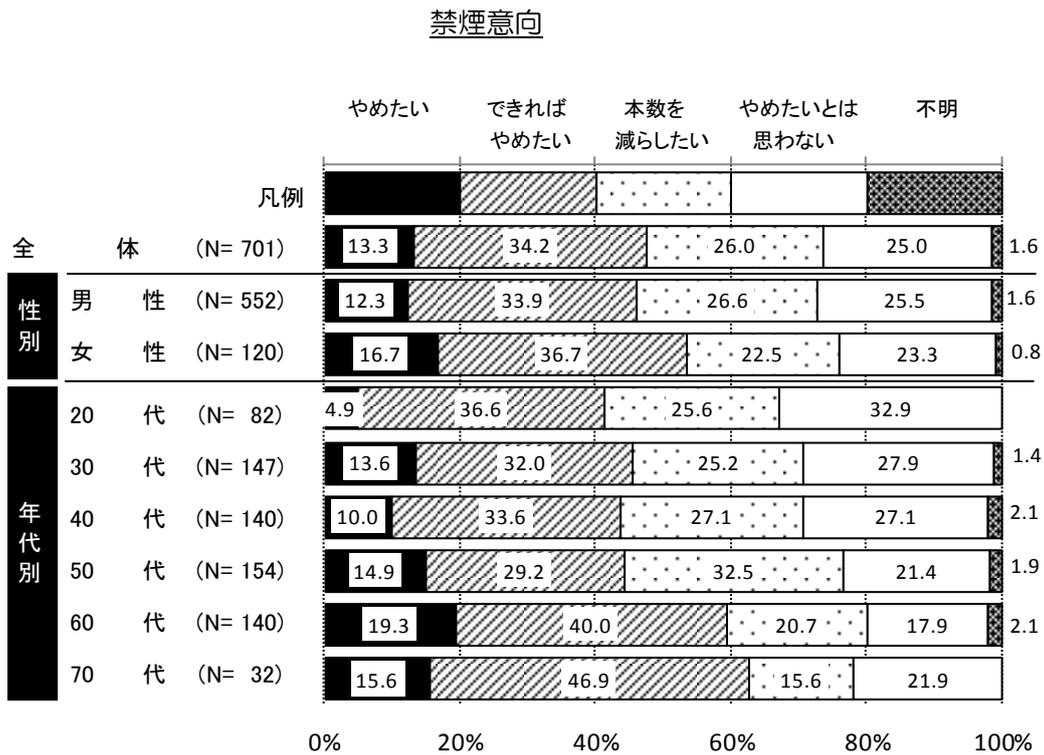
たばこについて、やめたいと思いますか。1つ選んで○をつけてください。

喫煙者(701人)の禁煙動向をみると、「やめたい」が13.3%、「できればやめたい」が34.2%、「本数を減らしたい」が26.0%となり、『禁煙意向者』では5割弱、禁煙意向者に『節煙意向者』を加えると4人中3人を占める。なお、「やめたいとは思わない」という人は25.0%である。

前回調査と比べると、禁煙意向者が減少し、「やめたいとは思わない」が増加している。

性別にみると、女性が男性に比べ禁煙意向が強いようである。

年代別にみると、60代以上で禁煙意向が強い傾向がみられる。若い世代では「やめたいとは思わない」と答える人が他の世代より多い傾向となった。



(3) 受動喫煙の影響について

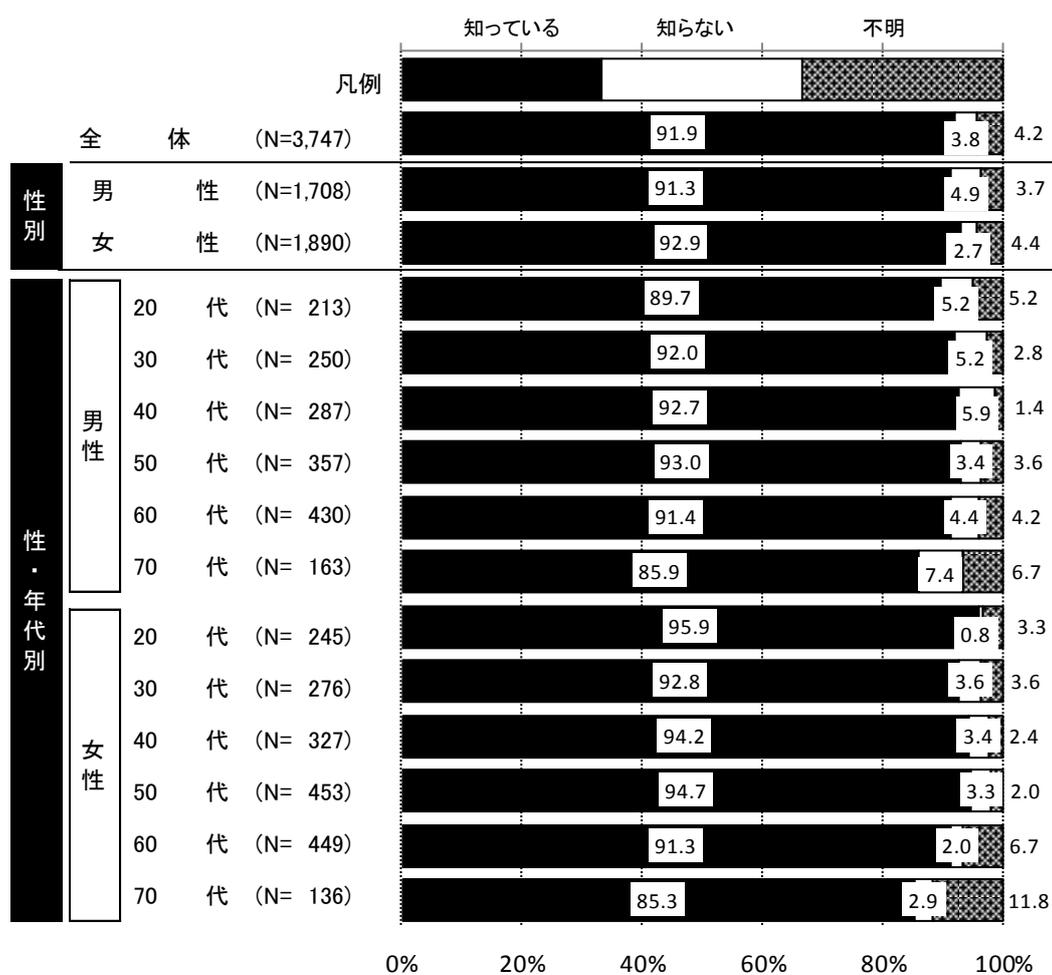
【問 38】受動喫煙が健康に影響することを知っていますか。1つ選んで○をつけてください。

受動喫煙が健康に影響することを知っているかどうか尋ねたところ、「知っている」が 91.9%、「知らない」が 3.8%となった。

性別にみると、男女とも大半が「知っている」状況だが、男性では「知らない」が 4.9%であり、女性より 2.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女とも受動喫煙が健康に影響することの認知度は高いものの、男性 70 代では「知らない」と答えた人の割合が他の年代の人に比べ高くなっている。

受動喫煙による影響の認知状況



(4) 喫煙によってかかりやすい疾患

【問 39】喫煙によってどのような疾患にかかりやすくなると思いますか。あてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

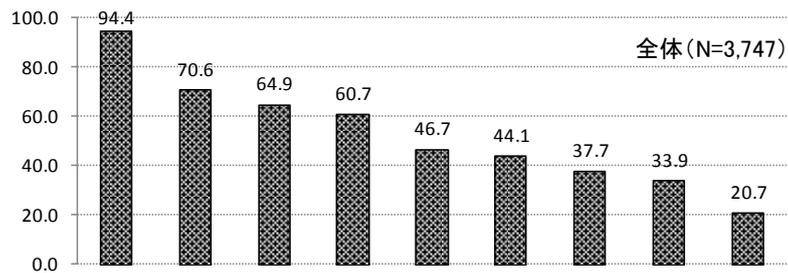
喫煙によってかかりやすい疾患を尋ねたところ、「肺がん」が 94.4%で圧倒的に高く、以下、「気管支炎」(70.6%)、「妊婦への影響」(64.9%)、「ぜんそく」(60.7%)、「脳卒中」(46.7%)、「心臓病」(44.1%)、COPD(慢性閉塞性肺疾患) (37.7%)、「歯周病」(33.9%)と続き、「胃潰瘍」(20.7%)と答える人が最も少ない。

前回調査と比べると、今回から選択肢に加わった COPD(慢性閉塞性肺疾患) (37.7%)を除き、すべての疾患で増加している。

性別にみると、男女とも「肺がん」が第1位だが、女性の場合「妊婦への影響」を指摘する割合が2番目にあげられている。

性・年代別にみると、どの年代も「肺がん」が圧倒的に多いが、女性の20～50代で「妊婦への影響」を2番目に指摘している。

喫煙によってかかりやすい疾病



(単位: %)		サンプル数	肺がん	気管支炎	妊婦への影響	ぜんそく	脳卒中	心臓病	COPD (慢性閉塞性肺疾患)	歯周病	胃潰瘍	
全体		3,747	94.4	70.6	64.9	60.7	46.7	44.1	37.7	33.9	20.7	
性別	男性	1,708	94.4	69.0	53.2	58.9	50.0	45.8	32.8	31.9	22.7	
	女性	1,890	94.8	72.8	77.0	62.9	44.5	42.9	43.0	36.2	18.7	
性・年代別	男性	20代	213	90.6	61.5	54.5	57.3	42.3	36.6	35.2	40.4	23.0
		30代	250	97.6	72.4	64.4	62.0	58.4	45.2	37.6	42.4	23.6
		40代	287	96.2	68.6	63.4	62.4	58.9	51.6	40.4	42.5	26.5
		50代	357	96.4	70.6	53.5	57.4	52.9	48.5	32.5	28.6	22.4
		60代	430	94.2	70.0	45.6	57.0	45.3	46.5	29.1	24.0	21.9
		70代	163	87.7	67.5	35.6	57.7	37.4	41.1	19.0	12.9	16.0
	女性	20代	245	98.0	74.7	83.7	62.4	39.6	35.5	43.3	48.6	18.8
		30代	276	94.6	75.4	85.5	65.6	52.9	43.1	50.0	47.8	21.4
		40代	327	96.9	70.0	79.2	63.3	56.9	47.1	40.7	41.3	19.6
		50代	453	95.4	72.6	78.1	63.1	46.6	47.0	45.9	36.0	21.6
		60代	449	93.5	75.5	72.8	64.1	36.3	43.4	41.9	25.2	15.6
		70代	136	88.2	63.2	53.7	53.7	27.2	30.1	28.7	16.2	12.5

注: 網掛け数字は、該当項目の中での1位と2位の疾患

(5) 学校・職場での分煙状況

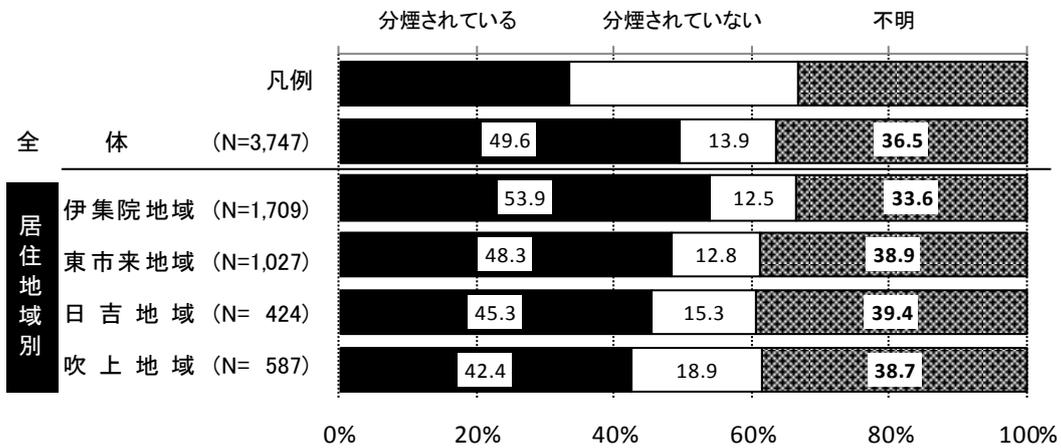
【問 40】該当される方のみにお聞きます。

あなたの学校・職場では分煙されていますか。1つ選んで○をつけてください。

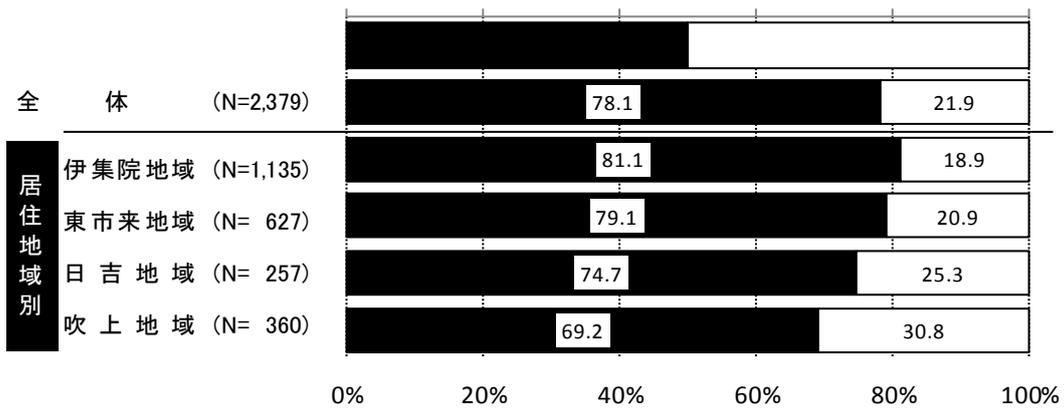
学校・職場における分煙の実施状況をみると、「分煙されている」が78.1%、「分煙されていない」が21.9%であり、約8割が分煙を実施していることになる。

前回調査と比べると、「分煙されている」が増加し、「分煙されていない」が減少している。

学校・職場での分煙状況



学校・職場での分煙状況（該当者のみ）



(6) 家庭での分煙状況

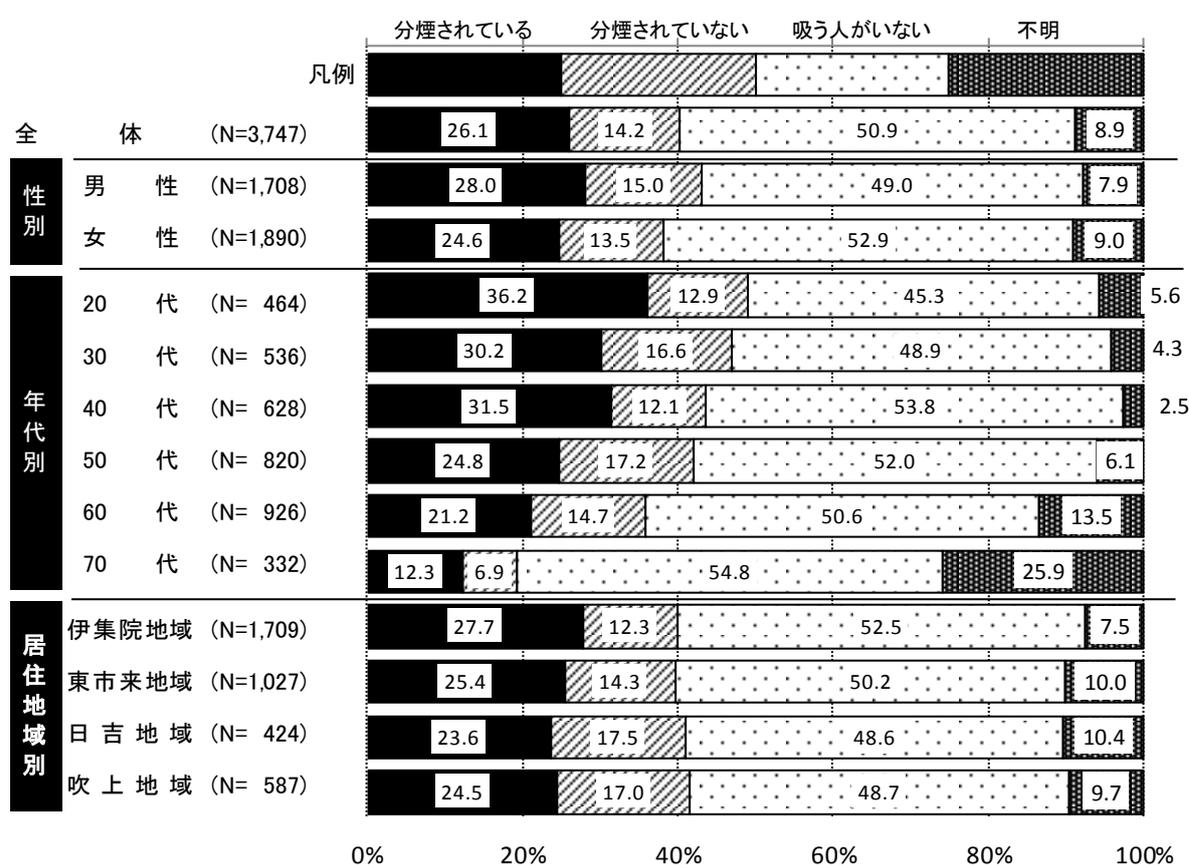
【問 41】あなたの家庭では分煙されていますか。1つ選んで○をつけてください。

家庭における分煙の実施状況を見ると、「分煙されている」が26.1%、「分煙されていない」が14.2%であり、分煙を実施している家庭の割合は、「吸う人がいない」、「不明」を除外すれば6割強にとどまっている。

性別にみると、男性の方が女性より「分煙されている」割合がやや高くなっている。

居住地別にみると、「伊集院地域」(27.7%)が最も高く、以下、「東市来地域」(25.4%)、「日吉地域」(23.6%)と続き、「吹上地域」は24.5%となっている。

家庭での分煙状況

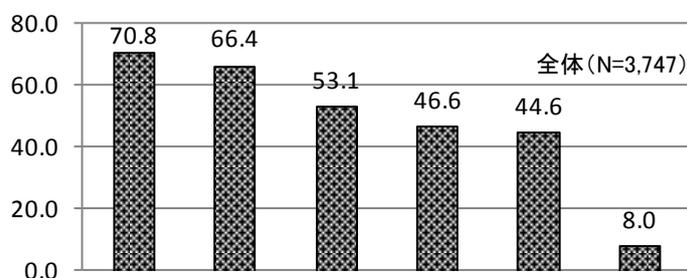


(7) 迷惑と思う喫煙場所

【問 42】どのような場所で、たばこを吸うことが迷惑だと感じますか？あてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

どのような場所で、たばこを吸うことが迷惑だと感じるかを尋ねたところ、「医療機関」が 70.8%、「飲食店」が 66.4%、「行政機関」が 53.1%、「職場」が 46.6%と続き、「家庭」が 44.6%となった。性別にみると、男女とも同様の傾向だが、女性の方が、それぞれの選択肢で割合が高くなっている。性・年代別にみると、女性の 40 代以上では「飲食店」と答えた割合が最も高く、男性や他の世代と異なる傾向にある。

迷惑だと思う喫煙場所



(単位: %)		サンプル数	医療機関	飲食店	行政機関	職場	家庭	その他	
全 体		3,747	70.8	66.4	53.1	46.6	44.6	8.0	
性別	男 性	1,708	69.1	60.1	51.3	42.9	42.6	8.7	
	女 性	1,890	73.0	72.9	55.5	50.2	46.7	7.5	
性・年代別	男性	20 代	213	67.1	51.2	46.5	31.9	36.2	5.6
		30 代	250	72.0	59.6	48.0	36.8	40.4	8.8
		40 代	287	69.7	64.1	48.4	42.9	41.5	8.4
		50 代	357	72.5	63.6	55.2	49.9	40.6	9.5
		60 代	430	69.1	64.0	56.0	48.8	49.3	10.2
		70 代	163	58.3	47.2	46.6	35.0	41.1	6.7
	女性	20 代	245	71.8	71.8	55.9	52.7	49.0	7.3
		30 代	276	74.6	71.0	52.5	47.8	40.9	9.1
		40 代	327	76.5	76.8	55.7	50.5	41.9	6.7
		50 代	453	77.3	78.4	60.5	55.4	51.4	8.4
		60 代	449	70.6	70.6	56.6	49.4	48.8	5.8
		70 代	136	58.8	60.3	41.2	36.0	43.4	8.8

注: 網掛け数字は、該当項目の中での 1 位及び 2 位

7 アルコールについて

(1) 飲酒状況

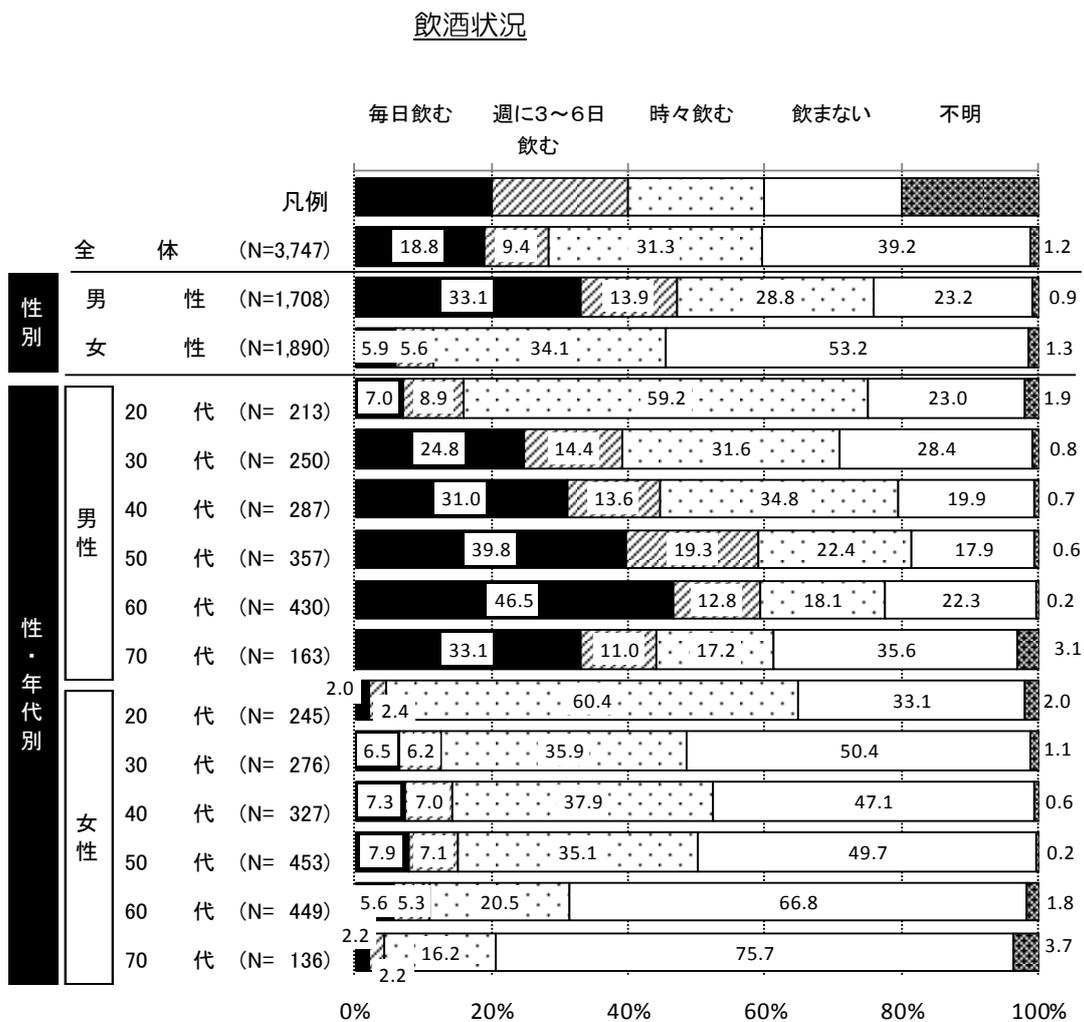
【問 43】あなたは、アルコールを飲んでいますか。1つ選んで○をつけてください。

飲酒状況を見ると、「毎日飲む」が18.8%、「週に3～6日飲む」が9.4%、「時々飲む」が31.3%と、飲酒率は約6割（59.5%）となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、飲酒率は男性が75.8%で、女性の45.5%を大きく上回っている。男性の場合、「毎日飲む」が33.1%を占めた。

性・年代別にみると、男性の20代で「毎日飲む」は7.0%であり、男性の他の年代に比べると最も低い。



(2) 1回あたりの飲酒量

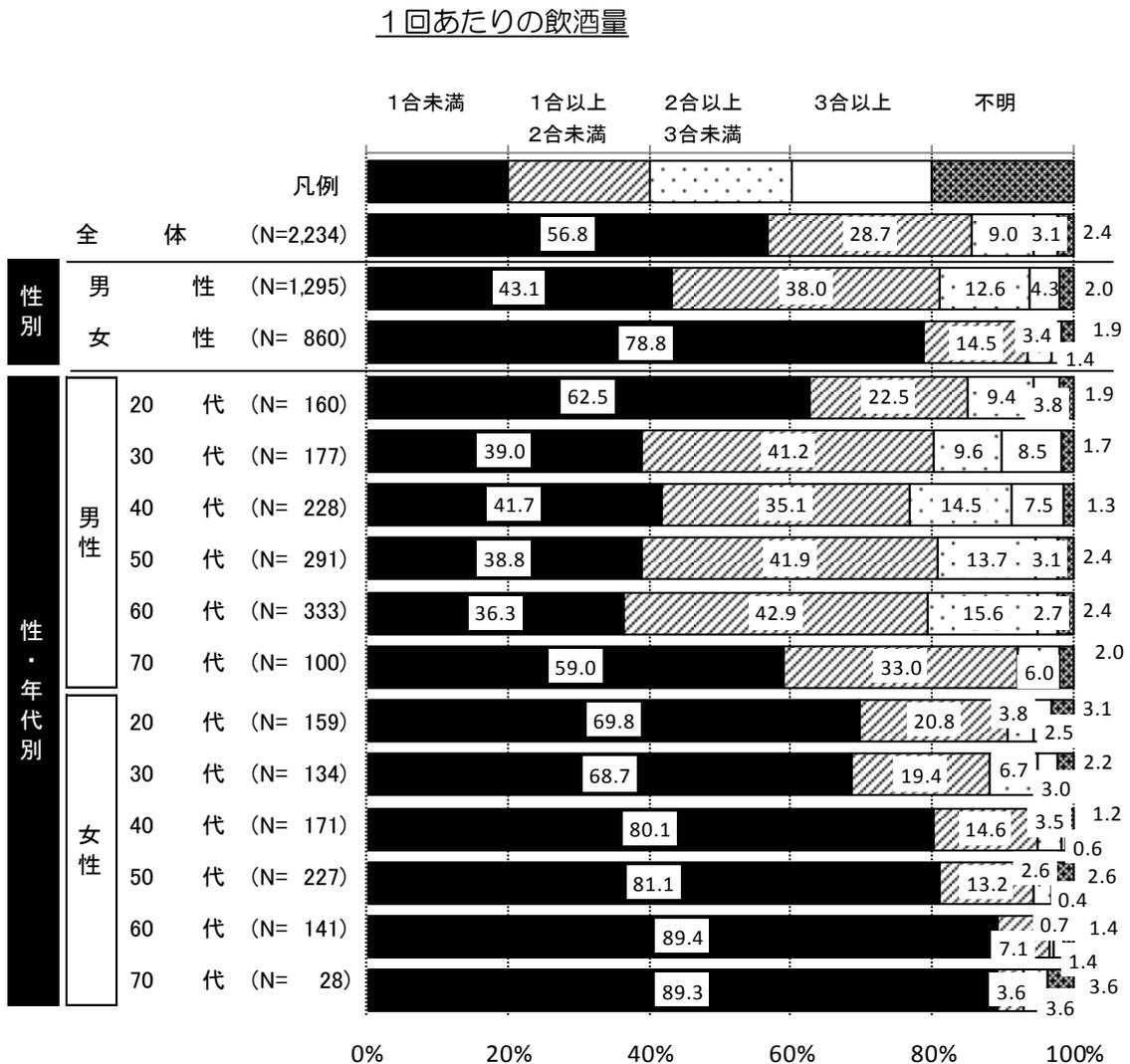
【問 43 附問】(【問 43】で「1～3」と答えた方へ)

現在の1回あたりの飲酒量はどれくらいですか。1つ選んで○をつけてください。

現在の1回あたりの飲酒量をみると、「1合未満」が56.8%と過半を占めた。ただ、「1合以上2合未満」が28.7%、「2合以上3合未満」が9.0%、「3合以上」が3.7%となっている。『節度のある適度の飲酒（1日平均純アルコールで約20g=1合）』からみると、飲酒量の多い層もみられる。

性別にみると、女性より男性の方が1回あたりの飲酒量が多い。

性・年代別にみると、男性は30～60代を中心に飲酒量が多く、男性40代では1回の飲酒量が2合以上の人が約2割（22.0%）を占めた。一方、女性では、年代が低いほど1合以上の飲酒する割合が高くなる傾向にある。



8 歯の健康について

(1) 歯磨きの頻度

【問 44】毎日歯磨き(入れ歯も含む)をしていますか。1つ選んで○をつけてください。

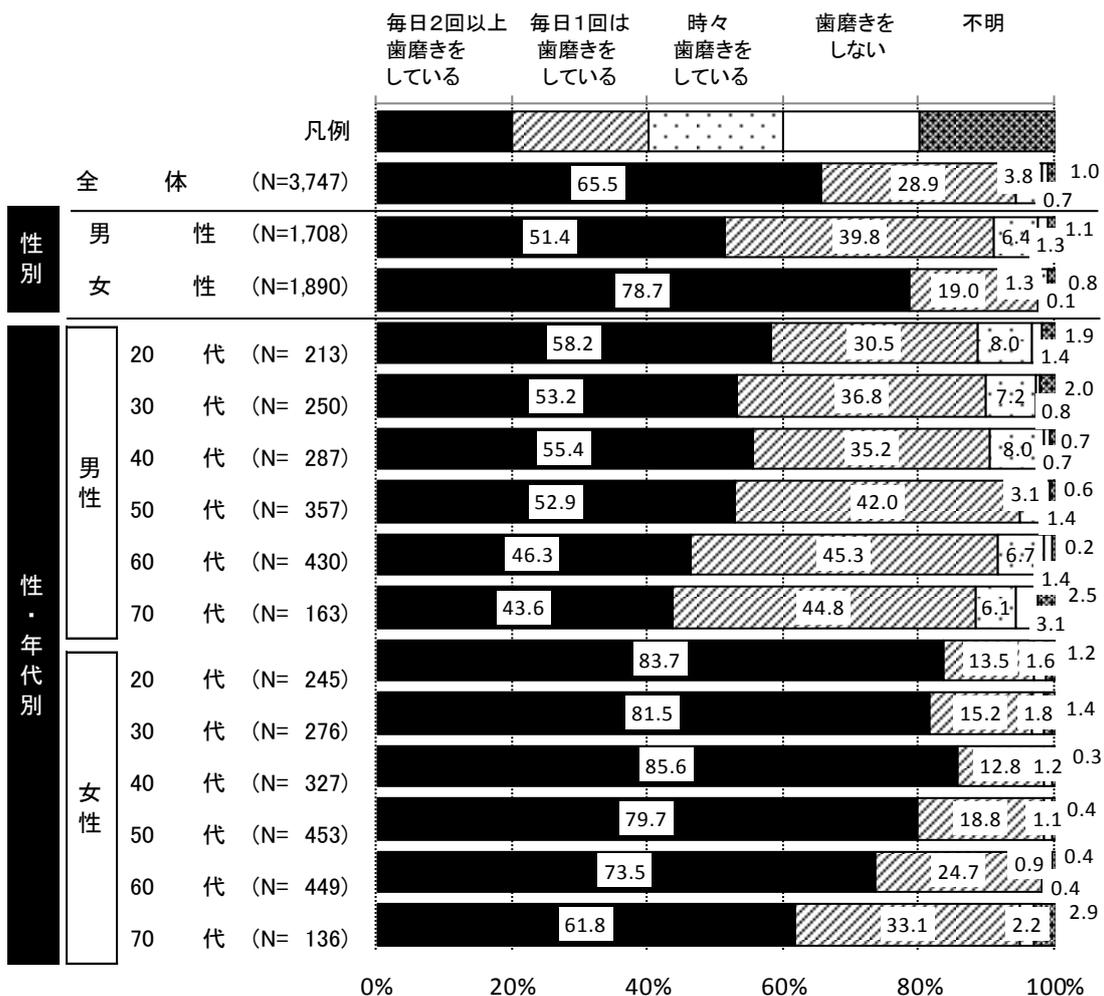
歯磨きの頻度をみると、「毎日2回以上歯磨きをしている」が65.5%、「毎日1回は歯磨きをしている」が28.9%と回答しており、1日1回以上歯磨きをする人が9割超を占める。なお、「時々歯磨きをしている」は3.8%、「歯磨きをしない」は0.7%である。

前回調査と比べると、「毎日2回以上歯磨きをしている」が増加している。

性別にみると、女性が男性に比べ歯磨き頻度は高い。女性は「毎日2回以上歯磨きをしている」が8割弱を占める。

性・年代別にみると、男女とも「毎日2回以上歯磨きをしている」は、年代が上がるにつれ、その割合が低下傾向にある。女性の場合、20~40代で「毎日2回以上歯磨きをしている」が8割超となっている。

1日の歯磨き回数



(2) 歯磨きをする時間帯

【問 45】歯磨きはいつしますか。該当するところにすべて選んで○をつけてください。

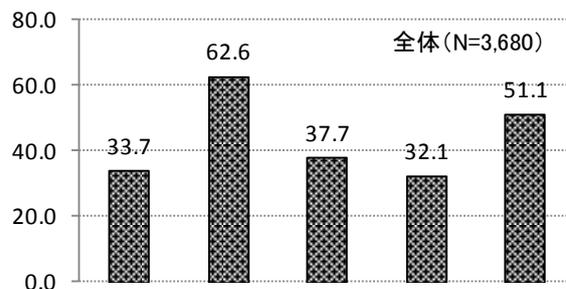
歯磨きをする時間帯をみると、「朝食後」が 62.6%で最も高く、次いで「就寝前」(51.1%)、「昼食後」(37.7%)、「起床時」(33.7%) となり、「夕食後」が 32.1%で最も低い。

前回調査と比べると、「起床時」の割合が減少した以外、他は増加している。

性別にみると、「起床時」だけ男性が女性の実施率を上回っているが、他の時間帯はすべて女性の実施率が男性より高い。特に、昼食後の実施率は倍以上の開きがある。

性・年代別にみると、男性 20～30 代が「就寝前」、男性 70 代が「起床時」が最も多い以外、男女とも「朝食後」が最も多くなっている。男性 50～60 代の「起床時」、女性 20～30 代の「昼食後」、女性 70 代の「夕食後」が 2 番目に多くなっているのが特徴的である。

歯磨き実施時間



(単位: %)		サンプル数	起床時	朝食後	昼食後	夕食後	就寝前	
全 体		3,680	33.7	62.6	37.7	32.1	51.1	
性別	男 性	1,667	38.8	51.6	24.1	28.3	44.2	
	女 性	1,872	28.9	72.3	50.3	34.9	58.0	
性・年代別	男性	20 代	206	38.3	48.5	27.7	29.6	54.9
		30 代	243	38.3	45.7	25.5	25.9	56.4
		40 代	283	31.4	55.5	27.9	29.3	47.3
		50 代	350	42.6	54.0	26.0	24.3	42.3
		60 代	423	38.5	54.1	19.6	28.8	35.9
		70 代	154	44.8	44.2	16.9	33.8	31.8
	女性	20 代	242	24.0	73.1	69.4	40.5	55.4
		30 代	272	23.5	73.9	62.1	38.6	59.9
		40 代	326	21.5	77.6	60.1	31.3	67.2
		50 代	451	32.4	71.6	47.7	29.3	59.6
		60 代	445	33.0	71.5	33.7	35.5	55.5
		70 代	132	40.9	59.8	32.6	43.9	39.4

注: 網掛け数字は、該当項目の中での 1 位及び 2 位

(3) 歯科清掃用具の種類

【問 46】歯科清掃用具を使用していますか。使用しているものをすべて選んで○をつけてください。

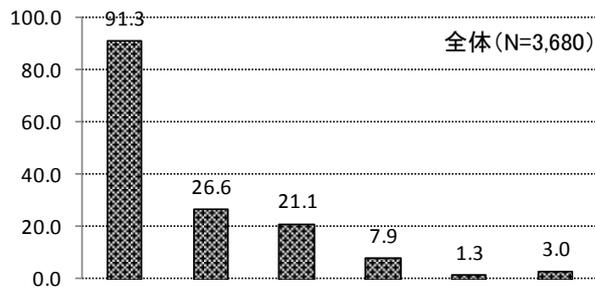
歯科清掃用具の種類みると、「歯ブラシ」が 91.3%で圧倒的に多い。「電動ブラシ」(7.9%)を使用する人はかなり少ない。また、歯ブラシ以外の歯科清掃用具では、「歯間ブラシ」が 26.6%、「デンタルフロス、糸ようじ」が 21.1%となっている。

前回調査と比べると、すべての歯科清掃用具の使用割合が増加している。

性別にみると、歯ブラシ類は男女とも同傾向だが、歯ブラシ以外の歯科清掃用具の使用率は女性が男性を大きく上回っている。

性・年代別にみると、歯ブラシ類は各年代とも同じ傾向を示しているが、「歯間ブラシ」の使用率は男女 50～70 代、「デンタルフロス、糸ようじ」の使用率は男女 20～40 代が高くなっている。

歯科清掃用具の使用状況



(単位: %)		サンプル数	歯ブラシ	歯間ブラシ	デンタルフロス、糸ようじ	電動歯ブラシ	その他	使用していない	
全体		3,680	91.3	26.6	21.1	7.9	1.3	3.0	
性別	男性	1,667	89.9	19.0	12.5	8.7	0.8	3.4	
	女性	1,872	92.7	33.4	29.0	7.3	1.8	2.7	
性・年代別	男性	20代	206	93.2	3.4	10.7	5.8	0.0	3.4
		30代	243	89.7	7.0	13.6	8.6	0.0	3.3
		40代	283	89.4	15.5	19.4	5.3	0.0	4.2
		50代	350	88.6	23.1	14.9	12.3	0.9	2.6
		60代	423	89.4	27.9	6.9	10.4	1.9	4.0
		70代	154	90.9	31.2	10.4	5.2	1.9	2.6
	女性	20代	242	92.6	11.2	30.2	6.2	0.8	2.9
		30代	272	91.9	18.0	43.8	7.7	1.1	2.9
		40代	326	91.7	27.3	38.0	7.7	0.9	2.5
		50代	451	93.1	42.6	26.6	6.2	1.8	2.9
		60代	445	93.0	47.9	19.1	8.8	3.1	2.0
		70代	132	94.7	42.4	16.7	5.3	2.3	3.8

注: 網掛け数字は、該当項目の中での 1 位及び 2 位

(4) 歯科定期検診受診状況

【問 47】年1回以上、歯科の定期検診を受けていますか。どちらかに○をつけてください。

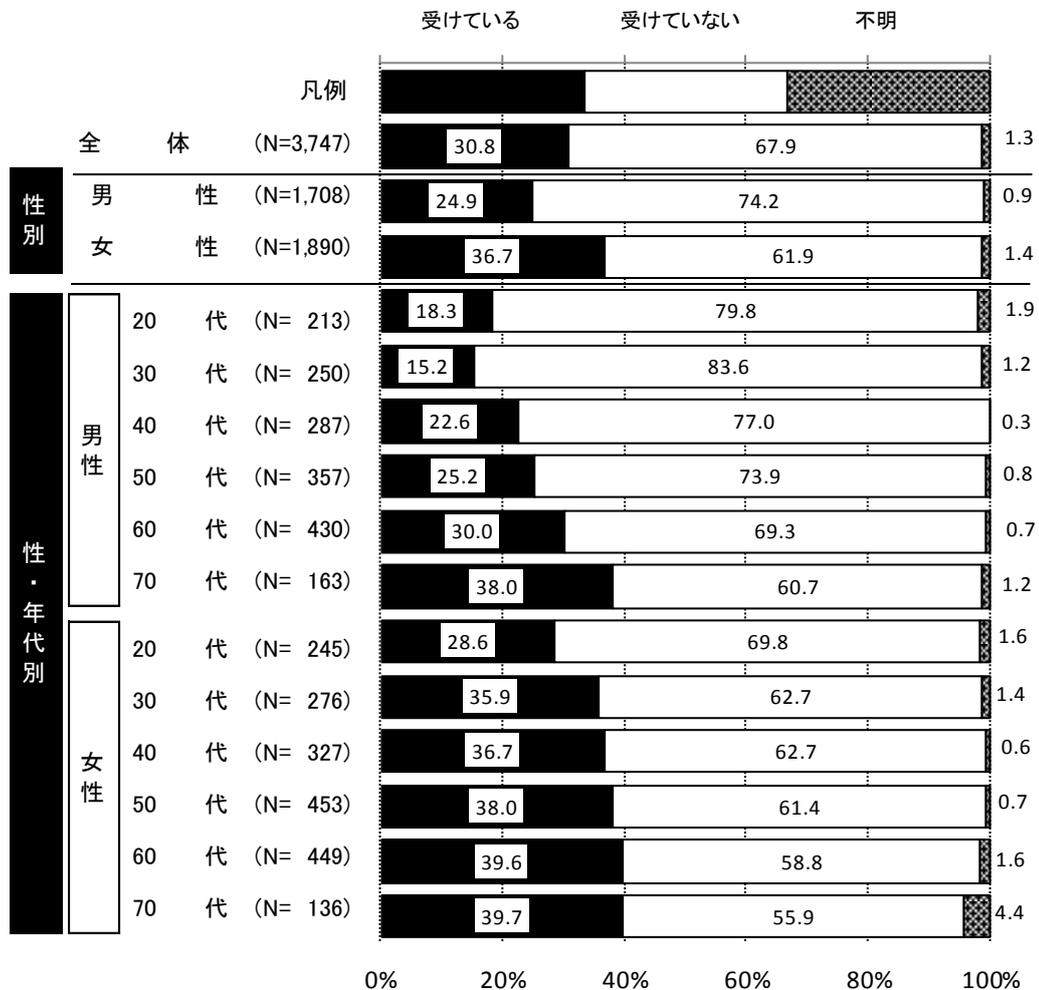
歯の定期検診受診状況を見ると、「受けている」と答えた人は30.8%にとどまり、大半は「受けていない」(67.9%)となっている。

前回調査と比べると、「受けている」が9.4ポイント増加している。

性別にみると、女性が男性に比べ「受けている」と答えた人が多い。

性・年代別にみると、男女とも年代が高いほど、歯の定期検診を受けている。

歯科定期検診の受診状況



(5) 自分の歯の残数

【問 48】何本自分の歯が残っていますか。(入れ歯、インプラントは除く)

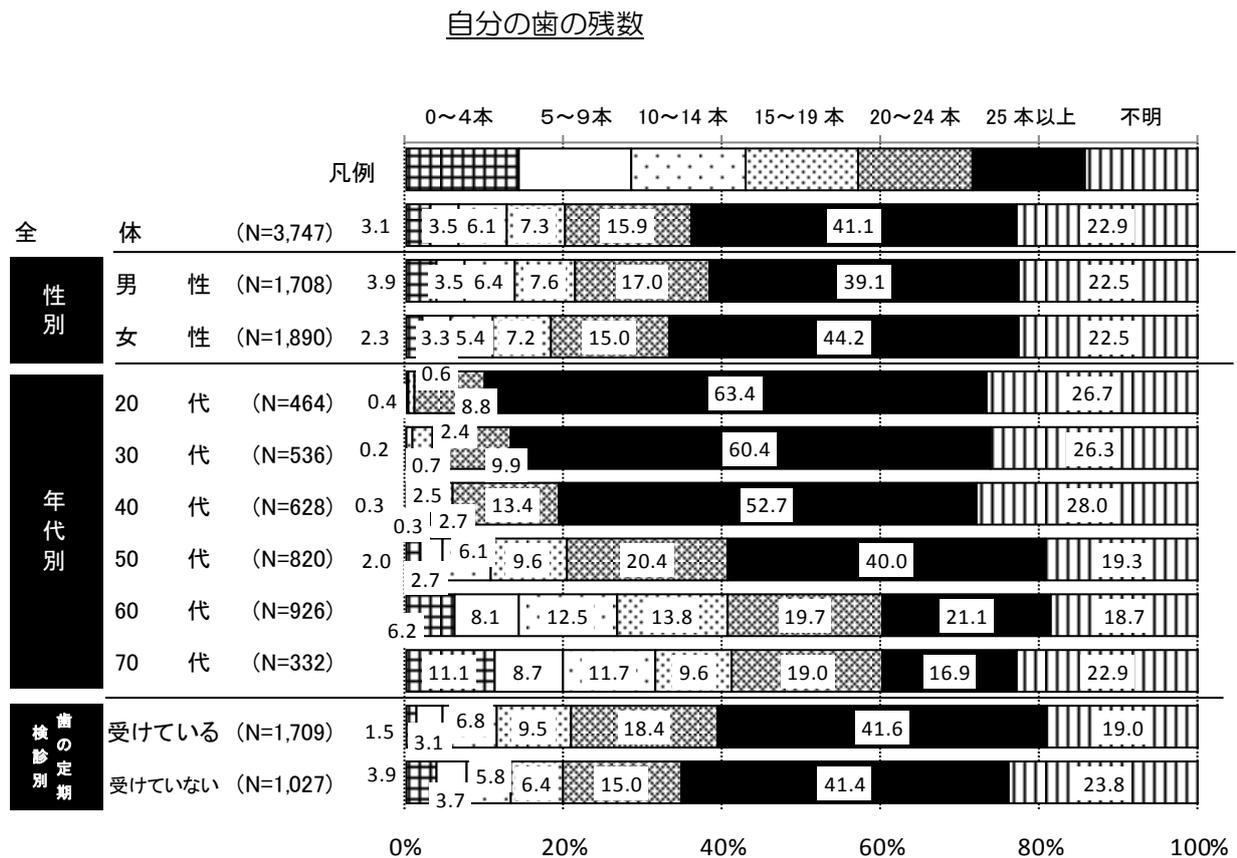
自分の歯の残数を見ると、「25 本以上」が 41.1%で、「20～24 本」と合わせると 57.0%でほぼ 6 割弱となっている。

前回調査と比べると、「25 本以上」が 2.9 ポイント増加し、他はおおむね減少している。

性別にみると、女性が男性に比べ「25 本以上」の割合が高くなっている。

年代別にみると、年代が低いほど自分の歯が多く残っており、「25 本以上」の割合は 20 代の 63.4%に対し、70 代は 16.9%となっている。

歯の定期検診受診状況別にみると、大差ではないにせよ、歯の定期検診を「受けている」方が「受けていない」に比べ自分の歯が多く残っているため、歯の定期検診受診状況と自分の歯の残数は相関関係にあるとみられる。



(6) 歯と口の健康と全身の健康との関係の認知状況について

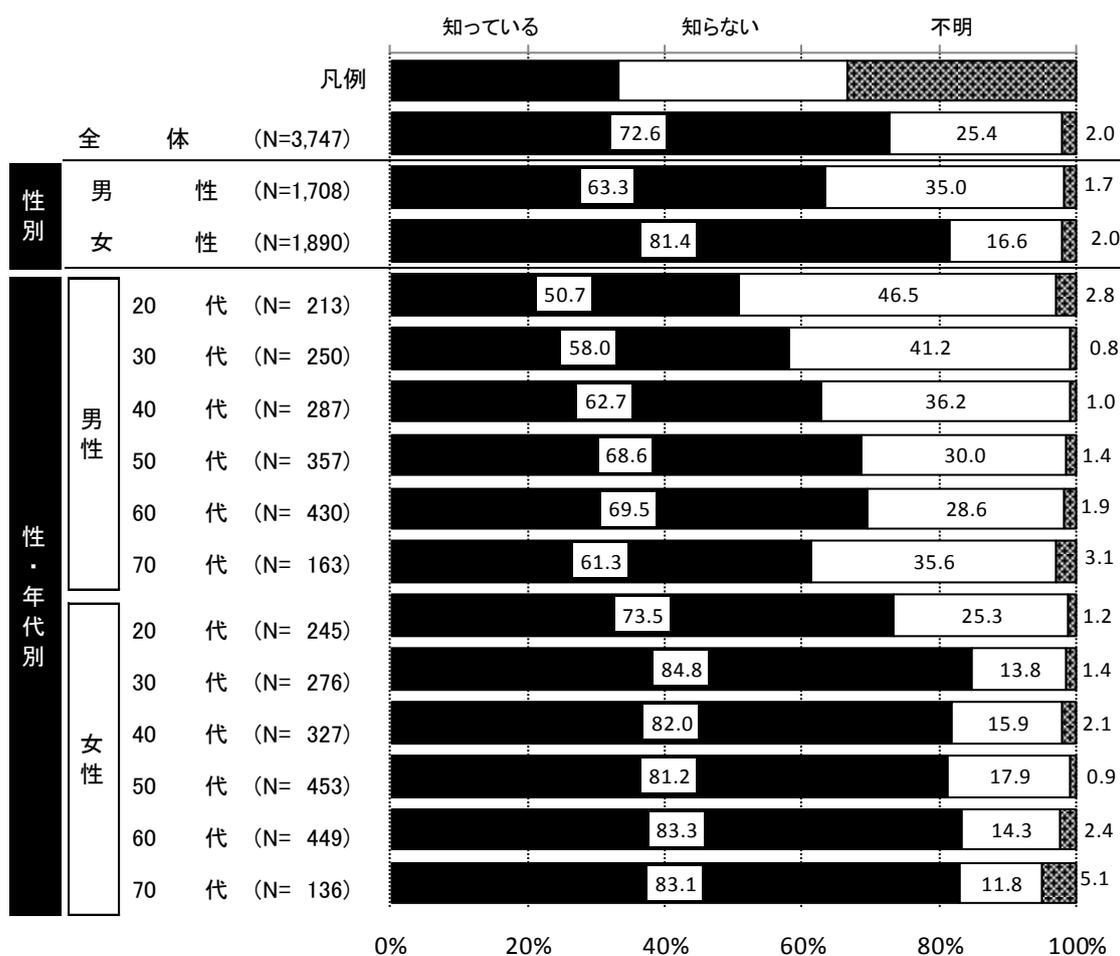
【問 49】歯と口の健康が全身の健康(糖尿病、心疾患、胎児の低体重、早産等)との関係があることを知っていますか。どちらかに○をつけてください。

歯と口の健康が全身の健康との関係についての認知度をみると、「知っている」と答えた人は72.6%でほぼ4人中3人、「知らない」(25.4%)を大きく上回っている。

性別にみると、女性が男性に比べ「知っている」と答えた人が多い。

性・年代別にみると、「知っている」と答えた人が、男性は60代が最も多いものの7割以下にとどまるのに対し、女性は最も低い20代で73.5%、他の年代は8割以上となっている。

歯と口の健康と全身の健康との関係の認知状況



9 生活習慣病について

(1) 生活習慣病の認知状況

【問 50】生活習慣病とはどんなことか知っていますか。1つ選んで○をつけてください。

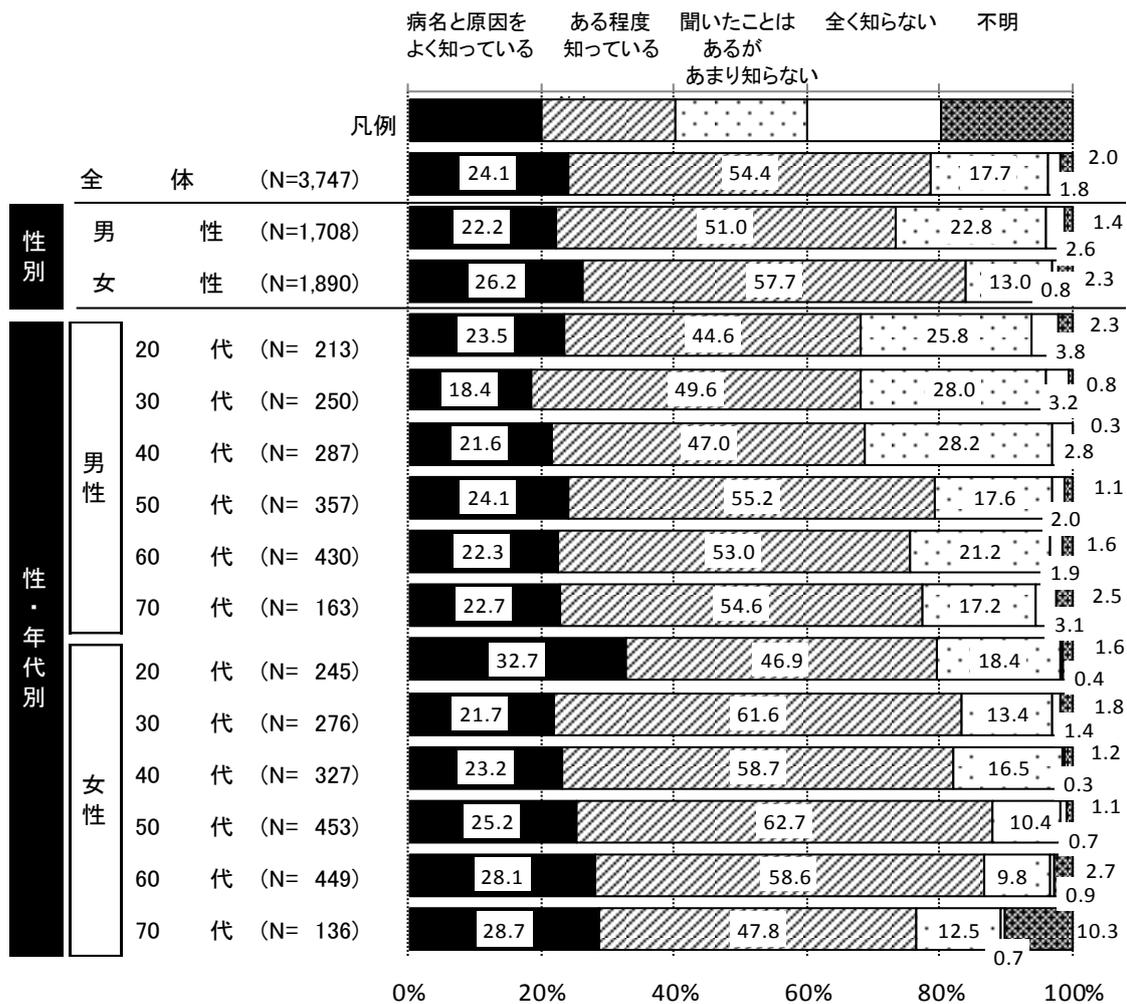
生活習慣病とはどのような病気か尋ねたところ、「病名と原因をよく知っている」が 24.1%、「ある程度は知っている」が 54.4%で、合わせると約8割を占める。また、「聞いたことはあるが、あまり知らない」は 17.7%、「全く知らない」は 1.8%と、ほとんど認知していない人もいる。

前回調査と比べると、「病名と原因をよく知っている」が 1.0 ポイント増加、「ある程度知っている」が 0.6 ポイント増加しており、認知状況は向上している。

性別にみると、女性が男性に比べ認知状況はやや高い傾向にある。

性・年代別にみると、各属性とも「ある程度知っている」が主流ではあるが、ほとんど認知していない人は、男性 20～40 代に多い。逆に、「病名と原因をよく知っている」では、女性 20 代が他の世代を大きく上回っている。

生活習慣病の認知状況



(2)「メタボリックシンドローム」の認知状況について

【問 51】あなたは、「メタボリックシンドローム」とは何かを知っていますか。1つ選んで○をつけてください。

メタボリックシンドロームという言葉を知っているか尋ねたところ、「言葉も意味も知っている」が75.2%、「言葉は知っているが、意味は知らなかった」が21.2%、「言葉も意味も知らなかった」が1.9%となっており、認知者は9割を超えている。

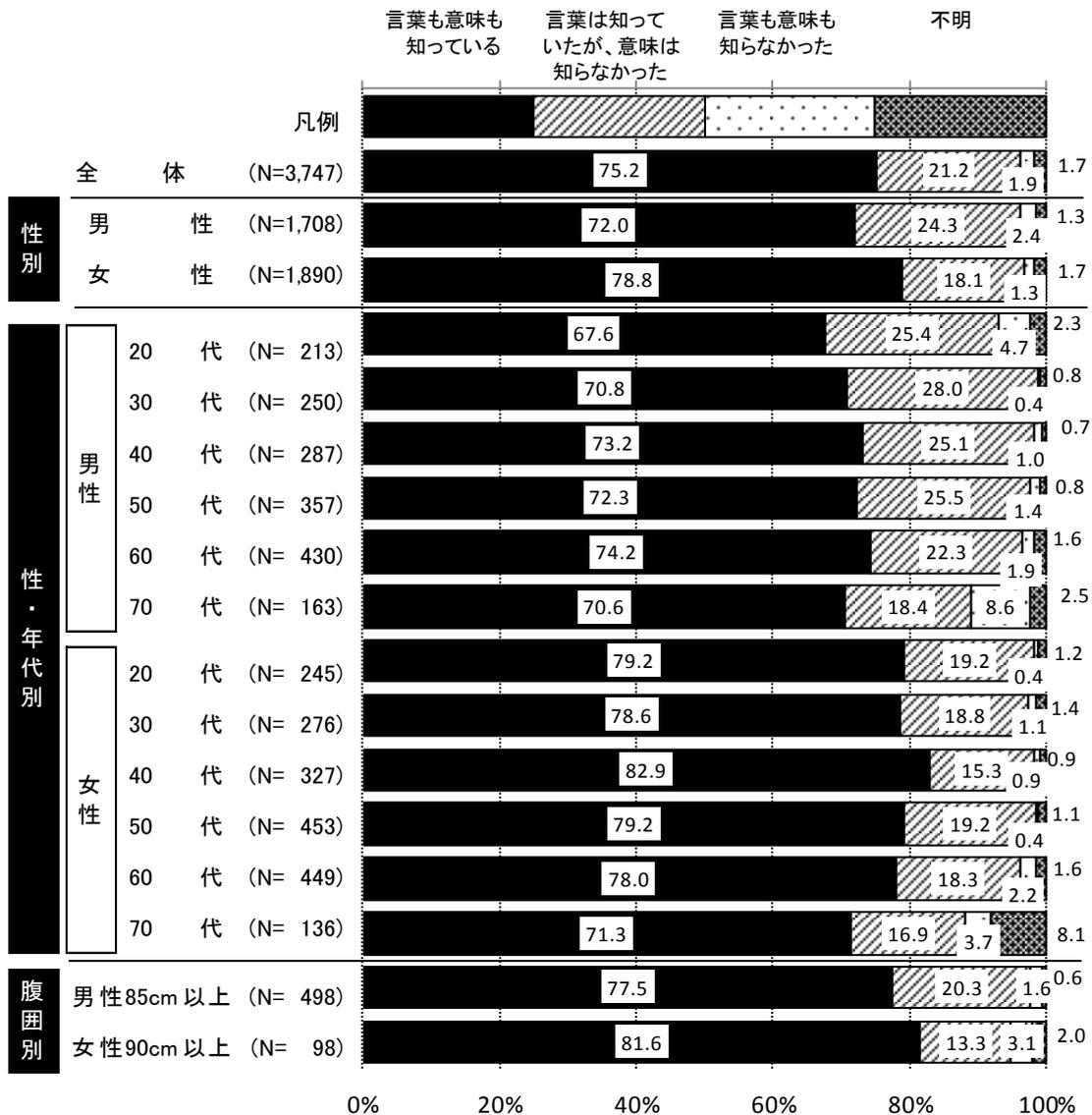
前回調査と比べると、「言葉も意味も知っている」が2.6ポイント減少している。

性別にみると、女性が男性に比べ「言葉も意味も知っている」と答えた人が多い。

性・年代別にみると、男女とも70代の認知度が他の世代より低い。

腹囲が「メタボリックシンドローム」の診断基準以上の人の認知率をみると、「男性（85cm 以上）」が97.8%、「女性（90cm 以上）」が94.9%となっている。

「メタボリックシンドローム」の認知状況



(3) 「ロコモティブシンドローム」の認知状況について

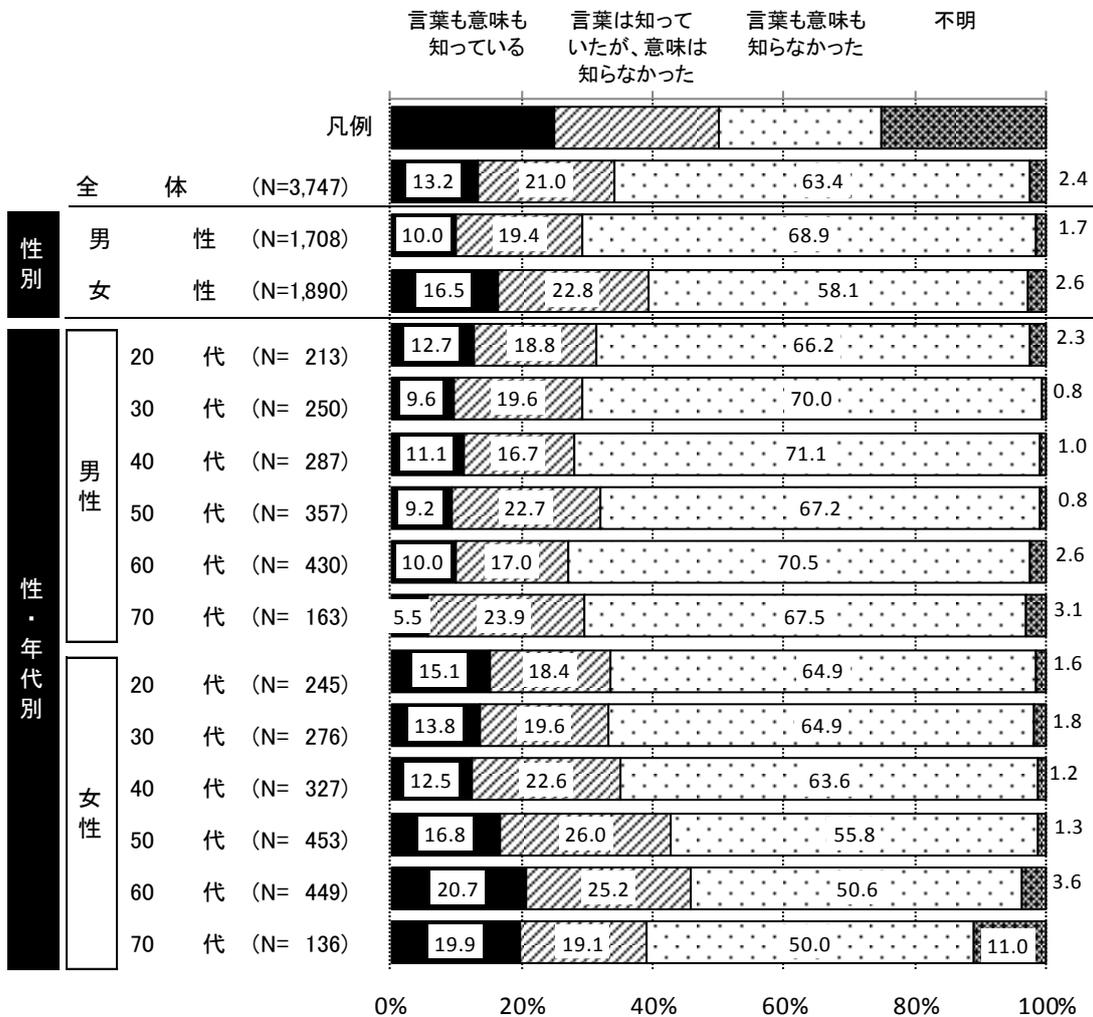
【問 51】あなたは、「ロコモティブシンドローム」とは何かを知っていますか。1つ選んで○をつけてください。

ロコモティブシンドロームという言葉を知っているか尋ねたところ、「言葉も意味も知っている」が13.2%、「言葉は知っているが、意味は知らなかった」が21.0%、「言葉も意味も知らなかった」が63.4%となっている。

性別にみると、女性の方が男性に比べ「言葉も意味も知っている」と答えた人が多い。

性・年代別にみると、各属性とも「言葉も意味も知らなかった」が主流だが、女性50～60代の認知率は、他の世代より高くなっている。

「ロコモティブシンドローム」の認知状況



(4)「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」の認知状況について

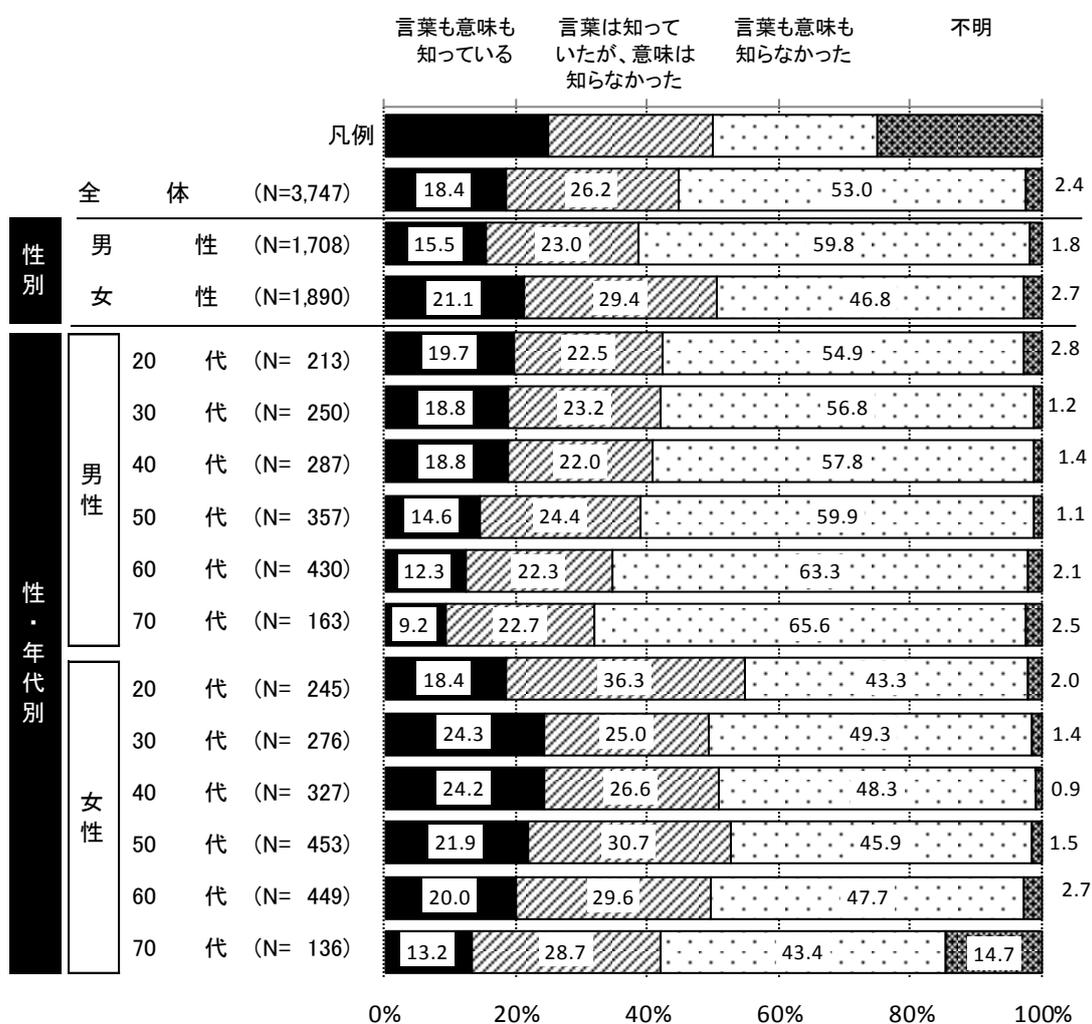
【問 53】あなたは、「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」とは何かを知っていますか。1つ選んで○をつけてください。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）という言葉を知っているか尋ねたところ、「言葉も意味も知っている」が18.4%、「言葉は知っているが、意味は知らなかった」が26.2%、「言葉も意味も知らなかった」が53.0%となっており、認知者は4割強にとどまっている。

性別にみると、女性が男性に比べ「言葉も意味も知っている」と答えた人が多い。

性・年代別にみると、男女とも若い年代ほど認知度が高い傾向にある。

「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」の認知状況



(5)「CKD（慢性腎臓病）」の認知状況について

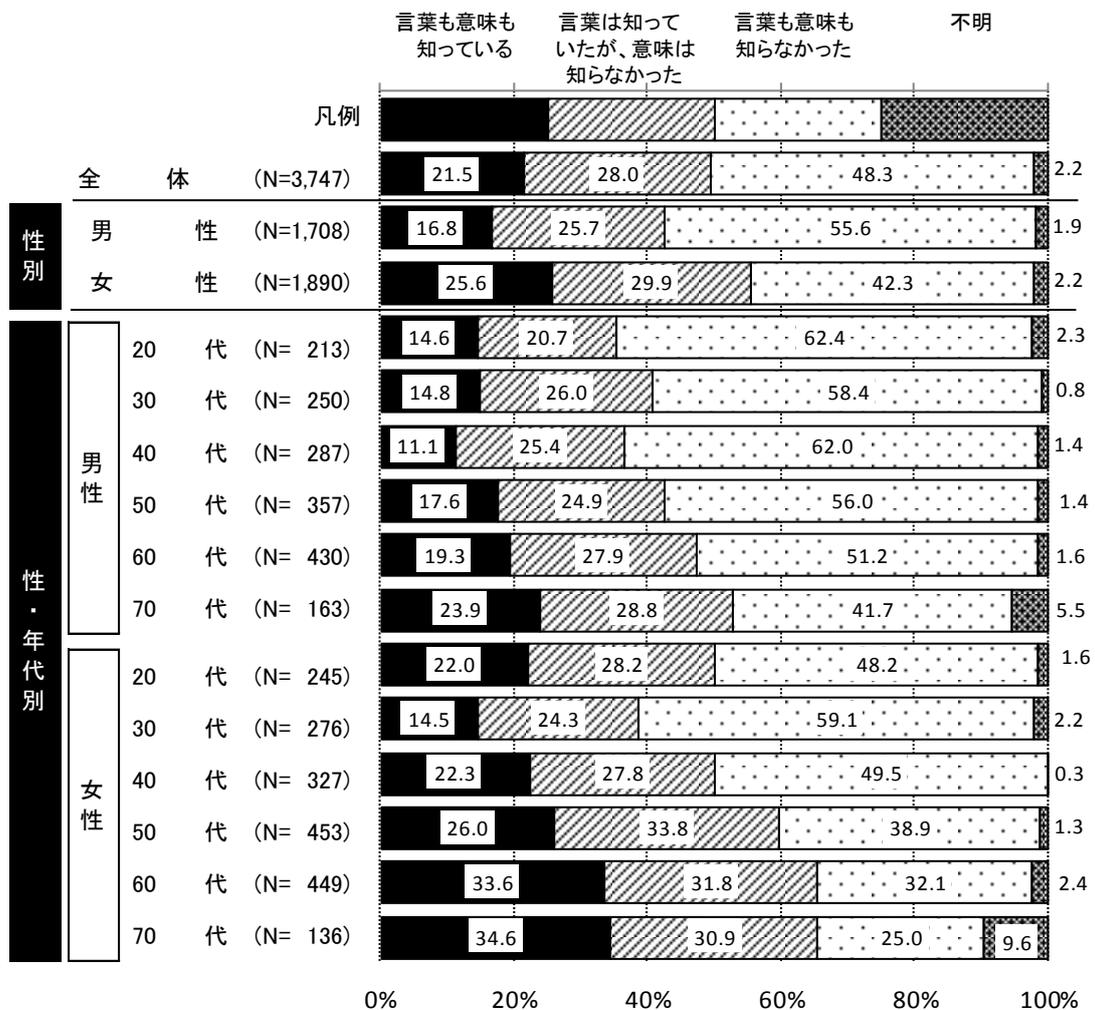
【問 54】あなたは、「CKD(慢性腎臓病)」とは何かを知っていますか。1つ選んで○をつけてください。

CKD(慢性腎臓病)という言葉を知っているか尋ねたところ、「言葉も意味も知っている」が21.5%、「言葉は知っているが、意味は知らなかった」が28.0%、「言葉も意味も知らなかった」が48.3%となっており、認知者は約半数の認知状況となった。

性別にみると、女性が男性に比べ「言葉も意味も知っている」と答えた人が多く、過半数の人が認知している。

性・年代別にみると、男女とも年代が上がるほど認知度が高い傾向にある。とりわけ、女性60～70代では、約3人中2人が知っている状況であった。

「CKD（慢性腎臓病）」の認知状況



(6) 糖尿病検査受診の有無

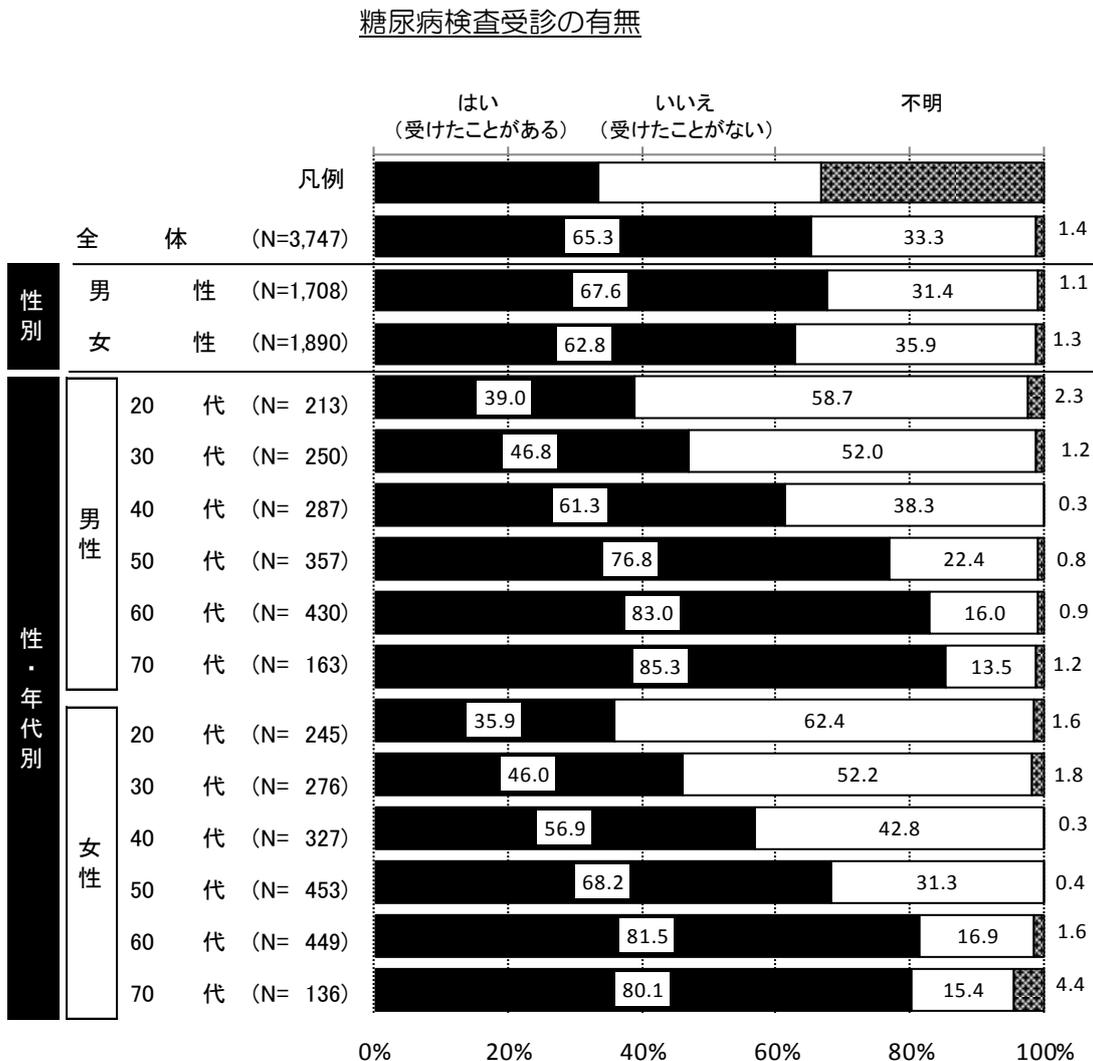
【問 55】あなたは、これまでに健康診断などで糖尿病の検査(尿糖検査・血液検査)を受けたことがありますか。どちらかに○をつけてください。

健康診断等における糖尿病の受診状況をみると、「はい(受けたことがある)」が65.3%、「いいえ(受けたことがない)」が33.3%であり、約3人に2人は受診経験がある。

前回調査と比べると、「はい(受けたことがある)」が1.9ポイント減少し、「いいえ(受けたことがない)」が2ポイント増加している。

性別にみると、男性が女性に比べ「はい(受けたことがある)」と答えた人が多い。

性・年代別にみると、男女とも年代が上がるにつれ受診率が高く、男女とも60~70代の受診率は8割を超えている。



(7) 糖尿病の検査結果

【問 55 附問1】(【問 55】で「1. はい」と答えた方へ
検査の結果はいかがでしたか。1つ選んで○をつけてください。

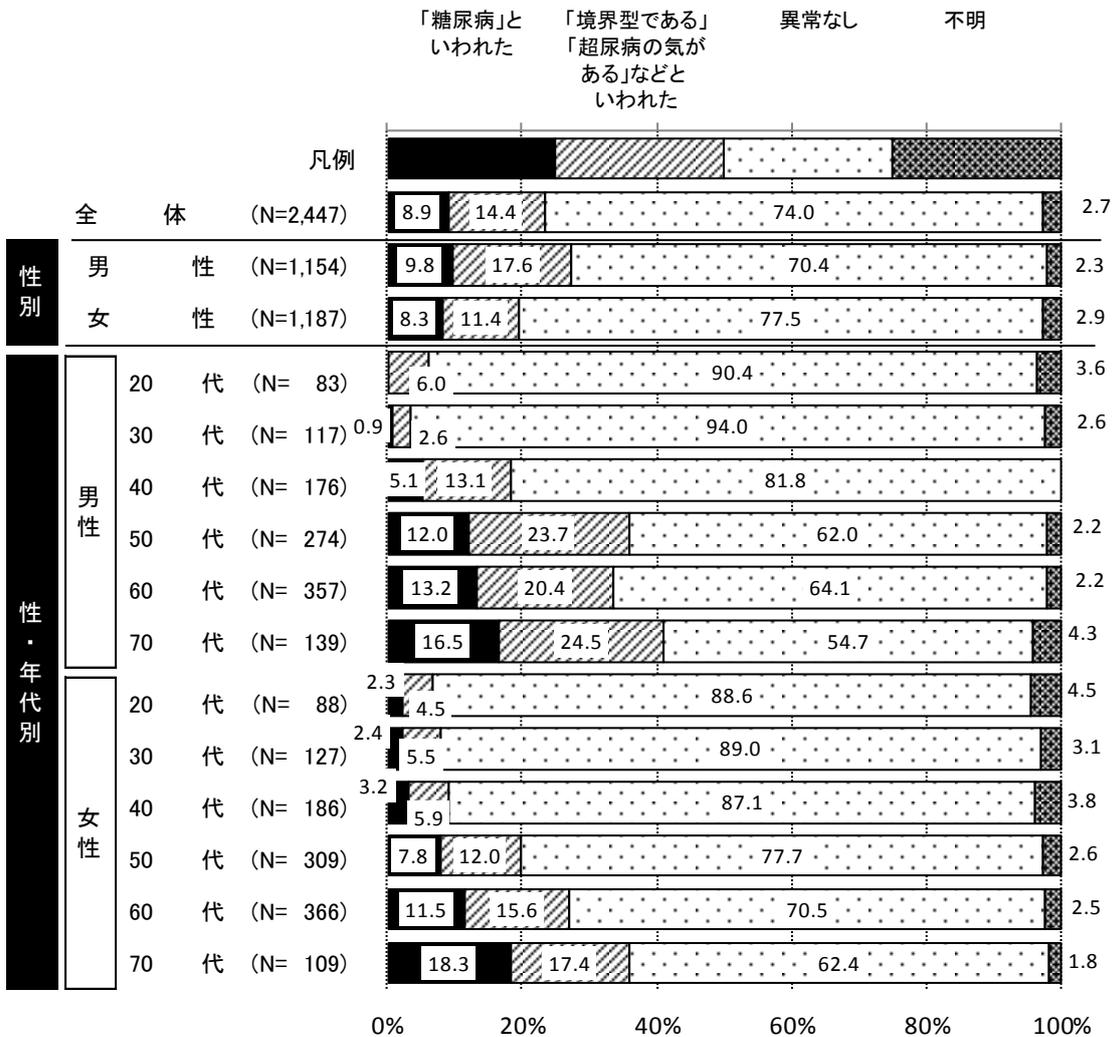
糖尿病検査を受診した人 (2,447 人) の検査結果をみると、「糖尿病といわれた」が 8.9%、「境界型などといわれた」が 14.4%と合わせて 2 割以上であり、大半は「異常なし」(74.0%) という結果である。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、男性が女性に比べ「糖尿病といわれた」、「境界型などといわれた」人が多い。

性・年代別にみると、男女とも年代が高いほど「糖尿病といわれた」、「境界型などといわれた」人が増加傾向にある。

糖尿病の検査結果



(8) 糖尿病の治療経験

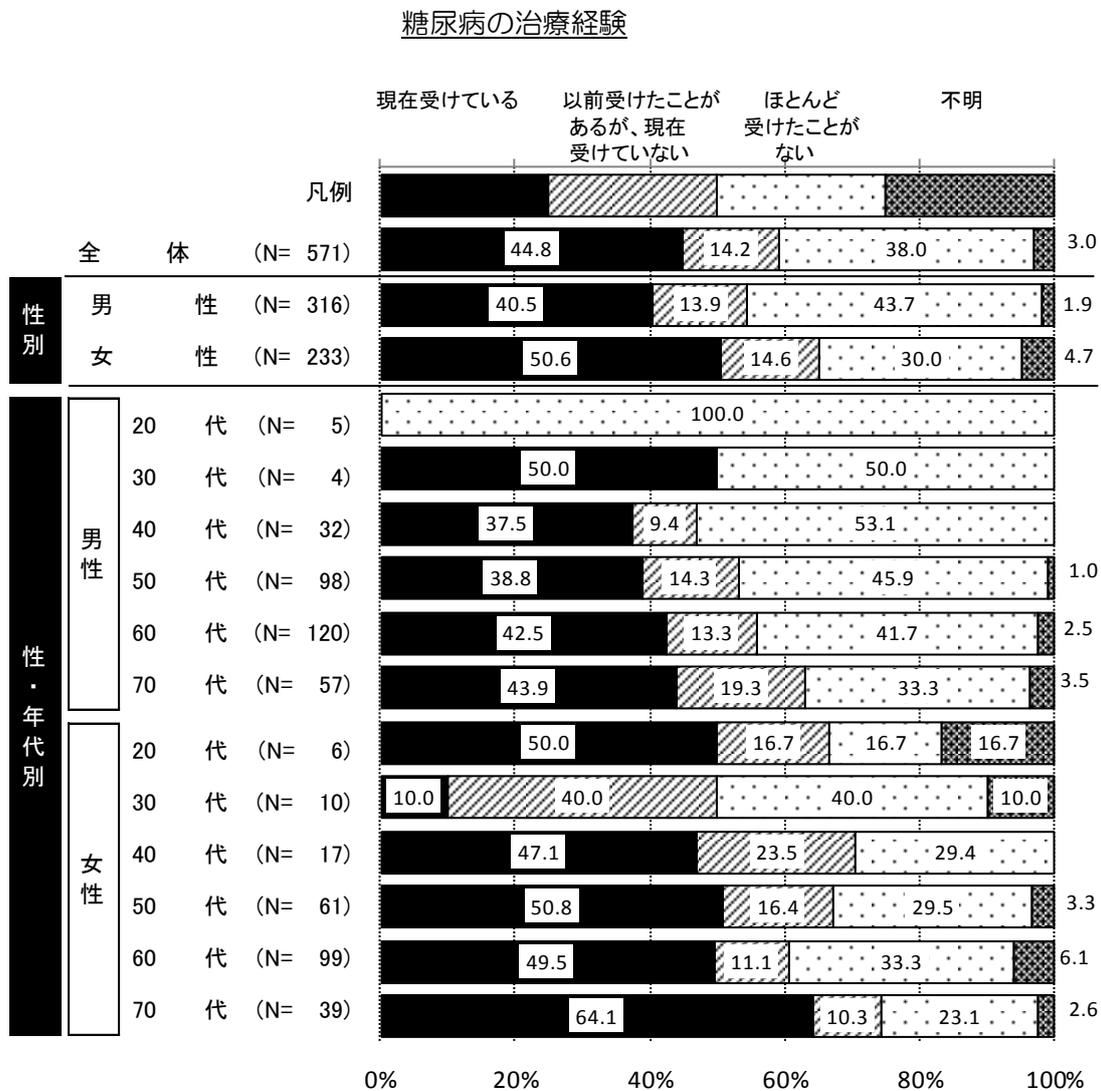
【問 55 附問2】(【問 55 附問2】で1・2と答えた方へ

糖尿病の治療(定期検査・食事療法も含む)を受けたことがありますか。1つ選んで○をつけてください。

糖尿病検査で異常ありという結果を受けた人(571人)の治療経験みると、「現在受けている」(44.8%)、「以前は受けたことがあるが、現在受けていない」(14.2%)という治療経験者は約6割を占めるが、「ほとんど受けたことがない」(38.0%)という人もみられる。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、女性が男性に比べ治療経験者が多く、男性の場合「ほとんど受けたことがない」という人が4割以上もみられる。



(9) 過去に診断されたことのある疾病名

【問 56】いままでに病院で以下のような診断をされたことがありますか。診断をされたものをすべて選んで○をつけてください。

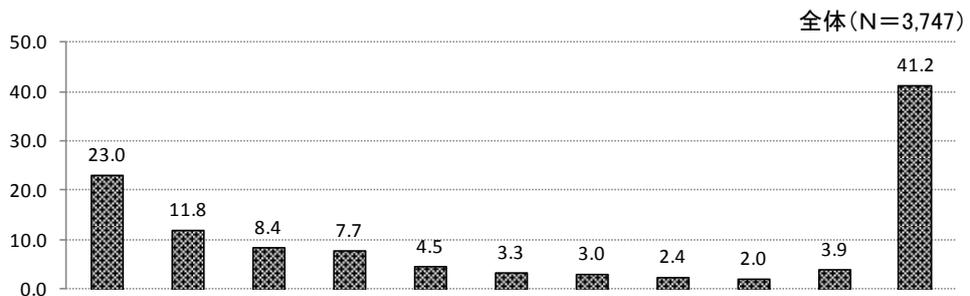
過去に病院で診断されたことがある疾病名をみると、「高血圧」が 23.0%で最も高く、次いで「肥満」が 11.8%、「脂質異常症」が 8.4%となっている。なお、「指摘されたことはない」は 41.2%である。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となった。

性別にみると、男性が女性に比べ、何らかの指摘を受けた人の割合が高く、特に、「高血圧」、「痛風」、「肥満」などで差が大きくなっている。

性・年代別にみると、年代が高いほど何らかの指摘を受けた人が多い。男女とも 20～40 代では、「肥満」、50～70 代は「高血圧」の割合が最も高くなっている。

過去に診断されたことのある疾病名



(単位: %)		サンプル数	高血圧	肥満	脂質異常症	糖尿病	心臓病	肝疾患	痛風	腎疾患	(脳血管疾患)	その他	指摘されたことはない	
全体		3,747	23.0	11.8	8.4	7.7	4.5	3.3	3.0	2.4	2.0	3.9	41.2	
性別	男性	1,708	27.6	13.5	8.1	8.9	5.6	3.7	5.9	2.6	2.6	3.2	36.7	
	女性	1,890	17.9	10.4	8.8	6.5	3.2	2.9	0.3	2.3	1.4	4.3	46.2	
性・年代別	男性	20代	213	1.9	7.0	0.5	0.0	0.9	1.4	0.9	0.5	0.0	2.3	63.4
		30代	250	6.8	12.0	4.0	1.6	1.6	1.2	2.4	0.8	0.0	2.0	56.0
		40代	287	13.9	19.2	8.0	5.2	2.8	3.8	6.6	0.7	0.3	3.8	43.2
		50代	357	34.2	16.0	10.9	10.1	4.2	4.8	7.0	3.1	1.7	3.6	31.4
		60代	430	47.2	12.8	10.7	14.4	9.5	4.4	9.3	4.2	5.8	3.7	21.4
		70代	163	52.8	11.7	11.7	21.5	14.1	6.1	5.5	6.1	7.4	3.1	11.7
	女性	20代	245	0.0	4.9	0.4	1.2	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0	2.0	71.4
		30代	276	2.2	7.2	0.4	1.1	1.8	1.1	0.4	0.4	0.0	2.5	62.7
		40代	327	7.6	8.9	4.3	2.4	1.2	2.1	0.0	3.1	0.9	4.9	60.2
		50代	453	19.6	12.4	12.4	6.0	2.6	2.4	0.0	1.8	0.4	6.6	41.7
		60代	449	36.1	13.6	17.1	11.4	5.3	5.6	0.7	3.6	2.4	3.8	26.1
		70代	136	41.2	12.5	12.5	22.1	9.6	5.9	0.7	4.4	7.4	4.4	16.2

注: 網掛け数字は、該当項目の中での 1 位及び 2 位(「指摘されたことはない」を除く)

(10) 過去1年間の健康診断受診状況

【問 57】健康診断(血圧・検尿・血液検査など)を過去1年以内に受けましたか(がん検診は除きます)。1つ選んで○をつけてください。

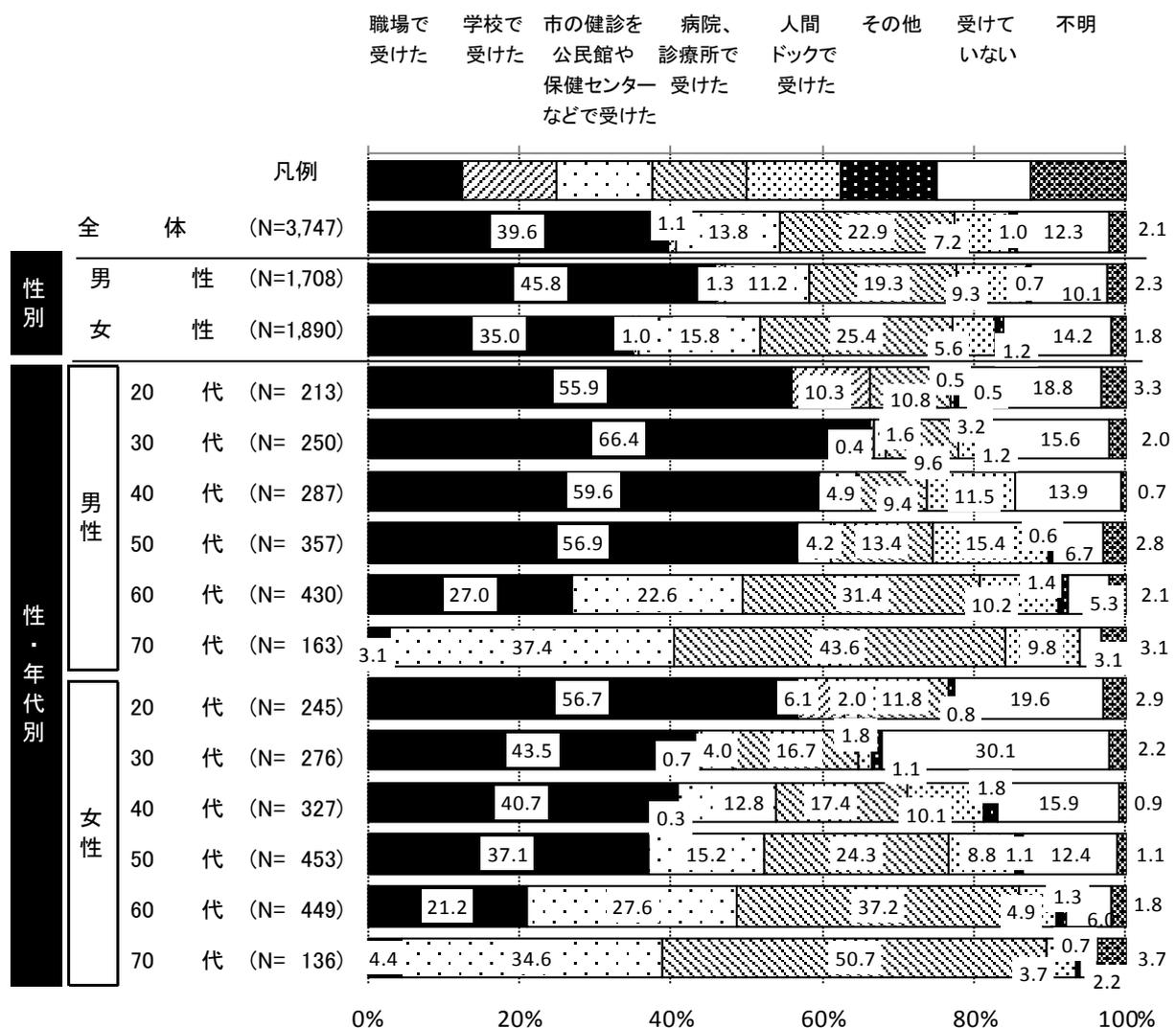
過去1年間の健康診断の受診状況をみると、「職場で受けた」が39.6%で最も高く、次いで「病院、診療所で受けた」(22.9%)、「市の健診を公民館や保健センターで受けた」(13.8%) などとなり、健診受診率は84.6%である。なお、「受けていない」人は12.3%となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同様の傾向だが、「受けていない」が3ポイント減少している。

性別にみると、男女とも「職場で受けた」が最も多いが、女性は男性に比べ「病院、診療所で受けた」、「市の健診を公民館や保健センターで受けた」割合が高くなっている。

性・年代別にみると、年代が上がるほど受診率が高くなる傾向にある。「受けていない」人は若い世代で多く、特に30代女性では約3割を占めている。

過去1年間の健康診断受診状況



(11) 健康診断を受けていない理由

【問 57 附問】(【問 57】で「7. 受けていない」と答えた方へ

受けていない理由は何ですか。最も当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

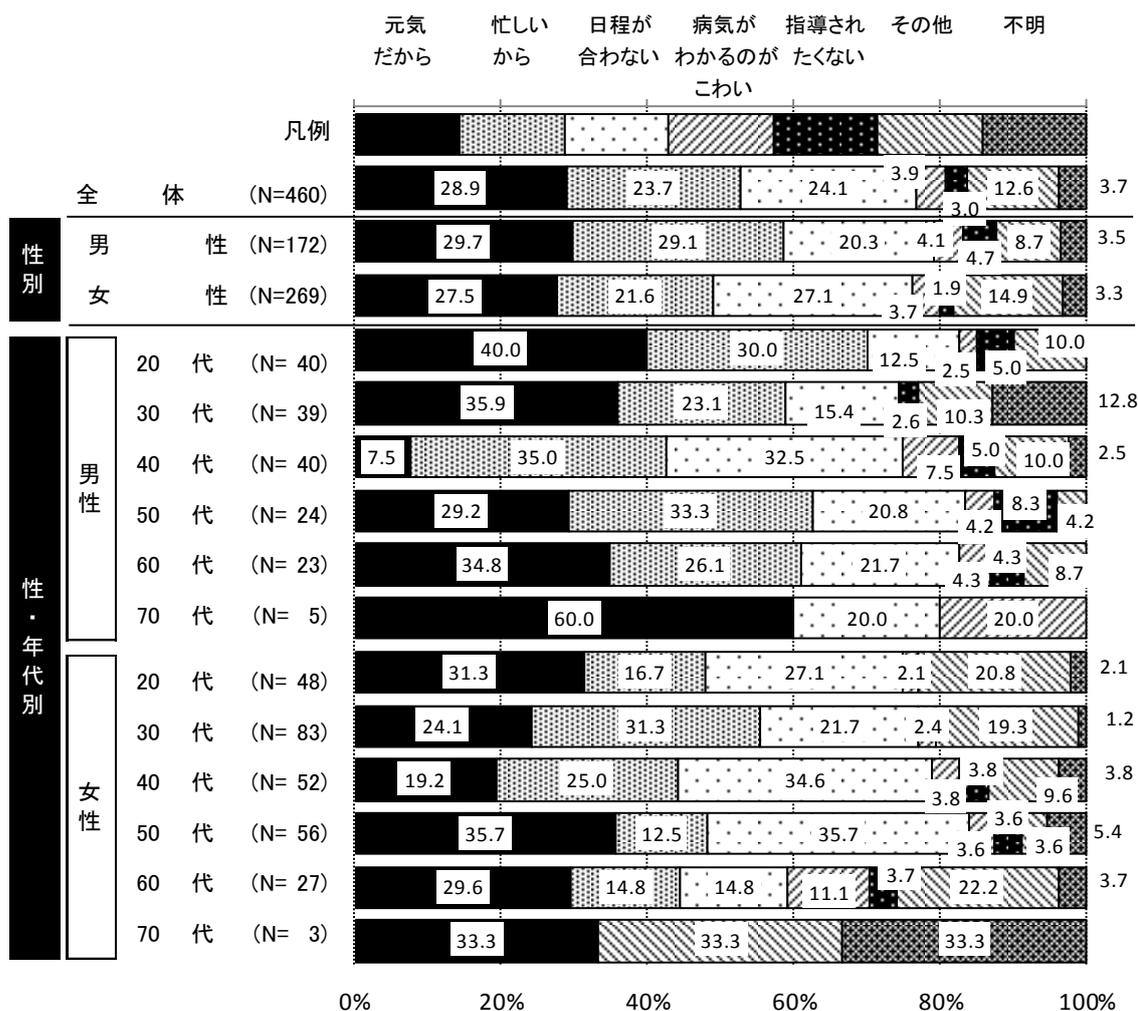
過去1年間に健康診断を受けていない人(460人)に理由を尋ねると、「元気だから」が28.9%で最も高く、次いで「日程が合わない」(24.1%)、「忙しいから」(23.7%)となり、この3つの理由で76.7%を占めている。

前回調査と比べると、受診しない理由のうち、「忙しいから」が6.5ポイント増加している。

性別にみると、男性は「元気だから」が最も高く「忙しいから」が続いているのに対し、女性は「元気だから」と「日程が合わない」が拮抗している。

性・年代別にみると、男性の40~50代、女性の30~40代以外は「元気だから」が最も高くなっている。また、男性は40~50代において「忙しいから」の割合が高いのに対し、女性は40~50代において「日程が合わない」が高くなっている。

健康診断を受けていない理由



(12) 過去1年間のがん検診受診状況

【問 58】がん検診を過去1年以内に受けましたか。選んで○をつけてください。（複数可）

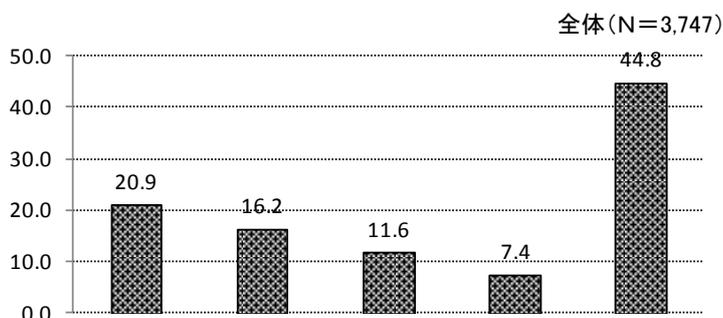
過去1年間におけるがん検診の受診状況をみると、「市の健診を公民館や保健センターで受けた」が20.9%で最も高く、次いで「病院、診療所で受けた」（16.2%）などとなり、検診受診率は56.2%で、「受けていない」人は44.8%となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同様の傾向だが、「受けていない」が1.5ポイント減少している。

性別にみると、女性の検診受診率が男性に比べやや高い。

性・年代別にみると、年代が高くなるほど検診受診率が高く、男性70代では81.6%、女性70代では79.4%を占めている。男性20～50代では「職場で受けた」、女性20～30代では「病院、診療所で受けた」が最も高く、それ以外の年代では「市の健診を公民館や保健センターで受けた」が最も高くなっている。

過去1年間のがん検診受診状況



(単位: %)		サンプル数	市の健診を公民館や保健センターで受けた	病院、診療所で受けた	職場で受けた	人間ドックで受けた	受けていない	
全 体		3,747	20.9	16.2	11.6	7.4	44.8	
性別	男 性	1,708	14.2	10.7	15.6	9.0	50.4	
	女 性	1,890	26.7	21.4	8.1	6.3	39.5	
性・年代別	男性	20 代	213	0.0	0.9	9.9	0.0	85.9
		30 代	250	1.6	2.0	12.0	3.2	78.0
		40 代	287	5.2	2.8	19.9	9.1	62.0
		50 代	357	7.3	11.2	25.5	17.1	39.2
		60 代	430	30.2	17.7	13.7	10.0	30.5
		70 代	163	41.7	31.3	3.1	9.8	18.4
		女性	20 代	245	7.8	11.8	10.2	0.4
	30 代		276	16.7	22.5	8.0	2.2	48.2
	40 代		327	22.9	19.3	10.4	9.8	41.0
	50 代		453	25.8	24.3	9.1	11.0	35.3
	60 代		449	41.4	22.9	6.2	5.1	27.2
	70 代		136	43.4	26.5	2.9	5.1	20.6

注: 網掛けは、該当項目の中での最も高い割合の数字

(13) がん検診を受けていない理由

【問 58 附問】(【問 58】で「5. 受けていない」と答えた方へ

受けていない理由は何ですか。最も当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

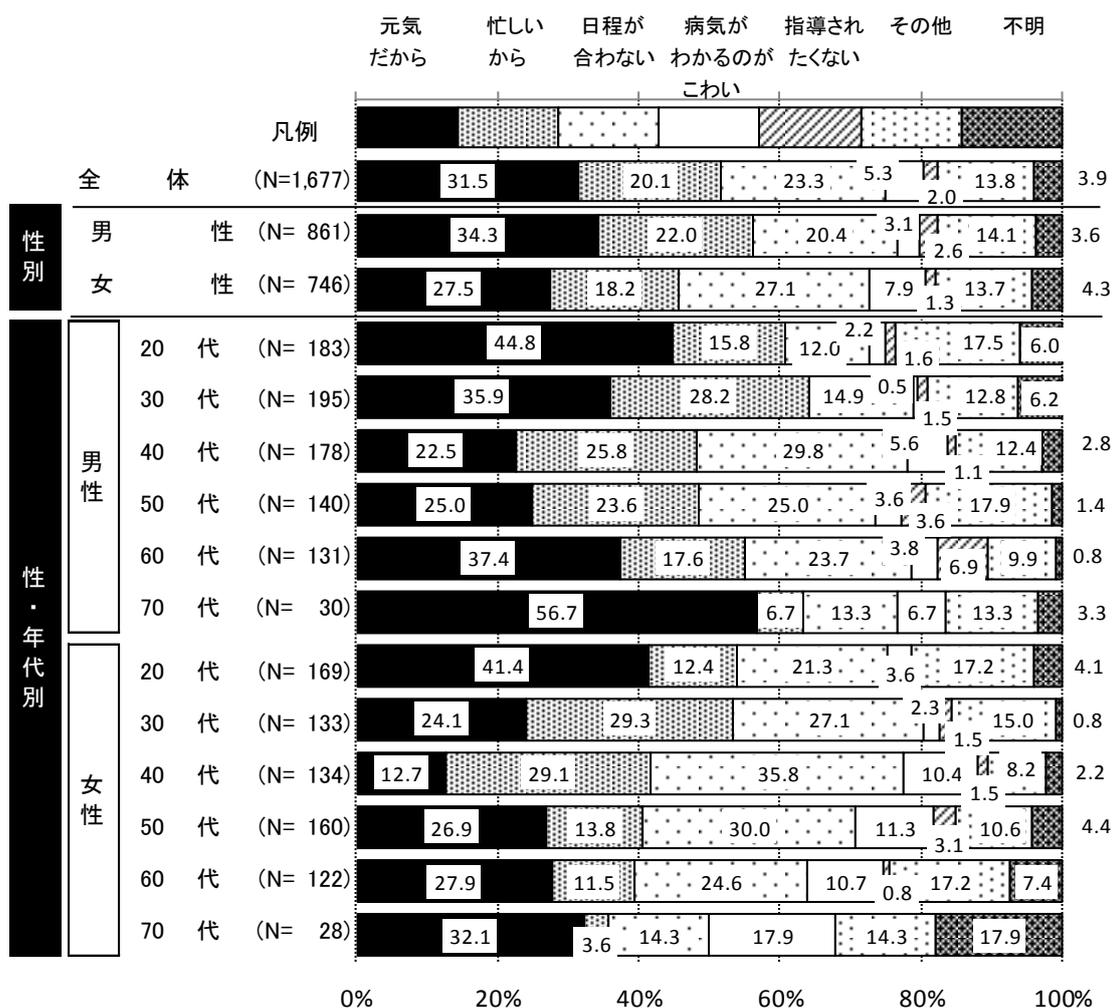
過去1年間にがん検診を受けていない人(1,677人)に理由を尋ねると、「元気だから」が31.5%で最も高く、次いで「日程が合わない」(23.3%)、「忙しいから」(20.1%)となり、この3つの理由で75.0%を占めている。

前回調査と比べると、受診しない理由のうち、「日程が合わない」が3ポイント増加している。

性別にみると、男性は「元気だから」が最も高く「忙しいから」が続いているのに対し、女性は「元気だから」と「日程が合わない」が拮抗している。

性・年代別にみると、男性の40代、女性の30~50代以外は「元気だから」が最も高くなっている。また、女性30代で「忙しいから」が、男性40~50代、女性40~50代において「日程が合わない」割合が最も高くなっている。

がん検診を受けていない理由



(14) 健康に関する情報の入手先

【問 59】あなたは、健康に関する情報をどのようにして入手していますか。主なものを3つ以内を選んでつけてください。

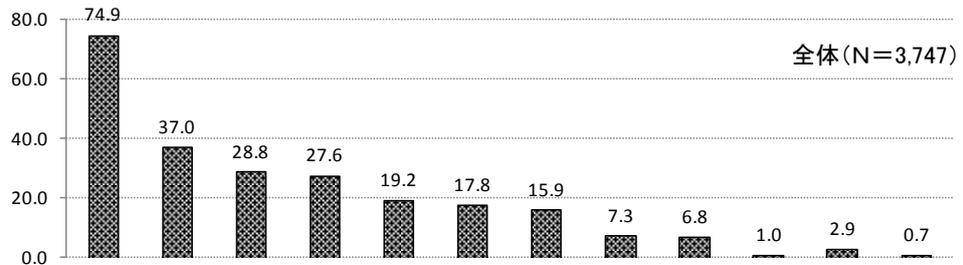
健康に関する情報の入手先をみると、「テレビ」が74.9%で圧倒的に高く、以下、「本や雑誌」(37.0%)、「新聞」(28.8%) などとなり、テレビを中心としたマスメディアが上位にあがっている。なお、「保健所や保健センターなどの健康教室・相談(パンフレット)など」(7.3%)、「市政だより(広報ひおき、お知らせ版)など」(6.8%)は1割にも満たない。

前回調査と比べると、「ロコミ(友人・知人との会話など)」が9.5ポイント低下し、「インターネット」が7.6ポイント上昇し、順位が逆転した。

性別にみると、女性が男性に比べ、多くの選択肢で割合が高くなっている。

性・年代別にみると、男女とも年代の高い層で、「病院・医療機関」の割合が高くなっている。

健康に関する情報の入手先



(単位: %)		サンプル数	テレビ	本や雑誌	新聞	病院・医療機関	インターネット	ロコミ(友人・知人との会話など)	家族	保健所や保健センター(パンフレット)など	市政だより(広報ひおき、お知らせ版)など	学校	ほとんど入手したこと	その他	
全体		3,747	74.9	37.0	28.8	27.6	19.2	17.8	15.9	7.3	6.8	1.0	2.9	0.7	
性別	男性	1,708	69.0	31.3	27.5	27.6	21.3	12.7	17.3	6.0	6.6	1.1	4.7	0.9	
	女性	1,890	80.8	42.6	30.4	27.0	17.7	22.3	14.8	8.0	7.1	0.9	1.2	0.5	
性・年代別	男性	20代	213	68.5	31.9	14.6	13.6	30.5	15.0	26.3	0.9	1.9	6.1	5.6	1.4
		30代	250	70.0	34.0	19.2	12.8	37.6	13.6	17.2	2.8	2.8	0.4	6.8	0.8
		40代	287	69.3	35.2	25.4	19.5	28.2	10.8	18.8	4.2	4.2	0.0	6.3	1.4
		50代	357	69.7	34.5	30.3	29.1	22.1	11.8	14.6	4.5	4.8	1.1	4.5	0.8
		60代	430	69.1	26.0	33.5	40.7	9.1	14.4	15.8	8.8	10.9	0.0	2.8	0.7
		70代	163	67.5	27.0	39.3	44.8	2.5	9.2	12.3	16.6	16.0	0.0	2.5	0.0
	女性	20代	245	78.8	38.4	14.3	20.4	34.3	15.1	26.9	3.3	2.4	4.1	1.6	0.8
		30代	276	77.2	42.0	17.4	22.5	37.0	21.7	22.8	3.6	6.2	0.4	2.2	1.1
		40代	327	82.0	44.6	29.7	25.4	23.9	18.7	12.2	5.5	5.8	0.6	1.5	0.3
		50代	453	81.7	49.7	38.4	23.4	13.2	24.7	8.2	8.2	4.9	0.0	1.3	0.4
		60代	449	85.7	41.0	39.9	32.7	2.0	25.4	12.0	10.7	11.6	0.4	0.2	0.4
		70代	136	69.9	28.7	30.1	44.9	0.7	27.2	13.2	22.8	13.2	1.5	0.7	0.0

注: 網掛けは、該当項目の中での1位、2位の数字

(15) 認知症と生活習慣病との関係の認知状況

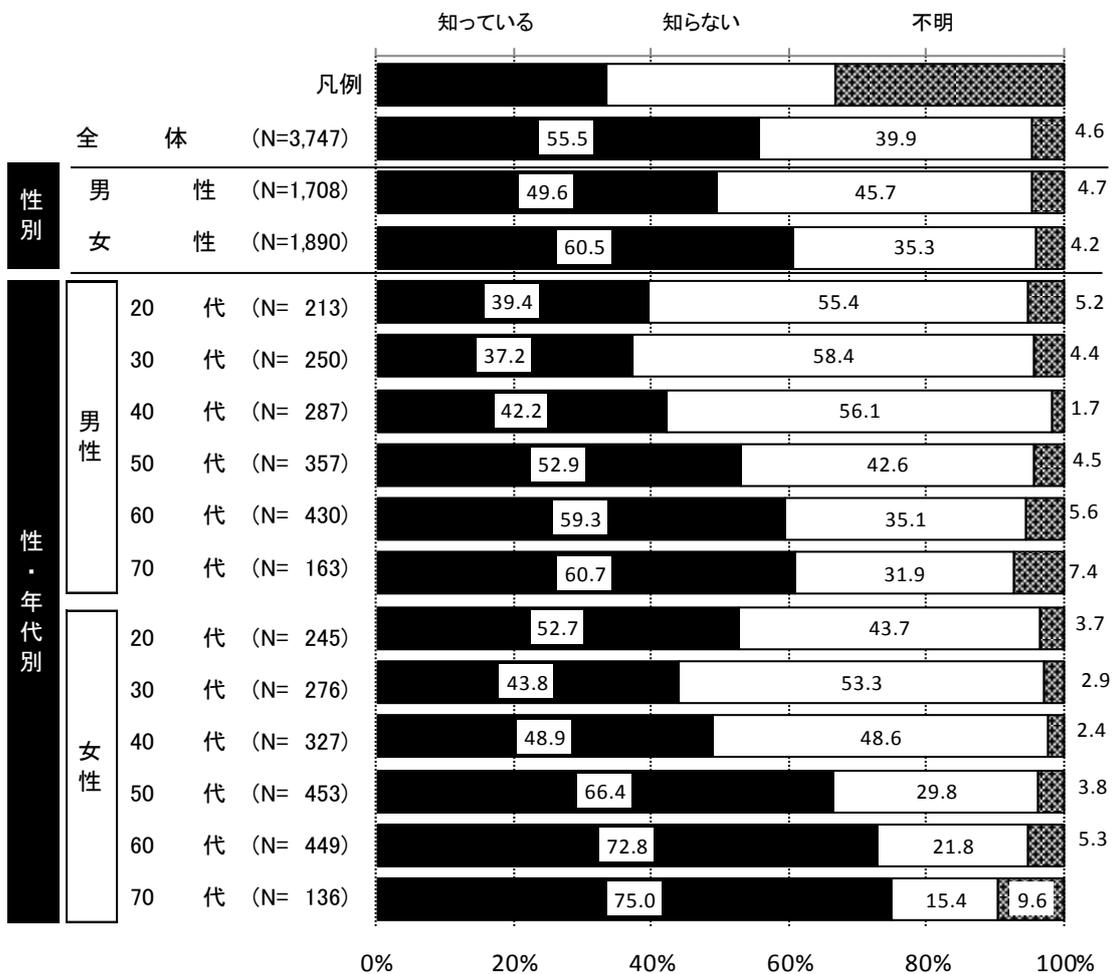
【問 60】あなたは、認知症が生活習慣病と関係があるのは知っていますか。1つ選んで○をつけてください。

認知症が生活習慣病と関係があることを知っているかどうか尋ねたところ、「知っている」が 55.5% と過半を占めたが、「知らない」も 39.9%であった。

性別にみると、女性が男性に比べ「知っている」と答えた人が多い。

性・年代別にみると、男女とも 50 代以上の認知状況は高いが、男性 20～30 代、女性 30～40 代で「知らない」と回答する人が多くみられた。

認知症と生活習慣病との関係の認知状況



10 日常生活のQOL（生活の質）について

(1) 参加している地域活動

【問 61】次にあげる地域の活動に参加されていますか。あなたが普段参加しているものあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

普段参加している地域活動をみると、「自治会・町内会」が46.3%で最も高く、次いで「地区の行事」(29.6%)、「地区の祭り、イベント」(27.5%)、「PTA・子ども会(育成会)」(12.2%)、「ボランティアなどの活動」(7.3%)と続いている。なお、「参加しているものはない」は約3割を占めている。

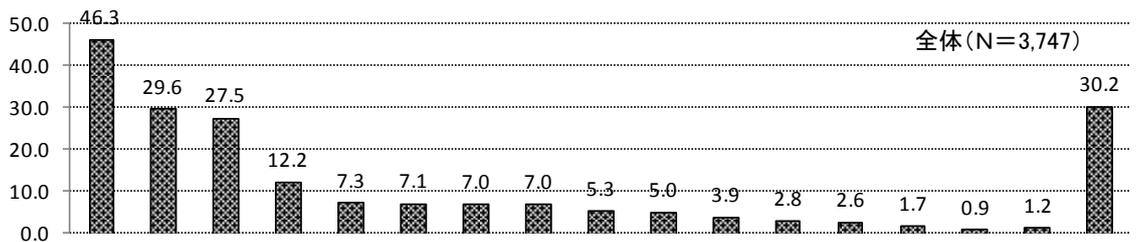
前回調査と比べて、「地区の祭り、イベント」、「いきいきサロン」が増加し、「PTA・子ども会(育成会)」、「趣味のサークル」が減少している(前回調査比2ポイント以上増減した項目)。

性別にみると、男女とも「自治会・町内会」の割合が最も高いが、女性が男性に比べ「PTA・子ども会(育成会)」をはじめ、多くの選択肢で高い参加率となっている。

年代別にみると、若い世代で「参加しているものはない」が高くなっている。

居住地別にみると、吹上地域で「自治会・町内会」の割合が56.7%と最も高くなっている。

参加している地域活動



(単位: %)	サンプル数	参加している地域活動																	い参加しているものはない
		自治会・町内会	地区の行事	地区の祭り、イベント	PTA・子ども会(育成会)	ボランティアなどの活動	スポーツクラブなどの団体	青年会(団)婦人会	趣味のサークル	いきいきサロン	地域おこし、まちづくり運動	高齢者クラブ	歩こう会	教養・学習サークル	消防団	消費者団体(生協)や市民運動の団体	その他		
全体	3,747	46.3	29.6	27.5	12.2	7.3	7.1	7.0	7.0	5.3	5.0	3.9	2.8	2.6	1.7	0.9	1.2	30.2	
性別	男性	1,708	45.3	30.2	25.9	8.3	7.8	7.4	4.3	4.5	2.4	6.4	3.6	2.3	1.6	3.5	0.4	1.1	32.8
	女性	1,890	46.8	28.9	29.2	16.1	6.6	6.8	9.4	9.3	7.5	3.6	3.8	3.3	3.4	0.2	1.3	1.3	28.1
年代別	20代	464	11.2	8.6	13.6	2.4	3.2	6.5	1.1	4.1	0.2	2.6	0.0	0.2	1.3	1.1	0.0	0.9	55.6
	30代	536	28.4	19.4	26.5	23.7	2.6	4.9	3.0	3.5	0.2	2.1	0.2	0.7	1.1	1.5	0.9	1.7	42.0
	40代	628	47.9	29.0	31.4	35.5	4.3	7.3	7.5	3.7	0.0	2.1	0.2	1.9	2.4	2.9	0.2	1.6	27.2
	50代	820	56.5	30.6	24.6	8.0	6.8	6.0	12.0	5.4	2.6	6.0	0.5	2.0	1.7	2.7	1.2	0.7	27.1
	60代	926	58.7	41.0	33.6	1.7	11.8	8.0	8.9	12.0	9.4	7.9	4.6	5.0	4.0	0.9	1.3	1.1	20.1
	70代	332	60.2	42.8	33.1	3.0	14.5	11.7	3.6	13.3	25.6	7.8	27.7	8.1	5.7	0.9	1.2	1.5	18.1
居住地別	伊集院地域	1,709	45.6	26.3	25.2	13.8	6.5	7.5	3.7	7.7	3.6	2.8	3.2	0.8	2.8	1.3	0.9	1.2	31.4
	東市来地域	1,027	40.2	25.9	24.0	11.0	7.8	7.2	8.3	6.2	5.6	5.4	4.7	4.6	2.4	1.5	0.7	1.3	33.9
	日吉地域	424	49.1	39.6	36.3	12.0	9.0	7.5	9.7	9.2	7.1	9.2	5.7	3.8	4.0	3.3	1.7	0.7	25.7
	吹上地域	587	56.7	38.3	34.2	10.2	7.3	5.5	12.6	4.6	8.5	7.7	3.6	5.1	1.5	2.2	0.7	1.4	23.3

注: 網掛けは、該当項目の中での1位、2位の数字

(2) 地区・自治会の健康づくり活動への参加経験

【問 62】地区・自治会の健康づくり活動に参加したことがありますか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

地区・自治会の健康づくり活動への参加経験をみると、「ゲートボール・グラウンドゴルフ」が14.9%、で最も高く、次いで「ウォーキング」(9.2%)、「いきいきサロン」(6.7%)、「体操教室」(5.2%)と続いている。

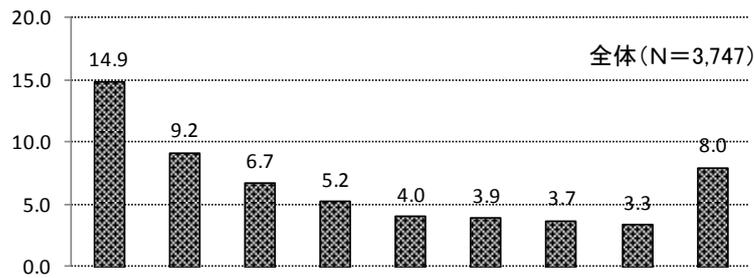
前回調査(選択肢が若干異なる)と比べて、概ね同様の結果となった。

性別にみると、「ゲートボール・グラウンドゴルフ」の割合が最も高いが、女性が男性に比べ「ウォーキング」、「いきいきサロン」など、多くの選択肢で高い割合となっている。

年代別にみると、70代で「いきいきサロン」が2番目に高く、「健康学習会」が12.3%と他の年代より高い割合となっている。

居住地別にみると、「ゲートボール・グラウンドゴルフ」、「ウォーキング」の上位2つは同様の結果だが、吹上地域の参加割合が高い。

地区・自治会の健康づくり活動への参加経験



(単位: %)		サンプル数	ゲートボール・グラ	ウォーキング	いきいきサロン	体操教室	運動教室	健康学習会	栄養教室	異世代間交流(世代を超えた交流)	その他
全体		3,747	14.9	9.2	6.7	5.2	4.0	3.9	3.7	3.3	8.0
性別	男性	1,708	16.1	8.1	2.8	1.4	2.3	2.5	1.7	2.8	9.3
	女性	1,890	13.2	10.2	9.9	8.4	5.6	5.2	5.4	3.9	7.0
年代別	20代	464	3.7	4.3	0.0	1.5	2.4	0.0	0.4	2.6	8.8
	30代	536	3.2	3.9	0.9	1.5	1.3	0.4	0.7	2.4	8.2
	40代	628	8.9	6.2	0.5	1.4	2.2	2.1	1.0	2.9	10.2
	50代	820	15.1	9.0	4.8	5.2	3.9	3.8	4.5	3.5	7.6
	60代	926	24.0	13.1	11.9	9.2	6.3	6.3	6.3	3.1	7.2
	70代	332	34.6	19.6	27.4	11.4	7.8	12.3	8.4	6.9	6.3
居住地別	伊集院地域	1,709	9.1	6.6	5.0	4.9	4.1	3.1	3.1	3.3	8.3
	東市来地域	1,027	14.9	9.4	7.4	3.5	3.1	4.6	3.3	2.9	8.4
	日吉地域	424	20.5	10.4	8.0	8.0	4.2	3.8	4.2	4.0	8.0
	吹上地域	587	27.8	15.3	9.7	7.0	5.1	5.3	5.8	3.6	6.3

注: 網掛けは、該当項目の中での1位、2位の数字

(3) 地区・自治会でやってほしいこと

【問 63】今後地区・自治会の健康づくり活動でやってほしいこと(続けてほしいこと)がありますか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

地区・自治会でやってほしいことをみると、「ウォーキング」(19.5%)が最も高く、次いで「運動教室」(16.0%)、「体操教室」(14.4%)、「ゲートボール・グラウンドゴルフ」(13.7%)となっている。

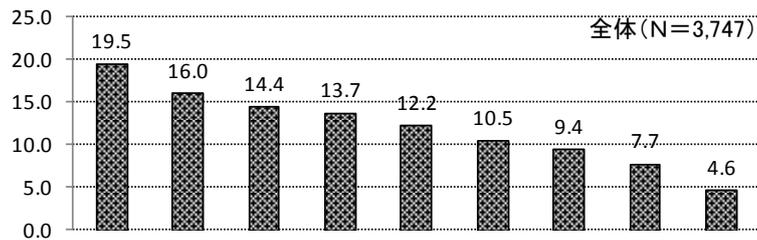
前回調査(選択肢が若干異なる)と比べると、「運動教室」、「体操教室」が「ゲートボール・グラウンドゴルフ」より高い割合となった。

性別にみると、男女とも「ウォーキング」がトップだが、男性では「ゲートボール・グラウンドゴルフ」、女性では「体操教室」が2番目に高い割合となっている。

年代別にみると、「ウォーキング」は共通して高い割合で、若い世代で「運動教室」、60代以上で「ゲートボール・グラウンドゴルフ」が上位となっている。

居住地域別にみると、「ウォーキング」に次いで2番目に、伊集院地域では「運動教室」、他の3地域は「ゲートボール・グラウンドゴルフ」となっている。

地区・自治会でやってほしいこと



(単位: %)		サンプル数	ウォーキング	運動教室	体操教室	ゲートボール・グラウンドゴルフ	栄養教室	健康学習会	いきいきサロン	異世代間交流(世代を超えた交流)	その他
全体		3,747	19.5	16.0	14.4	13.7	12.2	10.5	9.4	7.7	4.6
性別	男性	1,708	18.4	14.1	7.0	14.2	7.4	9.1	5.9	7.6	6.1
	女性	1,890	20.8	18.3	21.2	12.8	17.1	12.0	12.5	8.0	3.4
年代別	20代	464	11.6	15.5	9.9	6.7	9.5	4.1	3.7	7.1	6.3
	30代	536	14.9	15.1	8.6	6.0	8.6	4.5	5.4	7.6	4.1
	40代	628	17.5	16.6	11.3	7.8	8.9	6.5	4.5	7.0	4.9
	50代	820	21.3	18.5	17.2	13.8	14.5	13.0	9.0	8.0	4.5
	60代	926	24.1	15.7	19.3	20.7	15.2	14.7	12.4	8.1	4.9
	70代	332	24.1	13.3	16.3	28.6	14.5	18.4	26.8	8.4	3.0
居住地別	伊集院地域	1,709	19.3	17.8	14.7	9.5	12.1	10.4	8.2	8.4	5.1
	東市来地域	1,027	17.2	14.1	14.0	14.3	11.7	10.4	8.6	7.2	4.0
	日吉地域	424	20.0	15.3	16.5	19.1	14.2	11.6	13.4	8.5	5.7
	吹上地域	587	24.0	14.8	12.8	21.1	12.1	10.1	11.8	6.3	3.6

注: 網掛けは、該当項目の中の1位、2位の数字

(4) 現在の生きがい

【問 64】あなたは現在生きがいとしていることがありますか。どちらかに○をつけてください。

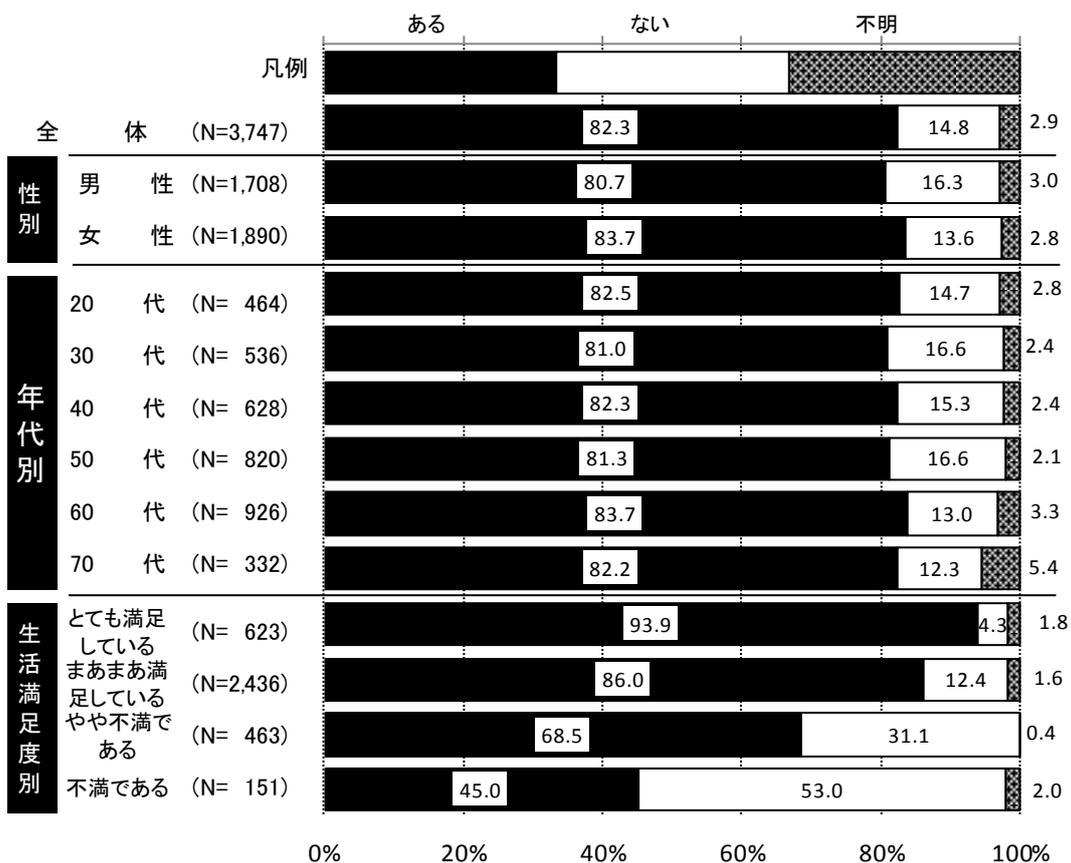
現在、生きがいがあるかどうか尋ねたところ、「ある」が 82.3%、「ない」が 14.8%であった。

前回調査と比べると、「ある」が5ポイント増加、「ない」は5.1ポイント減少している。

性別にみると、女性の方が男性より「ある」の割合が高くなっている。

生活満足度別にみると、「とても満足している」、「まあまあ満足している」と答えた人ほど「(生きがい) がある」と答える人が多い。「とても満足している」人の「ある」割合は 93.9%に達した反面、「不満である」人は 45.0%であった。生活満足度と現在の生きがいは相関関係にあるといえる。

現在の生きがいと生活満足度との関係



(5) 生きがいの内容

【問 64 附問】(【問 64】で「1. ある」と答えた方へ)

あなたが生きがいとしていることは何ですか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

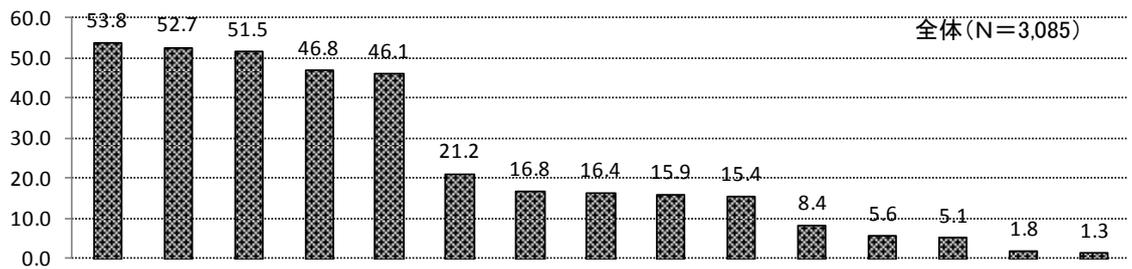
生きがいがあると答えた人(3,085人)の内容をみると、「家族との団らん・家族の幸せ」が53.8%で最も高く、以下、「子どもや孫の成長」(52.7%)、「趣味・旅行・レジャーを楽しむこと」(51.5%)、「働くこと・仕事をする事」(46.8%)、「友人・知人との交流」(46.1%)と続いた。

前回調査と比べると、上位5つは1位と2位が変わったものの同様の結果となった。

性別にみると、男性は「趣味・旅行・レジャーを楽しむこと」(51.3%)、女性は「家族との団らん・家族の幸せ」(60.0%)が1位となっている。

年代別にみると、トップは、50代以上が「子どもや孫の成長」、30~40代が「家族との団らん・家族の幸せ」、20代が「友人・知人との交流」である。上位5つ以外では、70代で「野菜づくり」(46.5%)、「近隣の人との交流」(40.7%)が高い割合となっている。

生きがいの内容



(単位: %)		サンプル数	家族との団らん・家族の幸せ	子どもや孫の成長	趣味・旅行・レジャーを楽しむこと	働くこと・仕事をする事	友人・知人との交流	スポーツ・運動すること	自分の能力を発揮すること	野菜づくり	勉強を高めること・勉強すること	近隣の人との交流	話や参加する行事の世帯活動・行事の世帯活動	ボランティア活動の参加	財産を蓄えること	信仰や宗教活動	その他
全体		3,085	53.8	52.7	51.5	46.8	46.1	21.2	16.8	16.4	15.9	15.4	8.4	5.6	5.1	1.8	1.3
性別	男性	1,379	47.7	47.7	51.3	50.7	36.9	26.7	19.2	18.5	15.7	13.2	9.1	5.5	5.1	1.2	1.4
	女性	1,581	60.0	57.1	52.2	42.9	54.3	16.4	14.4	13.9	16.3	16.7	7.4	5.5	5.4	2.3	1.3
年代別	20代	383	41.8	15.4	62.4	39.7	62.9	25.8	17.0	4.2	21.1	3.9	2.9	1.8	6.8	0.5	0.3
	30代	434	64.7	55.5	53.2	45.9	46.5	18.2	20.5	3.0	17.5	4.6	2.5	1.6	7.6	0.9	2.1
	40代	517	63.6	61.5	47.8	47.4	36.0	16.6	16.1	4.6	14.7	5.0	3.3	1.5	5.2	0.8	0.8
	50代	667	55.0	59.2	49.9	52.3	43.3	19.5	16.0	13.5	15.1	12.7	6.0	4.5	5.1	3.1	1.8
	60代	775	49.2	57.4	50.8	47.9	45.4	22.7	16.3	29.3	14.6	27.4	14.1	9.3	3.7	2.5	1.3
	70代	273	46.5	57.1	47.3	39.6	51.6	28.9	14.7	46.5	15.0	40.7	24.9	17.6	2.9	2.2	0.4

注: 網掛けは、該当項目の中での1位、2位の数字

(6) 現在の元気度

【問 65】あなたは現在元気だと思いますか。1つ選んで○をつけてください。

現在、元気かどうか尋ねたところ、「とても元気だと思う」(18.9%)、「まあまあ元気だと思う」(67.5%)、「あまり元気だと思わない」(9.2%)、「元気だと思わない」(2.6%)であった。

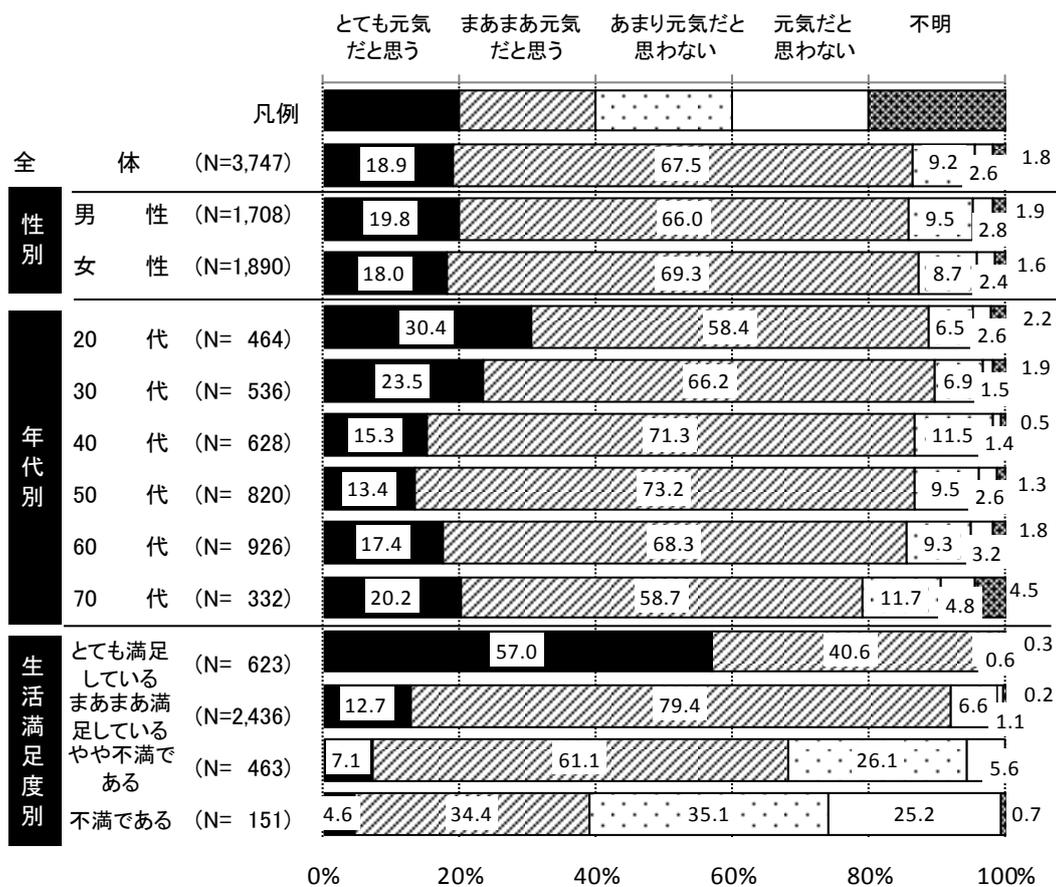
前回調査と比べると、「とても元気だと思う」、「まあまあ元気だと思う」が4.8ポイント増加し、「あまり元気だと思わない」、「元気だと思わない」が5.6ポイント減少している。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別にみると、年代が高くなるほど「あまり元気だと思わない」、「元気だと思わない」がやや多くみられる。

生活満足度別にみると、生活に満足している人ほど「とても元気だと思う」、「まあまあ元気だと思う」が多く、生活満足度と元気度は相関関係にあるといえる。

現在の元気度



(7) 現在の生活満足度

【問 66】あなたは現在の生活に満足していますか。1つ選んで○をつけてください。

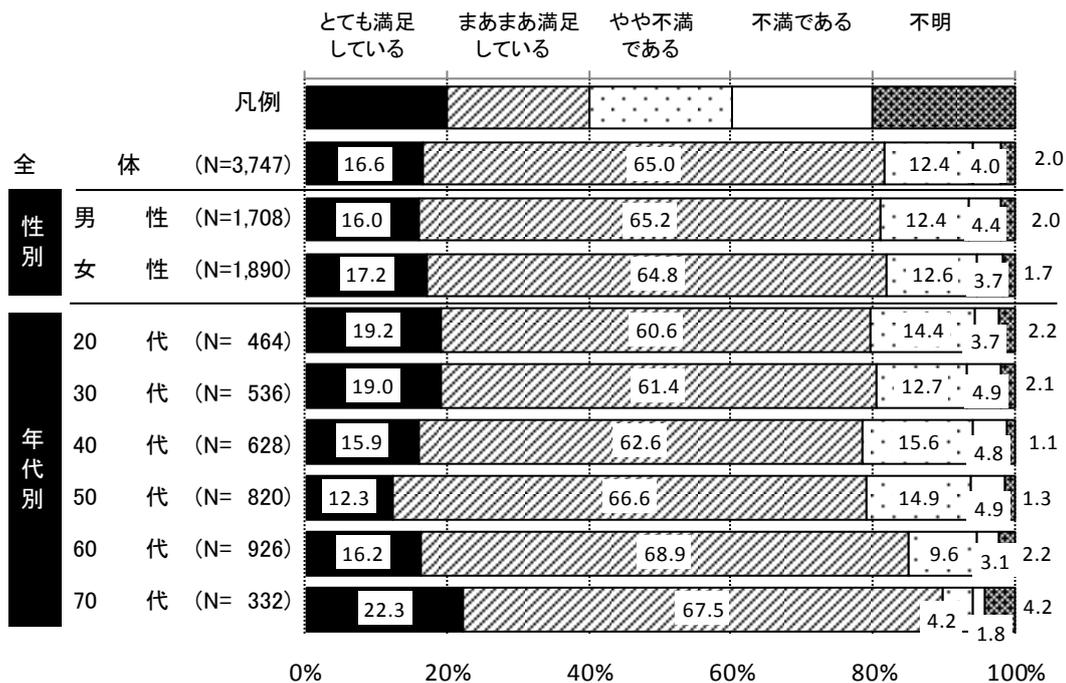
現在の生活満足度を尋ねたところ、「とても満足している」(16.6%)、「まあまあ満足している」(65.0%)、「やや不満である」(12.4%)、「不満である」(4.0%)であった。

前回調査と比べると、「とても満足している」、「まあまあ満足している」が5.4ポイント増加し、「やや不満である」、「不満である」が6ポイント減少している。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別にみると、70代では「とても満足している」、「まあまあ満足している」と答えた人が89.8%であった。

現在の生活満足度



(8) 現在の幸せ感

【問 67】あなたは現在幸せですか。1つ選んで○をつけてください。

現在、幸せかどうか尋ねたところ、「とても幸せである」(26.3%)、「まあまあ幸せである」(64.5%)、「あまり幸せでない」(5.5%)、「幸せでない」(1.7%)であった。

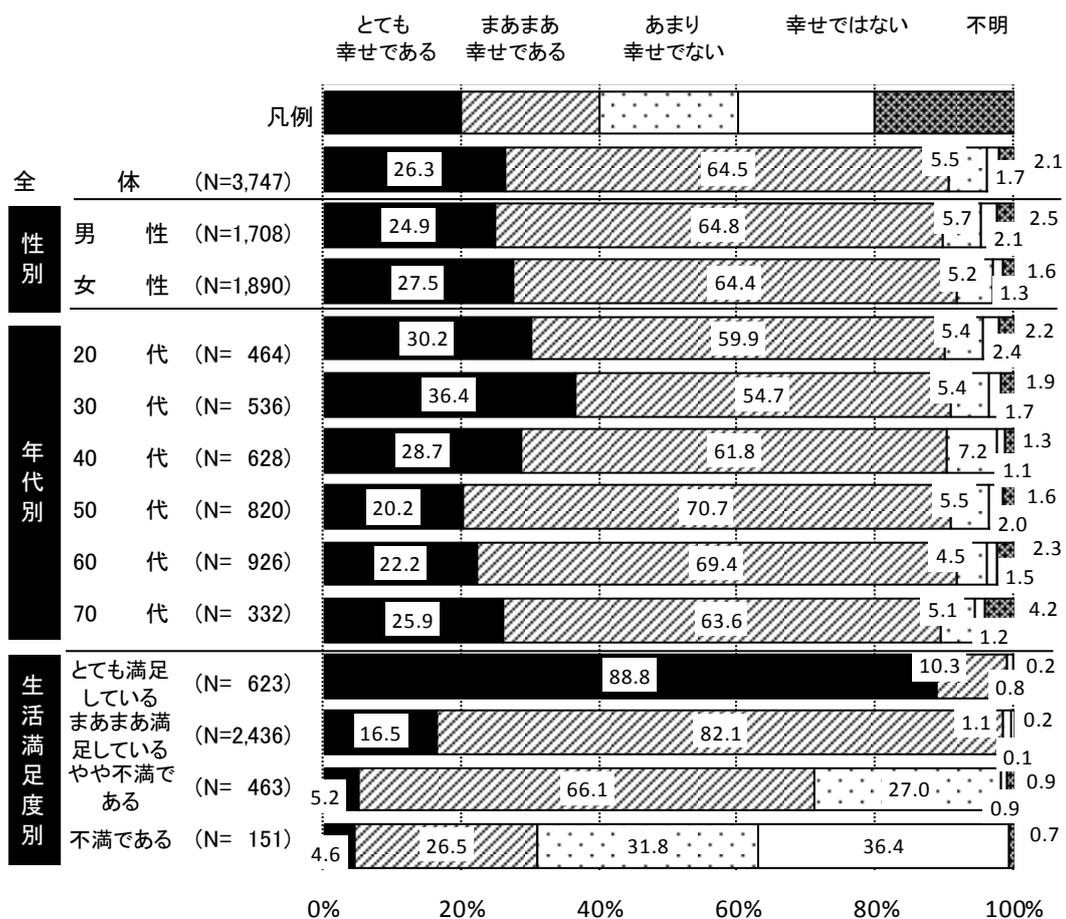
前回調査と比べると、「とても幸せである」、「まあまあ幸せである」が3.2ポイント増加し、「あまり幸せでない」、「幸せでない」が3.8ポイント減少している。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別にみると、年代が高くなるほど「あまり幸せでない」、「幸せでない」がやや多くみられる。

生活満足度別にみると、生活に満足している人ほど「とても幸せである」、「まあまあ幸せである」が多く、生活満足度と元気度は相関関係にあるといえる。

現在の幸せ感



○ 第2次「日置市『元気な市民づくり運動』推進計画」策定の主な経過

1. 日置市健康実態調査の実施

平成27年9月～10月

2. 健康づくり推進員グループインタビューの実施

生涯現役で豊かな人生をめざすために、10年後自分自身が生涯現役でいるために、自分でできること、地域でできることについてグループインタビューを実施。

ア 保健推進員

平成28年5月17日（東市来地域）

平成28年5月30日（伊集院地域）

平成28年5月31日（東市来地域）

平成28年6月2日（吹上地域）

イ 運動普及推進員

平成28年5月18日

ウ 母子保健推進員

平成28年5月23日

エ 食生活改善推進員

平成28年7月13日



3. 健康づくり推進協議会の開催

平成 28 年 9 月 15 日 (第 1 回)

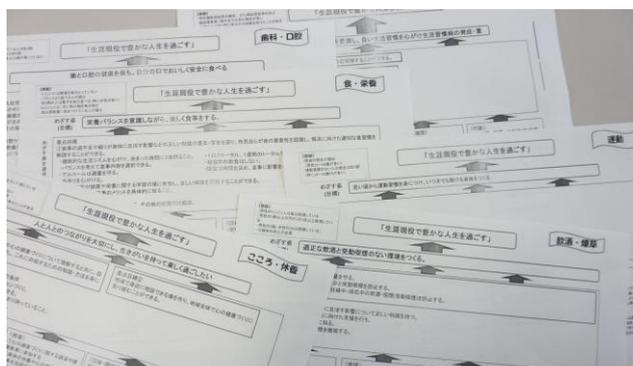
平成 29 年 1 月 31 日 (第 2 回)

平成 29 年 3 月 13 日 (第 3 回)



4. 健康づくり推進協議部会の開催

平成 28 年 11 月 29 日



5. パブリックコメントの実施

平成 29 年 2 月 10 日～3 月 6 日

○ 日置市健康づくり推進条例

平成24年10月2日

条例第24号

市民が住み慣れた地域において、性別、年齢、疾病や障がいの有無、生活水準にかかわらず、健やかに過ごすことができ、医療、介護等の福祉サービスを必要なときに安心して受けることができる社会保障制度を維持していくことは市民一人一人の願いです。

一方で、少子高齢化が急速に進行する近年の地域社会においては、がん、心疾患、脳卒中、糖尿病等の生活習慣病の増加を始め、生活習慣病の重症化に起因する身体的・精神的機能の低下により障がいや要介護状態となる市民が年々増加する傾向にあります。今後も、この傾向は続くことが予測されることから、生活習慣病を発症する前からの心身の状態に応じた健康づくりが重要となってきています。

これらの課題を解決するためには、市が公的責任を果たし、市民の心身の健康の保持増進を図り、ひいては市民一人一人の生活の質を向上させていくための取組を推進するとともに、市民、医療関係者、事業者、自治会、地区自治公民館、地域団体等も自助・互助・共助の役割を認識し、協働して健康づくりを推進していくことが必要です。

このような認識に基づき、市民が生涯を通して健やかで豊かに過ごすことを基本としつつ、市全体で現状や課題を共有し、協働して健康づくりの取組を推進していくことを目的として、この条例を制定します。

(目的)

第1条 この条例は、急速な高齢化の進展、疾病構造の変化等による医療費等の社会保障費の増大に伴い、市民の健康の保持増進の重要性が増大していることに鑑み、市民の健康づくりの推進に対する市の責務及び市民、医療関係者等の役割を明らかにするとともに、社会全体が一体となって、市民一人一人の健康づくりの取組を支援することにより、健康づくりの総合的かつ計画的な推進及び市の健全な財政運営に基づく社会保障制度の維持を図り、もって全ての市民が健やかに安心して生活することができる社会の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 健康づくり 市民が生涯にわたって健やかで充実した生活を送ることができるよう、その性別、年齢、心身の状態等に応じた健康の保持及び増進を図るための適切かつ継続的な取組をいう。
- (2) 医療関係者 医療保険者、医療提供施設、医師、歯科医師、薬剤師その他の医療の担い手をいう。
- (3) 事業者 市内において事業活動を行う者をいう。
- (4) 自治会 地方自治法(昭和22年法律第67号)第260条の2第1項に規定する地縁による団体をいう。

- (5) 地区自治公民館 日置市地区公民館条例(平成23年日置市条例第3号)に定める地区公民館の地区ごとに、当該地区に属する自治会その他の公的団体で構成する組織をいう。
- (6) 地域団体 保健推進員等(市長が別に定めるところにより設置する保健推進員、母子保健推進員、食生活改善推進員及び運動普及推進員をいう。第10条において同じ。)、女性団体、高齢者団体、NPO法人(特定非営利活動促進法(平成10年法律第7号)第2条第2項に規定する特定非営利活動法人をいう。)、スポーツ推進委員(スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第32条第1項に規定するスポーツ推進委員をいう。)その他市民等で構成される営利を目的としない団体で、自治会及び地区自治公民館を除くものをいう。

(解釈及び適用)

第3条 この条例は、市民の健康の保持及び増進を図るためにのみ適用するものであって、これを拡張して解釈し、市民の自由及び権利を不当に制限するものであってはならない。

(市の責務)

第4条 市は、国、鹿児島県、他の地方公共団体等との連携及び市民、医療関係者、事業者、自治会、地区自治公民館、地域団体等との協働により、市民の生涯にわたる健康づくりの推進に関する施策を効果的かつ継続的に推進しなければならない。

- 2 市は、市民の生涯にわたる健康づくりの推進のために必要な財政上の措置を講ずるものとする。
- 3 市は、各種施策の実施に当たっては、市民の生涯にわたる健康づくりの推進に配慮するよう努めなければならない。
- 4 市は、健康づくりの推進に関する情報の収集、分析、評価及び提供に努めなければならない。

(市民の役割)

第5条 市民は、自らの心身の状態に応じ、生涯にわたって食生活、運動、休養等の健康づくりに関する適切な生活習慣の確立に努めるものとする。

- 2 市民は、健康診査、がん検診、歯科検診その他の健康診断(以下「健康診査等」という。)を積極的に受診し、自らの心身の状態を把握し、健康づくりに努めるものとする。
- 3 市民は、医師又は歯科医師に適宜相談し、又は指導若しくは治療を受ける等必要に応じ、医療関係者の支援を受けるよう努めるものとする。
- 4 市民は、相互に生涯にわたる健康づくりを推進していく役割を有するものとする。

(医療関係者の役割)

第6条 医療関係者は、健康づくりの推進に当たっては、保健指導、健康診査等、治療その他の保健医療サービスを市民が適切に受けられるよう配慮するものとする。

- 2 医療関係者は、市民に対し必要に応じ適切な受診に関する助言を行うよう努めるものとする。
- 3 医療関係者は、市民に対し必要に応じ後発医薬品(保険医療機関及び保険医療養担当規則(昭和32年厚生省令第15号)第20条第2号ニに規定する後発医薬品をいう。)に関する情報の提供に努めるものとする。

(事業者の役割)

第7条 事業者は、地域社会の一員として、市民の生涯にわたる健康づくりの推進に協力するように努めるものとする。

2 事業者は、その使用する者の健康づくりの推進に必要な環境の整備その他の便宜の供与に努めるものとする。

(自治会及び地区自治公民館並びに地域団体の役割)

第8条 自治会及び地区自治公民館は、市と連携して地域の特性に応じた健康づくりの推進及び安心して生活することができる地域づくりに努めるものとする。

2 自治会及び地区自治公民館は、市民が健康づくりを推進するために必要な環境の整備及び支援に努めるものとする。

3 地域団体は、市民の健康づくりを推進するため、健康づくりに関する活動に積極的に取り組むよう努めるとともに、他の地域団体等が行う健康づくりに関する活動及び市が実施する健康づくりの推進に関する施策に協力するよう努めるものとする。

(連携協働等)

第9条 市民、医療関係者、事業所、自治会、地区自治公民館及び地域団体は、あらゆる場所又は機会を通じて情報の共有を図り、相互に連携協働して健康づくりの推進に努めるものとする。

2 医療関係者、事業所、自治会、地区自治公民館及び地域団体は、前項の規定により共有する情報を、健康づくりの推進のためにのみ収集し、保管し、及び使用しなければならない。

(元気な市民づくり運動推進計画)

第10条 市長は、健康増進法(平成14年法律第103号。以下「法」という。)第8条第2項の規定により健康増進計画(以下「元気な市民づくり運動推進計画」という。)を定めるものとする。

2 元気な市民づくり運動推進計画には、法第7条第1項に規定する基本方針及び法第8条第1項の規定により鹿児島県が定めた健康増進計画を勘案して定める事項のほか、次の各号に掲げる事項を定めるものとし、これらの事項を推進するに当たり、当該各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める施策を実施するものとする。この場合において、市長は、これらの施策ごとに具体的な目標数値を掲げるよう努めるものとする。

(1) 健康診査等の受診率の向上に関する事項 次に掲げる施策

ア 受診の必要性及び重要性に関する啓発に関すること。

イ 保健推進員等に対する健康づくりの推進に必要な研修に関すること。

ウ 医療関係者等との連携協力に関すること。

エ アからウまでに掲げるもののほか、必要な施策

(2) 自治会、地区自治公民館及び市民と市とが協働して取り組む健康づくりに関する事項 次に掲げる施策

ア 地域組織の構築及び環境整備に関すること。

イ 市民が参加する健康づくり推進活動に対する専門的指導又は支援に関すること。

ウ 元気な市民づくり運動推進計画の普及及び啓発に関すること。

エ アからウまでに掲げるもののほか、必要な施策

(3) 国民健康保険の医療費の適正化に関する事項 次に掲げる施策

ア 特定健康診査及び特定保健指導の効果的かつ効率的な実施に関すること。

イ 生活習慣病等の重症化の予防に関すること。

ウ 受診、受診行動等に関する分析、評価及び検討に関すること。

エ ウに規定する受診行動等に関する分析、評価及び検討の結果、必要と認められる者に対して行う調査、助言及び保健指導に関すること。

オ アからエまでに掲げるもののほか、必要な施策

(4) 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項 市長が必要と認める施策

3 市長は、元気な市民づくり運動推進計画を定めようとするときは、あらかじめ第12条に規定する日置市健康づくり推進協議会の意見を聴かなければならない。この場合において、前項第3号に掲げる事項にあっては、当該協議会の意見を聴くほか、日置市国民健康保険運営協議会(日置市国民健康保険条例(平成17年日置市条例第133号)第2条に規定する協議会をいう。)の意見も聴かなければならない。

4 市長は、元気な市民づくり運動推進計画を定めたときは、遅滞なくこれを公表しなければならない。

5 前2項の規定は、元気な市民づくり運動推進計画の変更(軽微な変更を除く。)について準用する。

(成果の公表)

第11条 市長は、前条第2項後段の規定により掲げた目標数値に対する施策の成果を事業年度終了後、遅滞なく公表しなければならない。

(健康づくり推進協議会)

第12条 市民の健康づくりの推進を図るため、日置市健康づくり推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

2 協議会は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 元気な市民づくり運動推進計画の策定及び変更に関すること。

(2) 前号に掲げるもののほか、市民の健康づくりの推進に関し必要な事項

3 協議会は、市民の健康づくりの推進に関し必要な事項について、市長に意見を述べることができる。

4 前3項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、規則で定める。

(委任)

第13条 この条例に定めるもののほか必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、第12条及び附則第4項の規定は、平成25

年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に法第8条第2項の規定により定められている健康増進計画は、第10条第1項の規定により定められた元気な市民づくり運動推進計画とみなす。

3 この条例の施行の日以後附則第1項ただし書に規定する日までの間における第10条第3項の規定の適用については、同項中「第12条に規定する日置市健康づくり推進協議会」とあるのは、「市長が別に定めるところにより設置した協議会」とする。

(日置市報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

4 日置市報酬及び費用弁償に関する条例(平成17年日置市条例第45号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

○ 日置市健康づくり推進協議会規則

平成24年12月14日

規則第51号

改正 平成26年6月25日規則第19号

(趣旨)

第1条 この規則は、日置市健康づくり推進条例(平成24年日置市条例第24号。以下「条例」という。)第12条第4項の規定に基づき、日置市健康づくり推進協議会(以下「協議会」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織及び任期)

第2条 協議会は、委員30人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者をもって充てる。

- (1) 保健医療福祉関係団体のうちから市長が任命した者
- (2) 教育関係団体のうちから市長が任命した者
- (3) 各種団体等のうちから市長が任命した者
- (4) 関係行政機関のうちから市長が任命した者
- (5) 条例第2条第6号の市長が別に定めるところにより設置する保健推進員、母子保健推進員、食生活改善推進員及び運動普及推進員のうちからそれぞれ市長が任命した者
- (6) 学識経験者として市長が任命した者
- (7) 公募に応じた市民のうちから市長が任命した者
- (8) 市の職員のうちから市長が指名した者

3 前項第1号から第4号まで及び第8号に掲げる委員の任期は当該各号の職に在る期間とし、その他の委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第3条 協議会に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が必要に応じて招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

3 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 議長は、委員として議決に加わる権利を有しない。

6 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(推進部会)

第5条 条例第12条第2項に規定する協議会の審議事項を具体的かつ専門的に審議するため、協議会に健康づくり推進部会(以下「部会」という。)を設置する。

2 部会は、会長の命により、次に掲げる事項について調査及び審議し、その結果を会長に報告するものとする。

(1) 条例第12条第2項に規定する協議会の審議事項に関すること。

(2) 協議会における懸案事項に関すること。

(3) 前2号に掲げるもののほか、必要な事項

3 部会は、部会員50人以内で組織する。

4 部会員は、委員からの推薦に基づき、会長が指名するものとする。

5 前各項に定めるもののほか、部会に関し必要な事項は、協議会が定める。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、市民福祉部健康保険課において処理する。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、協議会が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日以後最初に任命された第2条第2項第5号及び第6号に掲げる委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成26年7月31日までとする。

3 この規則の施行の日以後の最初の会議は、第4条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

附 則(平成26年6月25日規則第19号)

この規則は、平成26年8月1日から施行する。

○ 日置市健康づくり推進協議会委員名簿

	所属団体等	氏名	備考
1	日置市医師会	本庄 茂	
2	いちき串木野日置歯科医師会	林田 賢一	
3	日置市民生委員・児童委員協議会	前田 純正	(前委員) 窪田 繁
4	日置市社会福祉協議会	井上 幸一	
5	日置市PTA連絡協議会	松永 綾子	
6	日置市養護教諭部会	春内 由紀	
7	日置市栄養教諭部会	西村 由美子	
8	日置市自治会長連絡協議会	岩下 方義	(前委員) 佐多 申至
9	日置市地区公民館長連絡会	山口 義光	
10	日置市高齢者クラブ連合会	上妻 勲	
11	日置市地域女性連絡協議会	横山 公代	
12	日置市体育協会	下笠 政文	
13	日置市商工会	西 陽三	
14	市内企業	田原 一隆	
15	日置市生活研究グループ	迫 千穂子	
16	さつま日置農業協同組合女性部	鉾之原 法子	
17	日置市食生活改善推進員連絡協議会	満留 裕子	
18	日置市保健推進員	井ノ上 真澄美	
19	日置市運動普及推進員	金井トキ子	
20	日置市母子保健推進員	志摩 喜代子	
21	鹿児島県地域振興局保健福祉環境部	宇田 英典	
22	公募委員	長谷川 信	
23	日置市	小園 義徳	
24	日置市教育委員会	田代 宗夫	
25	日置市市民福祉部	野崎 博志	
26	日置市産業建設部	瀬川 利英	

○ 日置市健康づくり推進協議部会名簿

	所属団体等	氏名	分科会
1	日置市医師会	永山 徳太郎	生活習慣病
2	いちき串木野日置歯科医師会	林田 賢一	歯科・口腔
3	日置市民生委員・児童委員協議会	窪田 繁	心・休養
4	日置市社会福祉協議会	内田 隆志	心・休養
5	日置市PTA連絡協議会	松永 綾子	心・休養
6	日置市養護教諭部会	春内 由紀	心・休養
7	日置市栄養教諭	西村 由美子	食・栄養
8	日置市高齢者クラブ連合会	上妻 勲	歯科・口腔
9	日置市地域女性連絡協議会	横山 公代	飲酒・喫煙
10	日置市体育協会	下笠 政文	運動
11	日置市商工会	泊 敏行	飲酒・喫煙
12	日置市生活研究グループ	迫 千穂子	生活習慣病
13	さつま日置農業協同組合女性部	鉾之原 法子	食・栄養
14	日置市食生活改善推進員連絡協議会	満留 裕子	食・栄養
15	日置市保健推進員	井ノ上 真澄美	生活習慣病
16	日置市運動普及推進員	金井 トキ子	運動
17	日置市母子保健推進員	志摩 喜代子	心・休養
18	日置市在宅歯科衛生士会	遠矢 政子	歯科・口腔
19	日置市保育協議会	鮫島 尊美	歯科・口腔
20	チェスト伊集院	船倉 祥子	運動
21	シルバー人材センター	瀬戸口 保	生活習慣病
22	日置市自治会長連絡協議会（東市来地域）	岩下 方義	運動
23	日置市自治会長連絡協議会（伊集院地域）	佐多 申至	飲酒・喫煙
24	日置市自治会長連絡協議会（日吉地域）	笠野 和幸	生活習慣病
25	日置市自治会長連絡協議会（吹上地域）	窪田 和洋	食・栄養

(前頁より続く)

	所属団体等	氏名	分科会
26	日置市地区公民館支援員(東市来地域)	田丸 幸徳	食・栄養
27	日置市地区公民館支援員(伊集院地域)	清藤 英人	生活習慣病
28	日置市地区公民館支援員(日吉地域)	東穂 久司	運動
29	日置市地区公民館支援員(吹上地域)	馬場 一郎	飲酒・喫煙
30	鹿児島地域振興局 健康企画課	堀之内 広子	飲酒・喫煙
31	鹿児島地域振興局 健康企画課	松田 みどり	食・栄養
32	鹿児島地域振興局 地域福祉課	和田 安代	心・休養
33	日置市役所 総務課	瀬戸口 亮	心・休養
34	日置市役所 企画課	上之原 誠	生活習慣病
35	日置市役所 地域づくり課	有村 弘貴	運動
36	日置市役所 商工観光課	久木崎 勇	飲酒・喫煙
37	日置市役所 福祉課	東 正和	歯科・口腔
38	日置市役所 福祉課	石澤 友理	心・休養
39	日置市役所 福祉課	福留 明博	歯科・口腔
40	日置市役所 介護保険課	宮前 美紀	歯科・口腔
41	日置市役所 農林水産課	城ヶ崎 正吾	食・栄養
42	日置市役所 建設課	迫田 利隆	運動
43	日置市役所 学校教育課	藤川 等志	食・栄養
44	日置市役所 社会教育課	梅北 浩一	飲酒・喫煙
45	日置市役所 社会教育課	松岡 政仁	運動